

宮城県文化財調査報告書第 229 集

宮城県文化財調査報告書第 229 集

# 須江瓦山 A 窯跡

須江瓦山 A 窯跡

平成二十四年三月

平成 24 年 3 月

宮城県教育委員会  
東北電力株式会社

東宮  
北城  
電力教  
株式委  
員會  
社会

# 須江瓦山 A 窯跡



## 序 文

平成 23 年 3 月 11 日に発生し、太平洋沿岸部を中心に未曾有の被害をもたらした東日本大震災では、本県の文化財も甚大な被害を受けました。地域において守り伝えられてきた文化財は、現代を生きるわれわれと過去や未来を生きる人々、そして地域とともに生きる人々を結びつけるものであります。大震災以降、自己と他者、そして地域との結びつきが重要視されているなかで、文化財を保存し活用する取り組みにより、身近な地域の個性豊かな風土や歴史的な価値を再発見し、人々と地域がより密接に結びついた、より豊かで魅力ある社会が形成されていくものと期待されます。

本書は、東北電力株式会社との保存協議に基づき、石巻変電所 154/66kV 主要変圧器設置工事に先立って実施した石巻市須江瓦山 A 窯跡の発掘調査報告書です。本書が広く県民の皆様や各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の保存に理解を示され、発掘調査に際しては多大なるご協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際の調査にあたられた皆様に対し、厚く御礼申し上げる次第です。

平成 24 年 3 月

宮城県教育委員会

教育長 小林伸一



## 例　　言

1. 本書は、東北電力株式会社石巻変電所 154/66kV 主要変圧器設置工事に伴う須江瓦山 A 窟跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、平成 22 年度が石巻市教育委員会を主体とし、石巻市教育委員会歴史文化資料展示施設整備対策室が担当、平成 23 年度が宮城県教育委員会を主体とし、宮城県教育庁文化財保護課が担当した。
3. 発掘調査および資料整理・報告書の作成に際しては、以下の方々および機関からご指導・ご助言、ご協力を賜った（五十音順、敬称略）。

東北電力株式会社 石巻市須江地区行政委員

浅野鐵雄 市川康昭 堀内光次郎 菊地逸夫 佐々木智聰 佐藤敏幸 千葉孝弥

中野裕平 平塚幸人 藤沼邦彦 誓田慶信 宮本 穀 柳澤和明 山口博之

4. 本書の第 2 図は、国土交通省国土地理院発行の数値地図 25000（地図画像）『広淵』『石巻』『涌谷』『飯野川』を使用した。

5. 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第 X 系による。なお、方位は座標北を表している。

6. 本書で使用した遺構・層位略号は以下の通りである。

SB: 据立柱建物跡 SD: 溝跡・沢跡・自然流路跡 SE: 井戸跡 SK: 土坑 SR: 窟跡

SX: 焼け面・性格不明遺構 P: 柱穴、小穴

7. 遺構図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下のとおりである。

断面図: 1/60

8. 土色の記述にあたっては、『新版 標準土色帖 1996 年版』（小山・竹原: 1996）を用いている。

9. 井戸跡の一部については、作業の安全を優先したため、深さが 2m を超えるものについて底面まで完掘していない。なお、掘削底面から概ね 2m までハンドオーガーを用いたボーリング調査を行い、深さを確認している。

10. 遺物図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下のとおりである。

土器・土製品・陶磁器: 1/3 石器・石製品: 1/2, 1/3 瓦: 1/4, 1/5

11. 石器・石製品の石材鑑定は、一部を東北大学東北アジア研究センターの宮本 穀氏に依頼した。

12. 遺物の写真撮影は、(株) アートプロフィールに委託して行った。

13. 木製品および柱材、土壤の放射性炭素年代測定は、(株) 加速器分析研究所に委託してを行い、その成果を付章として本書に収録した。

14. 本書の遺構・遺物図版は、小野章太郎・武田裕光・鈴木啓司・濱中一道・木村奈保美・古川史佳・伊藤美代子・加藤明日香・鎌田理恵が作成した。

15. 付章を除く本書の執筆・編集は、調査担当者との協議の後に小野章太郎が行った。

16. 本遺跡の調査成果については、現地説明会や宮城県遺跡調査成果発表会などでその内容の一部を

公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合には、本書がこれらに優先する。

17. 発掘調査の記録や出土遺物は、宮城県教育委員会が保管している。

## 調査要項

遺跡名：須江瓦山 A 墓跡（宮城県遺跡地名表登載番号 No. 69002） 遺跡記号：WB

所在地：宮城県石巻市須江字釜

調査原因：東北電力株式会社石巻変電所 154/66kV 主要変圧器設置工事に伴う発掘調査

調査面積：約 5,600m<sup>2</sup>

（平成 22 年度調査）

調査主体：石巻市教育委員会

調査担当：石巻市教育委員会歴史文化資料展示施設整備対策室

調査期間：平成 22 年 8 月 3 日～平成 23 年 1 月 23 日

調査員：木暮 亮

（平成 23 年度調査）

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査期間：平成 23 年 7 月 4 日～12 月 1 日

調査員：小野章太郎 武田裕光 濱中一道 古田和誠 鈴木啓司

## 目 次

序 文  
例 言  
目 次

第1章 遺跡の概要.....	1
1. 遺跡の位置と地理的環境 .....	1
2. 歴史的環境 .....	1
第2章 調査に至る経緯と調査方法.....	5
1. 調査に至る経緯 .....	5
2. 調査の方法と経過 .....	7
3. 基本層序 .....	7
第3章 発見した遺構と遺物.....	9
A. 平成 22 年度調査.....	9
B. 平成 23 年度調査 .....	10
1. 堀立柱建物跡 .....	11
2. 井戸跡 .....	23
3. 土坑 .....	29
4. 溝跡・自然流路跡 .....	33
5. 瓦生産関連遺構 .....	33
6. その他の出土遺物 .....	39
第4章 総括.....	54
1. 遺構の特徴と年代 .....	54
2. 中世以降における集落の様相 .....	55
3. 栓瓦の生産と関連遺構 .....	58
4.まとめ .....	61

### 引用・参考文献

付章 須江瓦山 A 窯跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

写真図版

報告書抄録

## 図 目 次

第1図	須江瓦山 A 空跡の位置	1
第2図	須江瓦山 A 空跡の位置と周辺の遺跡	2
第3図	周辺の遺跡	3
第4図	調査区の位置と周辺の地形	4
第5図	平成23年度調査区全体図	6
第6-1図	基本層序図	8
第6-2図	II区西・西壁断面写真（基本層序）	8
第7-1図	SD200・201 沢跡ほか平面図	9
第7-2図	SD200 沢跡・SD202 溝跡断面図	10
第8-1図	造構配置図（西側）	12
第8-2図	造構配置図（北側）	13
第8-3図	造構配置図（南側）	14
第8-4図	造構配置図（東側）	15
第9図	中央部建物跡群平面図	16
第10図	西側建物跡群平面図・断面図	18
第11-1図	東側建物跡群平面図	20
第11-2図	東側建物跡群平面図・断面図	21
第12図	SE16 井戸跡、SK13 土坑ほか平面図・断面図	24
第13図	SE12 井戸跡平面図・断面図	26
第14図	井戸跡断面図	27
第15-1図	SK10 土坑ほか平面図	30
第15-2図	SK10 土坑ほか断面図	31
第16図	SR5 空跡、SK51・53・69 土坑ほか平面図・断面図	34
第17図	SK6・7・8・9 土坑平面図・断面図	36
第18-1図	中世の遺物（陶器・青磁・青白磁）	40
第18-2図	中世・近世の遺物（陶器）	41
第18-3図	近世の遺物（磁器）	42
第18-4図	中世・近世の遺物（木製品・金属製品・石製品）	43
第19図	SR5 空跡出土瓦	44
第20-1図	瓦廐棄土坑ほか出土瓦(1)	45
第20-2図	瓦廐棄土坑ほか出土瓦(2)	46
第20-3図	瓦廐棄土坑ほか出土瓦(3)	47
第20-4図	瓦廐棄土坑ほか出土瓦(4)	48
第20-5図	瓦廐棄土坑ほか出土瓦(5)	49
第21図	瓦廐棄土坑出土瓦質土器	49
第22図	瓦廐棄土坑出土瓦質土製品	50
第23図	瓦廐棄土坑出土陶磁器	51
第24図	奈良・平安時代の遺物	52
第25図	縄文時代の遺物	53
第26-1図	建物跡群の変遷（中世）	56
第26-2図	建物跡群の変遷（18世紀以降）	57
第27図	達磨窯の構造模式図と SR5 空跡	58

第28図	秋田県寺内焼窯跡で検出された達磨窯跡	59
第29図	瓦廐棄土坑の位置と出土した瓦・窯構造材の重量	60

## 表 目 次

第1表	遺跡地名表	3
第2表	西側建物跡群土層観察表	19
第3表	建物跡一覧表	22
第4表	SE16 井戸跡、SK13 土坑ほか土層観察表	25
第5-1表	井戸跡土層観察表	28
第5-2表	井戸跡土層観察表・一覧表	29
第6表	土坑・溝跡・自然流路跡一覧表	32
第7表	瓦廐跡・瓦廐棄土坑ほか土層観察表	35
第8表	瓦廐棄土坑土層観察表	37

## 写真図版目次

図版1	調査区全景(1)	68
図版2	調査区全景(2)	69
図版3	掘立柱建物跡	70
図版4	SE12・16 井戸跡、SK13 土坑、S D 14・17・19・20 自然流路跡	71
図版5	SE12 井戸跡、SK13 土坑	72
図版6	SE36・43・56・96 井戸跡	73
図版7	S K 10 土坑・S D 24・27・29・32 自然流路跡	74
図版8	SR5 空跡	75
図版9	SK6・69 土坑	76
図版10	SK7～9・51 土坑	77
図版11	平成22年度確認調査	78
図版12	中世の遺物（陶磁器）	79
図版13	近世の遺物（陶器）	80
図版14	近世の遺物（磁器）	81
図版15	中世～近代の遺物（石製品・金属製品・木製品・柱材・礎）	82
図版16	瓦廐跡と瓦廐棄土坑出土瓦・瓦質土器・土製品・煉瓦・粘土塊	83
図版17	S R 5 空跡および瓦廐棄土坑出土瓦	84
図版18	瓦廐棄土坑ほか出土瓦	85
図版19	瓦廐棄土坑出土瓦	86
図版20	瓦廐棄土坑出土瓦	87
図版21	瓦廐棄土坑出土瓦・陶磁器・石製品	88
図版22	瓦廐棄土坑出土瓦質土器・土製品	89
図版23	縄文時代・奈良・平安時代の遺物	90

## 第1章 遺跡の概要

### 1. 遺跡の位置と地理的環境

須江瓦山A窯跡は、石巻市須江字釜ほかに所在し（第1・2図）、旧北上川の右岸にある須江丘陵上に位置する。この丘陵は南北約4.5km、東西約1.3kmの南北に長い独立丘陵である。南北に二分され、その北側の丘陵上に遺跡は位置する。この丘陵の西には筑岳丘陵から続く旭山丘陵があり、北には和潤山と共に連なる丘陵がある。

遺跡の位置する須江丘陵は、新第三紀中新世の追戸層の一部である景山礫岩部層を基盤とする。本部層を構成する礫岩は黒色粘板岩～縞状頁岩や砂岩、花崗岩質岩などからなる。上位には不整合に覆う表沢層（鮮新世）が分布し、おもに砂岩とシルト岩、礫岩の互層からなる。さらに上位には表沢層と整合関係にある俵庭層（鮮新世）が覆い、おもに砂質シルト岩と砂岩の互層からなり、上部に粘土質シルト岩が発達している。また、丘陵東部には段丘堆積物がわずかに分布する。これらは、おもに礫層および礫質砂層からなり、安山岩や砂岩、凝灰岩、シルト岩などを含む。この段丘の形成年代は第四紀更新世下末吉期以前のもとされる（滝沢ほか 1984）。



第1図 須江瓦山A窯跡の位置

### 2. 歴史的環境

須江丘陵上およびその周辺で人間の生活痕跡が確認されるようになるのは、縄文時代になってからである。須江丘陵上に所在する縄文時代の遺跡としては、関ノ入遺跡や須江糠塚遺跡、代官山遺跡などがあり、縄文時代前期～後期の遺物が出土しているが、いずれも遺物がわずかに出土している程度で集落等の様相は不明である。

古墳時代になると、集落の様相がより明確になる。この時期の遺構としては、須江糠塚遺跡で前期の堅穴住居跡（河南町教育委員会 1988）、関ノ入遺跡で前期と後期の住居跡（河南町教育委員会 1993b・2000・2004）が検出されている。また、丘陵下の自然堤防上にある新山崎遺跡では前期の方形周溝墓群が発見されている（石巻市教育委員会 2000）。

奈良・平安時代になると、須江丘陵上に瓦窯や須恵器窯が展開するようになる。古くから瓦や須恵器の生産地として知られており、本遺跡が所在する「瓦山」という地区名もこれに由来するという言い伝えがある。本遺跡は、かつて伊東信雄氏と内藤政恒氏が踏査に訪れ、古代の瓦や須恵器の窯跡



第2図 須江瓦山A塚跡の位置と周辺の遺跡

第1表 遺跡地名表（番号は第2図に対応）

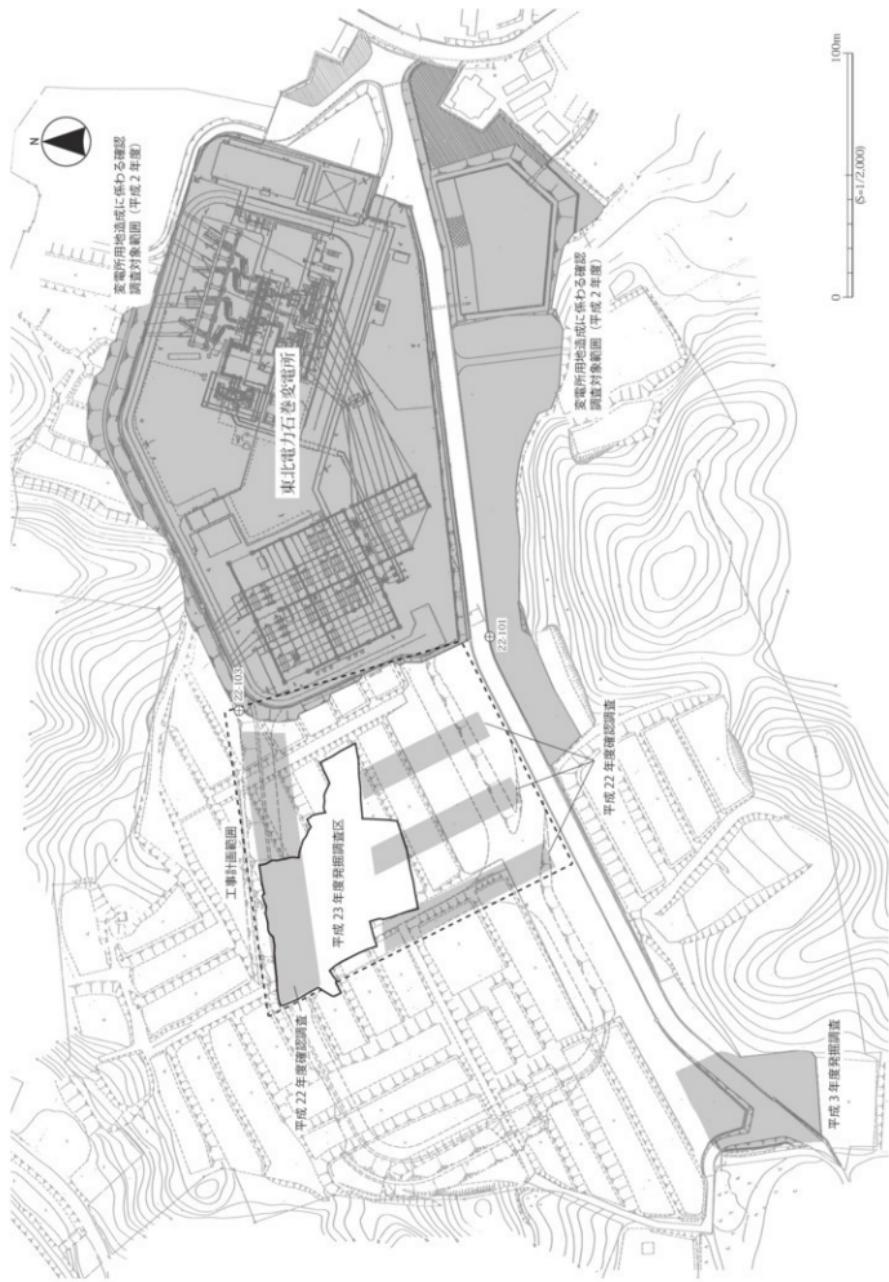
番号	遺跡名	立地	種別	時代	番号	遺跡名	立地	種別	時代	
1	済江其山 A 宮跡	丘陵	集落	奈良・平安	25	若吉城跡	丘陵	城郭	中世	
2	若吉城跡 墓塚A-1山腹跡	丘陵	集落・墓塚	漢文・(中)・古墳(前)・奈良・平安・中世	26	神取山城跡	丘陵	城郭	中世	
3	綿田遺跡	丘陵斜面	散布地	集落・墓塚・古墳	27	神取殿山坐跡	丘陵斜面	集落	古世	
4	塙野山城跡	丘陵	城郭	中世	28	桃生城跡	丘陵	城郭	古代	
5	代官山遺跡	丘陵	散布地	漢文(後)・奈良・平安	29	新町遺跡	丘陵斜面	集落	漢文(前)・古墳(前)・奈良・平安・中世	
6	代官山山穴墓群	丘陵斜面	横穴墓群	古墳・古代	30	万歳山C道跡	丘陵斜面	集落	漢文・古代	
7	岡人大塚跡	丘陵斜面	集落	古墳(後)・(前)・(後)・(後)・(後)	31	高川敷道跡	丘陵	集落	古世	
8	長者原跡 (長者遺跡)	丘陵斜面	散布地・城郭	漢文・奈良・平安・中世	32	飯野城跡	丘陵	城郭	中世	
9	新山崎遺跡	自然凹地	集落	方形削溝墓	古墳(前)・平安	33	沢田山山腹遺跡	丘陵	集落	奈良・平安
10	卯星遺跡	丘陵	城郭	中世	34	沢田山貝塚	丘陵斜面	貝塚	漢文(後・晚)	
11	池袋御遺跡	津精干野	散布地		35	鳴山山道跡	丘陵斜面	集落		
12	鶯ノ里遺跡	自然凹地	散布地	古墳	36	崎山遺跡	丘陵	散布地	漢文	
13	広沢山遺跡	津精干野	散布地		37	須向遺跡	自然凹地	散布地	古墳・平安	
14	前山A遺跡	丘陵斜面	散布地	漢文・古墳(前)・古代	38	新企山遺跡	浜堤	集落	古生・古墳(前)・平安	
15	前山B遺跡	丘陵斜面	散布地	漢文・(中・後)・奈良・平安	39	赤井遺跡	浜堤	集落	古生・奈良・(後)・奈良・平安	
16	前山C遺跡	丘陵斜面	集落	漢文・(後)・(後)・古代	40	東照井遺跡	浜堤	散布地	古墳(後)	
17	太田山遺跡	丘陵斜面	散布地	漢文(後)・古代	41	伝正木跡	浜堤	移耕	古世	
18	小崎城跡	丘陵	城郭	古世	42	木手上土跡	浜堤	浜堤	古世	
19	小崎遺跡	丘陵斜面	散布地	漢文(中・後)・古代・中世	43	小松遺跡	浜堤	集落・貝塚・貝塚	漢文・古生・古代	
20	草田船跡 (草田道跡)	丘陵	城郭	漢文・中世	44	観音院跡	浜堤	移耕	近世	
21	供見遺跡	丘陵斜面	散布地	漢文(中・後)・古生・古代	45	飯田城跡	浜堤	城郭		
22	木舟跡	丘陵	城郭		46	二入船跡	浜堤	城郭	中世	
23	浜田船跡	丘陵斜面	城郭	古世	47	小島遺跡	浜堤	散布地	古墳(後)・古代	
24	武田屋遺跡	丘陵	星形	古世	48	五十鈴社古墳	浜堤	古墳		



第3図 周辺の遺跡

として紹介するところとなる（伊東 1936）。現在までに窯跡が7基確認されているが（中野ほか 1999）、未だに発掘調査は行われていないため、詳細は不明である。しかし、採集された瓦や須恵器について中野裕平氏や佐藤敏幸氏らが紹介しており、瓦については奈良時代（8世紀後半から後葉）のもので、東松島市赤井遺跡に供給されたと推定されている（中野ほか 前掲）。

同じ丘陵上には本遺跡のほか、須江糠塚遺跡（河南町教育委員会 前掲）や、代官山遺跡（河南町



第4図 調査区の位置と周辺の地形

教育委員会 1993a)、関ノ入遺跡（河南町教育委員会 前掲）で窯跡が調査されている。これらの年代は8世紀中葉から10世紀前半までであり、本遺跡の瓦窯が須江丘陵の窯跡群のなかでも初期の段階のものである。このように、瓦や須恵器の生産地として選定され、200年もの間連続して操業する背景の一つに、須江丘陵でこれらの原材料となる良質な粘土が産出するという点があげられる。関ノ入遺跡ではこの時期の粘土採掘坑が発見され、本遺跡においても、1991年（平成3）に河南町教育委員会が行った調査で、平安時代前期などの粘土採掘坑が検出されている。

中世以降になると、須江丘陵上には城館が築かれるようになり、須江糠塚遺跡、塩野田城跡、長者館跡がこれに当たる。これらのうち須江糠塚遺跡では、発掘調査で中世のピット群が検出されている（河南町教育委員会 前掲）。

ところで、鎌倉時代に僧侶の月圓坊永秀が瓦山に居住していたという記載が、「熊野新宮寺一切経」（名取市新宮寺所蔵）の高僧伝巻五の奥書に見られ、これには「瓦山別処」という記述があることから（東北歴史資料館 1980）、この地は新宮寺の別所であったとみられる。

近世になると、中世に葛西氏領もしくは長江氏の深谷莊内であった須江丘陵は仙台藩の領内となる。丘陵上およびその近隣の遺跡では、関ノ入遺跡で近世初期の木炭窯跡（河南町教育委員会 2004）、新山崎遺跡で井戸跡などを検出している（石巻市教育委員会 前掲）。

この時期には、文献等による記録が多く残されるようになり、須江地区で陶器を焼いていたという伝承（河南町史編纂委員会 2005）や、仙台藩に瓦用の粘土を納めたという記録が残されている（東北歴史資料館 1993）。また、瓦山に居住していた仙台藩士が矢島氏という記録があり、その移住年は不明であるが、没年（1676年）の記録から、17世紀後半には少なくとも居住していたとみられる（須江の教育百年史編集委員会 1983）。他に安永年間（1772～81）には4軒の屋敷があったとされる。

## 第2章 調査に至る経緯と調査方法

### 1. 調査に至る経緯

本調査は、東北電力株式会社石巻変電所154/66kV主要変圧器設置工事に伴うものである。平成3年に石巻変電所用地造成（第1期）に伴い、河南町教育委員会（現石巻市教育委員会）により発掘調査が行われた。変電所建設用地内では遺構等は発見されなかったが、仮設水道および町道建設予定地内で、平安時代前期（9世紀）の粘土採掘坑や埋設土器を伴う土坑などが発見されている（未報告）。

その後、平成21年に石巻変電所154/66kV主要変圧器設置工事（第2期用地造成）の計画が示され、平成22年8月3日から石巻市教育委員会により確認調査が行われた。調査は計画地の北側部分と南側部分を対象に行い（第4図）、その結果、北側部分では、瓦窯跡や掘立柱建物跡などの遺構や遺物を多く検出し、南側部分では沢跡などを検出した。

確認調査の結果をもとに、東北電力株式会社および宮城県教育委員会、石巻市教育委員会の三者で協議した結果、遺構が検出された北側部分について、平成23年度に石巻市教育委員会が発掘調査を実施して記録保存することとした。



第5図 平成23年度調査区全体図

その後、同年3月11日に発生した東日本大震災により、石巻市も甚大な被害を受けたことから、石巻市教育委員会を主体として発掘調査を実施することが困難となつたため、再度三者で協議を行い、宮城県教育委員会が主体となって、発掘調査を行うこととなった。

## 2. 調査の方法と経過

本発掘調査は、確認調査で遺構が検出された北半部を対象として、平成23年7月4日から同年12月1日まで実施した（第4・5図）。調査は、対象区域のなかでも遺構が検出された西側部分（I区）から着手した。ここでは瓦窯跡や瓦廃棄土坑、井戸跡、柱穴群などを確認した。引き続き、確認調査区（北側部分）の南に隣接する部分（II区）の調査に着手し、西側部分を中心に瓦廃棄土坑や井戸跡、柱穴群などを確認した。遺構検出を進める過程で、II区の南側で井戸跡や柱穴が多く検出され、遺構の分布がさらに南へ広がることが予想されたため、一部を南側に拡張した（II区南）。なお、I区やII区などの調査区の名称は、遺物の取り上げ時に便宜上付したものである。表土は重機により除去去し、この作業を8月1日まで行った。これに併行して遺構確認作業を実施し、おおよその遺構の性格や量を把握した後に、7月26日から遺構精査を開始した。精査に併せて遺構の実測や写真撮影を行い、12月1日までに調査を終了した。

調査の成果がある程度まとまった10月22日には、須江地区の住民を対象に現地説明会を開催した。当日は雨天のため調査区内での説明を断念し、隣接する変電所敷地内に設置した調査事務所において遺物展示のみにとどめたが、22名の参加があった。現地説明会の開催にあたっては須江地区行政委員（行政区長）の皆様にご協力をいただいた。

遺構等の平面図実測に際しては、前年の確認調査の際に設置した1級水準点を測量原点とし、電子平板による測量作業を行った。1級水準点の国家座標（世界測地系第X系）は以下のとおりである。

22-101: X=-168608.553 Y=35194.662 標高値: 11.605m

22-103: X=-168505.717 Y=35164.431 標高値: 17.465m

測量した遺構等の図化作業は、Cubic社製の遺構実測支援システム「遺構くん」を用いた。柱穴の一部は縮尺1/10で作図し、断面図は原則として縮尺1/20で作図している。

遺構等の写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（約1800万画素）を用いて撮影し、重要度が高いものについては6×7cm判カラーリバーサル・モノクロフィルムを併用した。

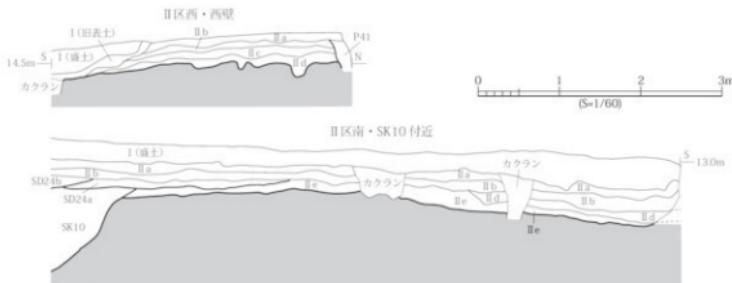
## 3. 基本層序

遺構が多く分布する、本発掘調査区の西側で以下のように大別できる。

第Ⅰ層：現表土・盛土・旧表土。1960年代の開田工事およびそれ以降の造成によるもの。

第Ⅱ層：開田工事以前の黒色～黒褐色を呈する自然堆積層。土色や土性、含有物等によりⅡa～e層に細分される。

Ⅱa層：黒褐色（10YR3/1）シルト。炭化物粒および焼土粒を多く含む。瓦窯操業以降の自然堆積層。



第6-1図 基本層序図



第6-2図 II区西・西壁断面写真（基本層序）

II b 層：暗褐色（10YR3/3）粘土質シルト。粘性ややあり。炭化物粒および焼土粒を少量含む。

II c 層：暗褐色（10YR3/4）粘土質シルト。炭化物粒をごく少量含む。遺構確認面。

II d 層：黒褐色（10YR2/3）粘土質シルト。粘性ややあり。炭化物粒を少量含む。遺構確認面。

Ⅱe層：褐灰色（10YR4/1）粘土質シルト～シルト質粘土。地山粒～中プロックを多く含む。Ⅱ区南で確認される。SK10十坑の遺構確認面。

第Ⅲ層：にぶい黄色～明黄褐色を呈する自然堆積層。いわゆる地山。遺構の大部分はこの面の上面で確認した。土性や含有物によりⅢ a～c 層に細分される。

Ⅲ a 層：明黄褐色（2.5Y6/6）粘土。砂が混じる。

Ⅲ b 層：にぶい黄色（2.5YR6/4）粘土。

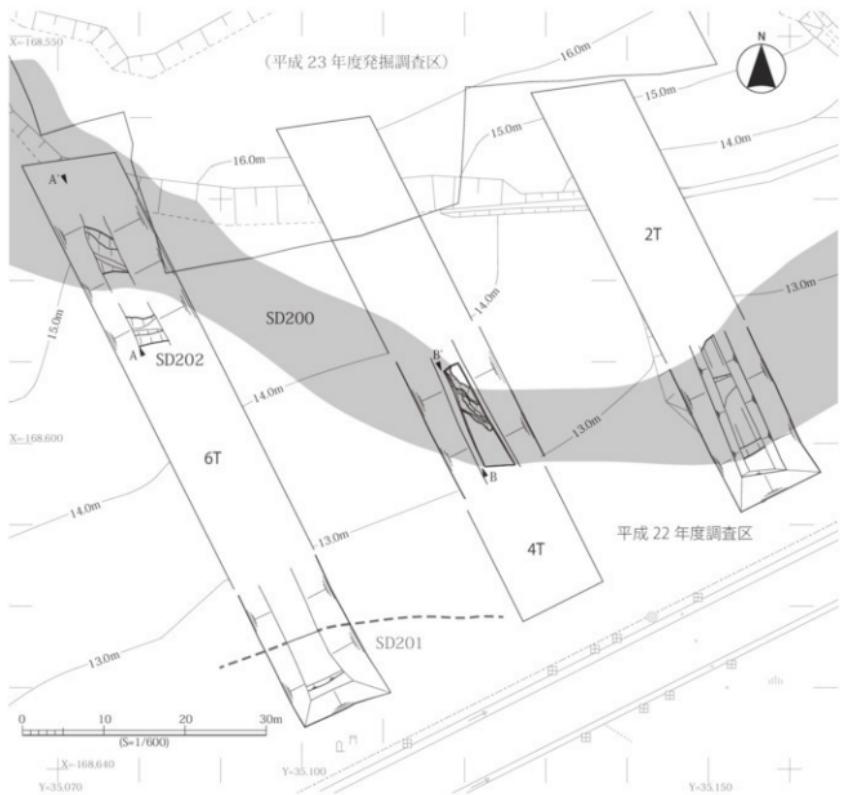
### III c 層：凝灰岩層

## 第3章 発見した遺構と遺物

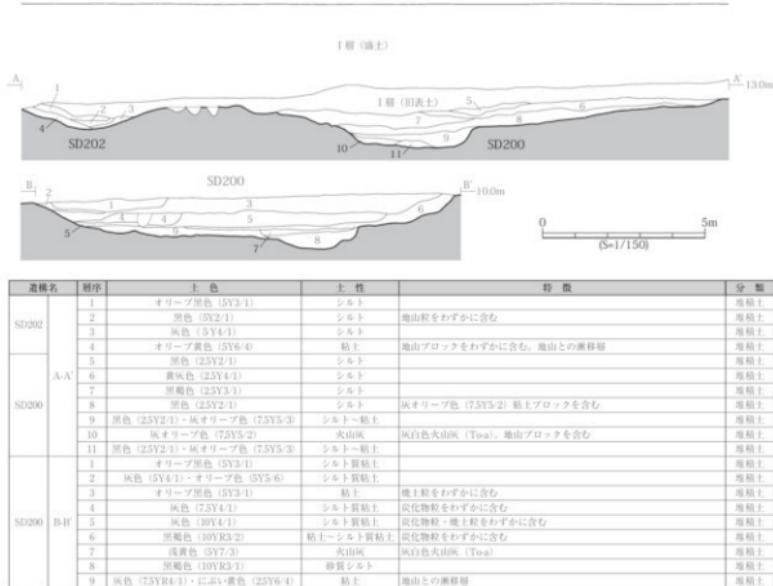
発掘調査は2箇年度にわたって実施し、平成22年度は確認調査、平成23年度は北半部を対象に発掘調査を実施した。以下に発見した遺構と遺物について調査年度ごとに記述する。

### A. 平成22年度調査

平成22年度調査のうち、南半部では沢跡2条、溝跡1条を検出した。これらのうち沢跡1条(SD200)については、底面付近に十和田Aテフラ(To-a)とみられる「灰白色火山灰」が堆積していることから、古代にさかのほるものとみられる。他にも井戸跡や多数の柱穴を検出したが、近代以降の陶磁器が出士していることから、すべて近代以降のものと考えられる。



第7-1図 SD200・201沢跡ほか 平面図



第7-2図 SD200沢跡、SD202溝跡 断面図

### 【SD200沢跡】

南側第2・4・6トレンチで確認した（第7-1図）。おもな遺構との重複はない。検出長は約84mで、沢上部が後世の開田工事等により削平されている。残存する上幅が約13.0～15.1m、下幅約2.8～5.9m、深さ1.3～1.6mある。断面形は皿状で、一部逆台形を呈する。平成23年度調査区の南西部分でSD200沢跡と推定される落ち込みを確認し、これを含めると上幅で最大30mに達する。堆積土は第4トレントで9層確認し、上部はオリーブ黒色粘土、中部は灰色シルト質粘土、下部は黒褐色砂質シルトを主体とする自然堆積層である（第7-2図）。底面付近に灰白色火山灰が最大0.4m堆積していることから、古代に遡る沢跡である。

### B. 平成23年度調査

平成23年度調査で検出した遺構には、瓦窯跡1基、瓦廃棄土坑7基、焼け面1箇所、掘立柱建物跡46棟（建て替えを含む）、井戸跡14基、大型の土坑2基の他に、中・小型の土坑32基、溝跡17条、自然流路跡31条、ピット（柱穴や小穴）が多数ある（第8-1～4図）。これらのうち、窯跡と瓦廃棄土坑は調査区の北西部に集中している。

遺物は、遺物収納用平箱（長54×幅34×深15cm）で約350箱に相当する量が出土している。中世から近代まで時期が広範にわたり、縄文時代の石器、古代の土師器・須恵器・赤焼土器、瓦、中

世陶器、青磁・青白磁、近世陶磁器、近世以降の瓦、瓦質土器・土製品、煉瓦などの瓦窯の構造材、木製品、土石製品などがある。

以下に、発見した遺構と遺物について主要なものについて詳しく述べる。なお、遺物については別項でまとめ、その種類ごとに説明する。

## 1. 掘立柱建物跡

調査区の西側～中央部にかけて多数の柱穴を検出し、建て替えを含め46棟の掘立柱建物跡を確認した（第8～11図）。それぞれの建物跡の柱穴の組み合わせは、柱穴の位置、規模、切り合い、埋土の特徴などを考慮して行った。調査区のほぼ中央を流れる自然流路跡（SD26など）より西側に展開する建物群のうち、小型の柱穴で構成される建物跡群を中央部建物跡群とし、さらにその西側に位置し、やや大型の柱穴で構成される建物跡群を西側建物跡群とする。また、中央の自然流路跡より東側の建物跡群を東側建物跡群とする。以下に各群の様相について述べる。なお、個々の建物跡の諸属性については第3表にまとめた。

### （1）中央部建物跡群

調査区中央～西側で32棟確認した（第8・9図）。検出面はⅡd～Ⅲ層である。SB130～SB137、SB140～SB163建物跡が含まれる。建物の方向から、南面がやや東を向くものを1群とし、やや西を向くものを2群とする、2つの建物跡群に大別される。以下に、建物跡群ごとに説明する。

#### ①中央部建物跡1群

8棟確認し、SB130、SB131、SB132、SB133、SB134、SB135、SB136、SB137建物跡が含まれる。桁行4間、梁行1間の身舎の南側に桁行4間の廊または縁が付く東西棟（SB137）、桁行3間、梁行2間の東西棟（SB131・132）、桁行3間、梁行1間の東西棟（SB134・136）、桁行2間、梁行2間の東西棟（SB133）と南北棟（SB130）、桁行2間、梁行1間の東西棟（SB135）がある。桁行は総長4.5～8.3m、梁行は総長2.5～4.9m（廊または縁の出を含む、以下同）ある。方向は、東西棟が東で3～22度北に偏し、南北棟が北で20度西へ偏する。同じ場所での建て替えが最大で2回ある。

他の建物群との重複は、柱穴が直接切り合うものとして、SB132がSB157（2D群）、SB134がSB158（2D群）、SB135がSB146（2A群）・153（2C群）、SB136がSB146・153・159（2D群）・160（2D群）とそれぞれ重複し、これらよりも古い。また、SB130がSK6土坑、SB135がSD122自然流路跡、SB136がSD97自然流路跡とそれぞれ重複し、これらよりも古い。

遺物は、SB136建物跡から須恵器壺（P80掘方埋土）・瓶（P18堆積土）が出土している。

#### ②中央部建物跡2群

24棟確認し、SB140～SB163建物跡が含まれる。建物の方向から、2A～2Dの4群に細分される。以下に、建物跡群ごとに説明する。

#### 【中央部建物跡2A群】

9棟確認した。建物の方向は、東西棟が東で11～17度南に偏し、南北棟が北で12～15度東へ偏する。



第8-1図 遺構配置図（西側）

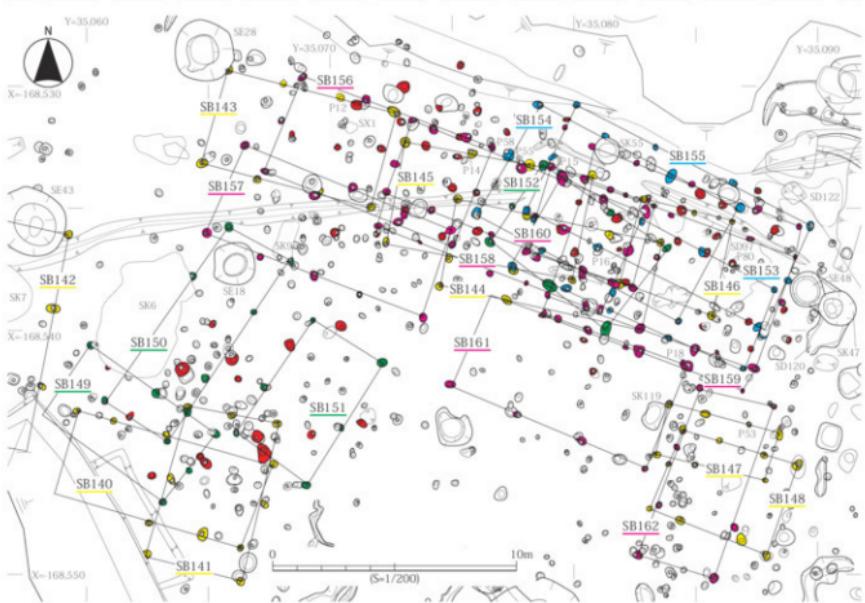
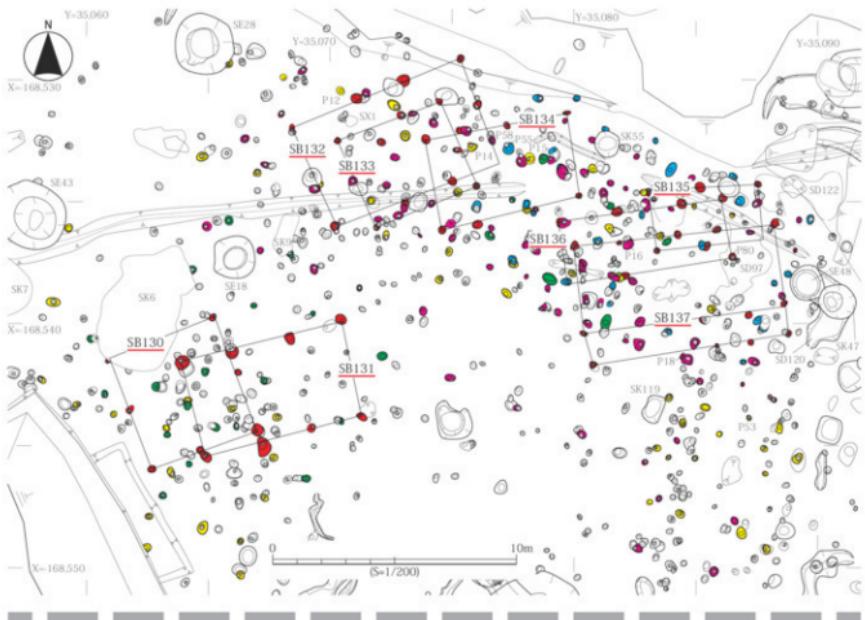


第8-2図 遺構配置図（北側）



第8-3図 遺構配置図（南側）





第9図 中央部建物跡群 平面図（上：1群 下：2群）

SB140、SB141、SB142、SB143、SB144、SB145、SB146、SB147、SB148 建物跡が含まれる。桁行 4 間、梁行 1 間の東西棟 (SB140)、桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟 (SB145・148)、桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟 (SB143・144・147) と南北棟 (SB142)、桁行 2 間、梁行 2 間の南北棟 (SB141)、桁行 2 間、梁行 1 間の東西棟 (SB146) がある。桁行は総長 3.9 ~ 9.2m、梁行は総長 2.2 ~ 4.3m ある。同じ場所での建て替えが最大で 1 回ある。

他の建物群とは、柱穴が直接切り合うものとして、SB141 が SB149(2B 群)、SB143 が SB156(2D 群)、SB144 が SB155 (2C 群)・159 (2D 群)、SB145 が SB153 (2C 群)、SB146 が SB135 (1 群)・136 (1 群)・160 (2D 群) とそれぞれ重複し、SB135・136 より新しく、SB149・153・155・156・159・160 よりも古い。また、SB142 が SK7 土坑、SB143 が SE28 井戸跡とそれぞれ重複し、これらよりも古い。

SB143 建物跡 (P12 柱抜取穴) から須恵器壺、SB145 建物跡 (P14 柱痕跡) から須恵器甕、SB147 建物跡 (P53 柱痕跡) から赤焼土器耳皿 (第 24 図 8) が出土している。

#### 【中央部建物跡 2B 群】

4 棟確認した。建物の方向は、東西棟が東で 35 ~ 37 度南に偏し、南北棟が北で 32 ~ 35 度東へ偏する。SB149、SB150、SB151、SB152 建物跡が含まれる。桁行 4 間、梁行 2 間の東西棟 (SB149)、桁行 3 間、梁行 1 間の南北棟 (SB150)、桁行 2 間、梁行 2 間の東西棟 (SB152)、桁行 2 間、梁行 1 間の南北棟 (SB151) がある。桁行は総長 5.9 ~ 9.0m、梁行は総長 2.9 ~ 3.8m ある。同じ場所での建て替えが最大で 1 回ある。

他の建物群とは、柱穴が直接切り合うものとして、SB149 が SB141 (2A 群)、SB152 が SB160 (2D 群) とそれぞれ重複し、SB141 より新しく、SB160 よりも古い。また、SB149 が SK6 土坑、SB150 が SK6・9 土坑とそれぞれ重複し、これらよりも古い。

遺物は出土していない。

#### 【中央部建物跡 2C 群】

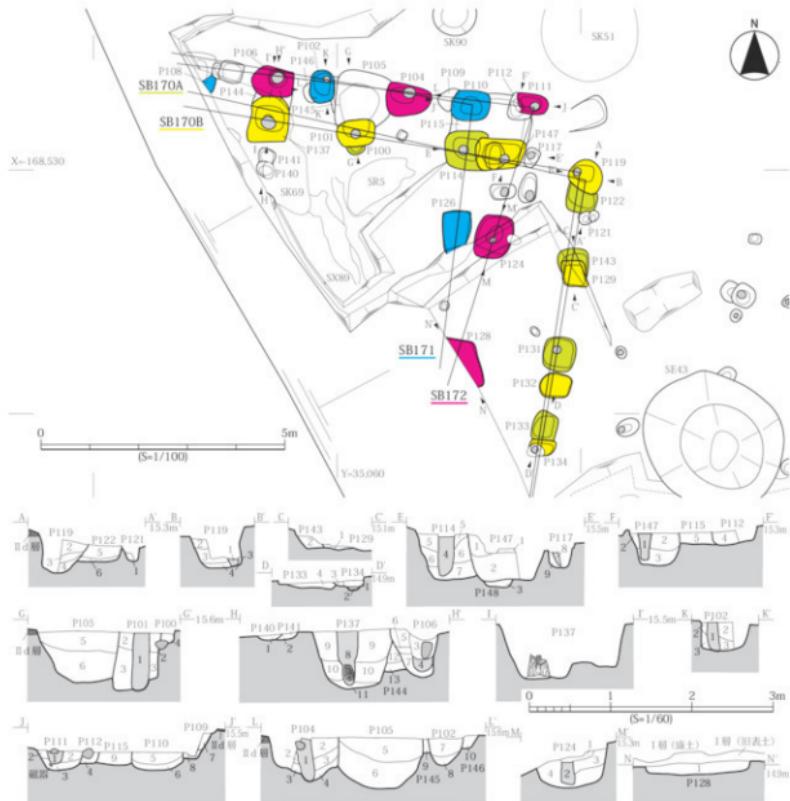
3 棟確認した。建物の方向は、東で 27 ~ 29 度南に偏する。SB153、SB154、SB155 建物跡が含まれる。桁行 4 間、梁行 2 間の東西棟 (SB153)、桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟 (SB154・155) がある。桁行は総長 9.3 ~ 10.8m、梁行は総長 3.5 ~ 5.2m ある。同じ場所での建て替えが 2 回ある。

他の建物群とは、柱穴が直接切り合うものとして、SB153 が SB135 (1 群)・145 (2A 群)・158 (2D 群)・160 (2D 群)、SB155 が SB144 (2A 群) とそれぞれ重複し、SB135・144・145 より新しく、SB158・160 よりも古い。また、SB154 が SK55 土坑と重複し、これよりも古い。

遺物は、SB154 建物跡 (P55 堆積土) から石硯 (第 18-4 図 3)、SB155 建物跡 (P15 柱抜取穴) から土器器坏などが出土している。

#### 【中央部建物跡 2D 群】

8 棟確認した。建物の方向は、東西棟が東で 19 ~ 23 度南に偏し、南北棟が北で 19 度東に偏する。SB156、SB157、SB158、SB159、SB160、SB161、SB162、SB163 建物跡が含まれる。桁行 5 間、梁行 2 間の身舎の南側に桁行 5 間の廂または縁が付く東西棟 (SB158)、桁行 4 間、梁行 2 間の身舎の南北に桁行 4 間の廂または縁が付く東西棟 (SB159)、桁行 4 間、梁行 2 間の東西棟 (SB157)、桁行 3 間以上、梁行 1 間の東西棟 (SB163)、桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟 (SB156・161)、桁行 3 間、梁



遺構名	序号	上色	下性	特徴	分類
P121	1	灰黃褐色	(10YR4/2)	粘土質シルト 地山小~中プロックを少量含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3-2黒褐色シルト質粘土中プロックを多く含む。	板塊層
P119	2	灰黃褐色	(10YR4/2)	粘土質シルト 地山中~中プロックを含む。	板塊層
A-A'	3	灰黃褐色	(10YR4/2)	地山中~大プロックを多く含む。10YR3-2黒褐色シルト質粘土中プロックを多く含む。	板塊層
P122	4	灰黃褐色	(10YR4/2)	地山中~大プロックを多く含む。10YR4-2灰黃褐色シルト質粘土中プロックを少額含む。	板塊層
5	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。10YR4-2灰黃褐色シルト質粘土中プロックを少額含む。	板塊層	
6	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。10YR4-2灰黃褐色シルト質粘土中プロックを少額含む。	板塊層	
P119	7	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	柱地盤
B-B'	8	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~中プロックを含む。	板塊層
C-C'	9	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。10YR3-2黒褐色シルト質粘土中プロックを多額含む。	板塊層
D-D'	10	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。10YR4-2灰黃褐色シルト質粘土中プロックを少額含む。	板塊層
E-E'	11	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。10YR4-2灰黃褐色シルト質粘土中プロックを少額含む。	柱地盤
F-F'	12	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。10YR4-2灰黃褐色シルト質粘土中プロックを少額含む。	板塊層
P129	13	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。10YR4-2灰黃褐色シルト質粘土中プロックを少額含む。	柱地盤
P143	14	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
C-C'	15	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	柱地盤
P119	16	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
B-B'	17	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
C-C'	18	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	柱地盤
D-D'	19	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
E-E'	20	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	柱地盤
F-F'	21	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
P134	22	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
P133	23	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
P148	24	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
P147	25	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	柱地盤
P146	26	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
P145	27	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
P144	28	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	柱地盤
P117	29	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
P116	30	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	柱地盤
P115	31	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層
P112	32	灰 黄褐色	(10YR4/2)	砂土質粘土 地山中~大プロックを多く含む。	板塊層

第10図 西側建物跡群 平面図・断面図

第2表 西側建物跡群 土層觀察表

遺構名	相	土色	土性	特徴	分類
P101	G-G	1 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを極少量含む。炭化物粒を極少量含む。地上粒を極少量含む。	柱地路
		2 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一プロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	欄干埋立
		3 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。10YR3/2 黒褐色シルト質粘土小一中ブロックを少量含む。	欄干埋立
P100	G-G	1 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然を少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土小一中ブロックを含む。	欄干埋立
P105		6 黄褐色 (10YR 3/2)	シルト質粘土	地山然一小ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。地上粒を極少量含む。	欄干埋立
P140		1 黄褐色 (10YR 4/2)	シルト質粘土	地山然一小ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。地上粒を極少量含む。	栏杆取付
P141		2 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。	栏杆取付
P106	H-H	3 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。	栏杆取付
		4 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然を極少量含む。	柱地路
		5 黄褐色 (10YR 4/2)	シルト質粘土	地山然中一大ブロックを多く含む。	欄干埋立
		6 黄褐色 (10YR 3/2)	シルト質粘土	地山然中一大ブロックを多く含む。	欄干埋立
		7 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一大ブロックを極少量含む。	欄干埋立
		8 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然を極少量含む。炭化物粒を極少量含む。	柱地路
P137	H-H	9 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土小ブロックを多く含む。	欄干埋立
P144	J-J	10 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一大ブロックを極少量含む。	欄干埋立
		11 黄褐色 (10YR 4/2)	シルト質粘土	地山然一大ブロックを極少量含む。	欄干埋立
		12 黄褐色 (10YR 3/2)	シルト質粘土	地山然中一大ブロックを含む。10YR4/2 黄褐色シルト質粘土小一中ブロックを少量含む。	欄干埋立
P111	K-K'	13 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一大ブロックを極少量含む。	欄干埋立
		1 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	柱地路
		2 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。	欄干埋立
		3 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。	欄干埋立
		4 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土中ブロックを多く含む。	欄干埋立
		5 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを多く含む。	欄干埋立
		6 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土中ブロックを極少含む。	欄干埋立
		7 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然中一大ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	欄干埋立
		8 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然中一大ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	欄干埋立
		9 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然中一大ブロックを含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土中一大ブロックを多く含む。	欄干埋立
P102	K-K'	1 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然を極少量含む。炭化物粒を極少量含む。	柱地路
P104	L-L'	2 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。地上粒を極少量含む。	欄干埋立
		3 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上粒を極少量含む。	欄干埋立
		4 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土中ブロックを極少含む。	欄干埋立
P106	L-L'	5 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	欄干埋立
P102	K-K'	6 黄褐色 (10YR 4/2)	シルト質粘土	地山然中一大ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上粒を極少量含む。	欄干埋立
P104	L-L'	7 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上粒を極少量含む。	柱地路
P145	M-M'	8 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上粒を極少量含む。	欄干埋立
P146	M-M'	9 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上粒を極少量含む。	欄干埋立
P124	M-M'	10 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土小ブロックを極少含む。	栏杆取付
		1 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土小ブロックを極少含む。	柱地路
		2 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土小ブロックを極少含む。	栏杆取付
		3 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土中ブロックを極少含む。	栏杆取付
P128	N-N'	4 黄褐色 (10YR 4/2)	粘土質シルト	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土中ブロックを極少含む。	栏杆取付
P124	M-M'	5 黄褐色 (10YR 4/2)	シルト質粘土	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土中ブロックを極少含む。	栏杆取付
		6 黄褐色 (10YR 4/2)	シルト質粘土	地山然一小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。10YR3/2 黑褐色シルト質粘土中ブロックを極少含む。	栏杆取付

行1間の南北棟 (SB162)、桁行2間、梁行2間の東西棟 (SB160) がある。桁行は総長4.6～10.0m、梁行は総長3.7～7.4mある。同じ場所での建て替えが最大で2回ある。

他の建物群とは、柱穴が直接切り合うものとして、SB156がSB134(1群)・143(2A群)、SB157がSB132(1群)、SB158がSB136(1群)・145(2A群)・146(2A群)・154(2C群)、SB160がSB152(2B群)・153(2C群)とそれぞれ重複し、これらより新しい。また、SB159がSK55土坑、SD97・122自然流跡と重複し、これらよりも古い。

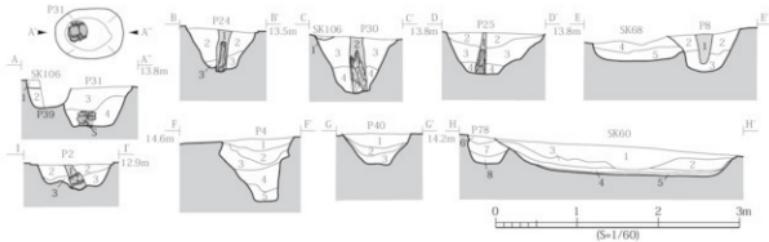
遺物は、SB158建物跡(P16堆積土)から東海産鉢鉢が出土している。

## (2) 西側建物跡群

調査区西側で確認した(第10図)。検出面はⅡd～Ⅲ層である。建て替えを含めて4棟確認し、SB170A・B、SB171、SB172建物跡が含まれる。すべて東西棟建物跡とみられ、桁行4間以上、梁行3間以上(SB170A・B)、桁行3間以上、梁行2間以上(SB172)、桁行2間以上、梁行2間以上(SB171)がある。桁行は総長5.3～6.6m以上、梁行は総長2.6～5.8m以上ある。建物の方向は東で7～13度南に偏する。同じ場所での建て替えが3回あり、重複関係のわかるものは、



第 11-1 図 東側建物跡群 平面図



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SK106	1	褐灰土 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山純一・小ブロックを少量含む。	堆積土
P39	2	褐灰土 (10YR5/1)	シルト	地山純一・小ブロックを少量含む。	柱抜取穴
P31	3	深い黒褐色 (10YR5/3)	シルト	地山ブロックを多く含む。	柱抜取穴
	4	黒褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。	掘方埋土
P24	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山純一を少量含む。	柱根跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山純一・大ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	掘方埋土
	3	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山純一・大ブロックを少量含む。炭化物粒を極少量含む。	掘方埋土
SK106	1	褐灰土 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山純一・小ブロックを少量含む。	堆積土
P30	2	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	地山純一・中ブロックを少量含む。	柱根跡
	3	褐褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山純一・大ブロックを多く含む。	掘方埋土
	4	褐褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山純一・大ブロックを極多量含む。	掘方埋土
P25	1	黒褐色 (10YR4/1)	シルト	地山ブロックを含む。	柱根跡
	2	灰黄褐色 (23YV4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。	掘方埋土
	3	灰黄褐色 (23YV4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む。	掘方埋土
	4	深い黒褐色 (10YR5/4)	シルト	地山純一・中ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上純土を少量含む。	柱根跡
P8	1	黒褐色 (10YR4/1)	シルト	地山純一・中ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上純土を少量含む。	柱根跡
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山純一・大ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上純土を極少量含む。	柱根跡
	3	灰黄褐色 (10YR4/1)	シルト	地山純一・大ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上純土を極少量含む。	柱根跡
SK68	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山純一・中ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。地上純土を極少量含む。	堆積土
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山純一・中ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	柱抜取穴
P4	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山純一・大ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	柱抜取穴
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山純一・大ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	柱抜取穴
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山純一・大ブロックを多く含む。合む。	柱抜取穴
	4	灰褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山純一・大ブロックを極多量含む。炭化物粒を極少量含む。	柱抜取穴
	5	灰褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山純一・小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	柱抜取穴
P40	1	灰褐色 (10YR4/1)	シルト	地山純一・大ブロックを含む。	柱抜取穴
	2	褐褐色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山純一・中ブロックを含む。	柱抜取穴
	3	灰褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山純一・大ブロックを含む。	柱抜取穴
SK60	1	褐褐色 (10YR5/1)	シルト	地山純一・中ブロックを極多量含む。炭化物粒を極少量含む。	埋土
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山純一・小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	埋土
	3	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘土質シルト	地山純一・中・大ブロックを極多量含む。炭化物粒を極少量含む。	埋土
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山純一・小ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	埋土
	5	灰褐色 (10YR4/1)	シルト	地山純一・中・大ブロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	埋土
P78	6	灰黄褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山純一・中・大ブロックを含む。	柱抜取穴
	7	褐褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山純一・小ブロックを含む。	柱抜取穴
	8	褐褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山純一・中・大ブロックを極多量含む。	柱根跡
P2	1	黒褐色 (25Y3/1)	粘土		柱根跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山純一・中・大ブロックを多く含む。	掘方埋土
	3	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山純一・小・中・大ブロックを少量含む。炭化物粒を極少量含む。	掘方埋土

第 11-2 図 東側建物跡群 平面図・断面図

SB170A → SB170B → SB172、SB171 → SB172 である。また、SK69 土坑と重複し、これよりも古い。

柱材は、SB170B 建物跡 (P137) で残存している (写真図版 15-12)。

遺物は、SB172 建物跡 (P111 挖方埋土) から肥前產皿 (第 18-3 図 13) が出土している。

### (3) 東側建物跡群

調査区東側で 10 棟確認した(第 11-1・2 図)。検出面はⅢ層である。SB180 ~ 189 建物跡が含まれる。

建物の方向から 1 群 ~ 3 群の 3 つの建物跡群に細分される。以下に、建物跡群ごとに説明する。

#### ① 東側建物跡 1 群

2 棟確認した。建物の方向は、東で 1 ~ 3 度南に偏する。SB180, SB181 建物跡が含まれる。桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟 (SB180) と、桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟 (SB181) がある。桁行は総長 5.0 ~ 6.6m、

第3表 建物跡 一覧表

遺跡名	都 市 名	面 積 (m <sup>2</sup> )	施 設 方 向	平面規格				方 向 計 測 柱 列	柱 軸 寸 法 (m)	柱 間 寸 法 (m)	柱 軸 寸 法 (m)	柱 軸 寸 法 (m)	柱穴掘方		目 標 取 穴 (個)	考 證 (出土遺物など)	辨 別 番 号								
				矩形		楕円形								平面形											
				能員	計画 柱列	能員	計画 柱列						楕円形	楕丸形											
SB130	C1 2 2	南北	50 東	25+25	46 南	24+21	N-20-W	東	10~16	29~49	楕円形、楕丸形	0	9	-											
SB131	C1 3 2	東西	66 南	20+22+24	40 西	40	E-15-N	南	11~18	43~78	円形、楕円形、 楕丸形	1	9	-											
SB132	C1 3 2	東西	75 北	30+21+25	45 西	4.5 (2間分)	E-22-N	北	9~18	34~45	楕円形、楕丸形	0	9	-											
SB133	C1 2 2	東西	45 北	29+17	38 東	21+17	E-22-N	南	14~20	26~39	円形、楕円形、 楕丸形	0	9	-											
SB134	C1 3 1	東西	59 北	14+19+26	34 東	34	E-14-N	南	9~10	26~43	円形、楕円形、 楕丸形	0	9	-											
SB135	C1 2 1	東西	45 北	21+24	25 西	25	E-3-N	北	9~14	26~45	円形、楕円形、 楕丸形	0	9	-											
SB136	C1 3 1	東西	68 北	26+26+16	25 東	25	E-8-N	北	11~18	32~46	円形、楕円形	1	組立基盤・瓶	9	-										
SB137	C1 4 1 (H-D)	東西	83 北	19+24+17+2.3	49 西	3.6+4.1+3.9	E-8-N	南	11~16	23~37	円形、楕円形	0	9	-											
SB138	C2A 4 1	東西	83 北	15+23+4.5 (2間分)	36 東	3.6	E-16-S	北	11~18	28~56	円形、楕円形	0	9	-											
SB139	C2A 2 2	南北	66 東	34+32	37 北	18+19	N-15-E	東	12~17	34~44	円形、楕円形、 楕丸形	0	9	-											
SB140	C2A 3 1	南北	92 西	29+6.3 (2間分)	35 東	35	N-12-E	西	13~23	27~58	円形、楕円形	0	8.1	-											
SB141	C2A 3 1	東西	72 北	22+26+24	39 西	39	E-15-S	北	16~21	30~39	円形、楕円形	3	組立基盤	9	-										
SB142	C2A 3 1	東西	86 北	30+35+22	36 西	36	E-12-S	北	11~14	33~47	円形、楕円形	0	9	-											
SB143	C2A 2 1	東西	78 北	26+27+26	43 西	43	E-11-S	南	12~21	35~43	円形、楕円形	0	組立基盤	9	-										
SB144	C2A 2 1	東西	39 北	22+17	36 西	36	E-14-S	东	8~11	41~45	円形、楕円形	0	9	-											
SB145	C2A 3 1	東西	47 北	16+19+13	22 西	22	E-13-S	南	10~15	24~44	円形、楕円形、 楕丸形	0	未確定器皿類	9	-										
SB146	C2A 3 2	東西	50 北	15+20+15	35 西	20	E-17-S	北	11~19	26~51	円形、楕円形	3	9	-											
SB147	C2B 4 2	東西	63 北	34 (2間分)+15+1.5	35 東	16+1.9	E-35-S	北	9~13	27~38	円形、楕円形	1	9	-											
SB148	C2B 3 2	南北	90 東	24+24+30	29 北	29	N-35-E	西	11~17	27~35	円形、楕円形	1	9	-											
SB149	C2B 3 2	南北	59 東	31+28	36 西	36	N-32-E	東	11~20	36~43	円形、楕円形	0	9	-											
SB150	C2B 2 2	南北	59 東	30+30	38 西	16+22	E-37-S	東	10~16	26~64	円形、楕円形、 楕丸形	0	9	-											
SB151	C2B 2 2	南北	104 東	34+24+20+24	35 東	35	E-29-S	北	11~15	26~44	円形、楕円形	2	9	-											
SB152	C2B 2 2	東西	59 南	30+30	38 西	16+22	E-28-S	南	12~33	28~65	円形、楕円形、 楕丸形	0	石碑	9	-										
SB153	C2B 4 2	東西	104 東	34+24+20+24	35 西	35	E-27-S	北	11~21	26~46	円形、楕丸形	2	土師器皿	9	-										
SB154	C2C 3 2	東西	93 南	29+34+3.0	52 西	28+25	E-21-S	南	10~23	31~44	円形、楕円形	0	9	-											
SB155	C2C 3 2	東西	108 北	37+35+3.6	48 西	25+2.3	E-27-S	北	11~21	26~46	円形、楕丸形	2	9	-											
SB156	C2D 3 2	東西	83 西	24+26+23	42 西	22+2.0	E-21-S	南	10~23	31~44	円形、楕円形	0	9	-											
SB157	C2D 4 2	東西	95 南	28+20+24+24	40 西	40	E-21-S	南	11~16	27~43	円形、楕円形	2	9	-											
SB158	C2D 5 2 (H-D)	東西	100 南	14+21+20+26+20	46 西	12+20+1.8+1.0	E-25-S	南	8~21	29~96	円形、楕円形	3	東海道宿跡	9	-										
SB159	C2D 4 2 (H-D)	東西	90 南	26+25+23+17	74 西	29+21 (+0.9+1.5)	E-19-S	南	10~21	20~56	円形、楕円形、 楕丸形	2	9	-											
SB160	C2D 2 2	東西	46 北	26+19	37 西	15+21	E-21-S	北	9~14	23~41	円形、楕円形	1	9	-											
SB161	C2D 3 2	東西	86 南	29+28+30	45 西	45	E-25-S	南	12~22	27~49	円形、楕円形、 楕丸形	0	9	-											
SB162	C2D 3 1	南北	73 西	25+25+25	34 西	34	N-19-E	東	12~15	27~40	円形、楕円形、 楕丸形	0	9	-											
SB163	C2D 3 1	東西	94 東	32+31+31	39 東	39	E-22-S	南	10~13	24~37	円形、楕円形	0	8.2	-											
SB170.5	W 4+3 4+3	東西	66.5 北	19+22+24	19+4.5 東	15+8.1+6.6	E-12-S	北	17~21	71~88	楕丸形	0	10.1	10.2											
SB170.5	W 4+3 4+3	東西	64.5 北	18+31+15	5.8+4.5 東	21+23+1.4	E-9-S	北	14~30	53~103	円形、楕丸形	1	10.1	10.2											
SB171	W 2+2 4+2	東西	57.5 東	31	26+4.5 西	26	E-10-S	北	14	67~80	楕丸形	1	10.1	10.2											
SB172	W 3+2 4+2	東西	55.5 西	27+26	54+4.5 西	29	E-7.5-S	北	13~26	64~95	楕丸形	2	更闊前室	10.1	10.2										
SB180	E1 3 2	東西	66 南	18+15+18.5	38 東	19+20	E-18-S	南	13~24	38~57	円形、楕円形、 楕丸形	5	云霞陶器鉢、圓 底盤基盤・盃、盤	11.1	11.2										
SB181	E1 3 1	東西	50 北	16+21+1.3	37 西	37	E-35-S	北	10~11	26~41	円形、楕円形	4	組立基盤	11.1	-										
SB182	E2 5 4	東西	118 北	18+37+39+24	83 西	47 (2間分)	E-17-S	北	17~29	46~95	円形、楕円形、 楕丸形	5	組立基盤・盃、盤	11.1	11.2										
SB183	E2 4 2	南北	96 東	22+24+26+25	46 西	22+24	N-10-E	東	21	68~84	楕円形	6	組立基盤・盃、盤	11.1	-										
SB184	E2 2 2	南北	73 西	36+37	44 東	20+24	E-15-S	東	10~22	43~71	円形、楕円形	4	組立基盤	11.1	-										
SB185	E2 3 1	南北	60 東	20+18+22	32 西	32	N-17-E	東	40~47	77~111	円形、楕円形	8	組立基盤	11.1	-										
SB186	E2 3 1	南北	60 北	20+20+20	30 西	30	E-16-S	北	8~14	23~35	円形	2	11.1	-											
SB187	E3 3+4 H-D	東西	53+4 北	10.7+18+1.8	67.5 西	10.0+2.0	E-20-S	北	18~21	57~68	円形、楕円形、 楕丸形	9	世界遺産	11.1	-										
SB188	E3 2 2	南北	36 西	3.6 (2間分)	32 西	16+1.4	N-21-S	西	13~22	30~48	円形、楕円形	3	肥前古窯	11.1	-										
SB189	E3 3+1	東西	59+ 北	20+18+2.0	31 西	31	E-25-S	北	16~23	56~108	円形、楕円形、 楕丸形	3	肥前古窯	11.1	11.2										

(1)建物跡群のC・W・Eはそれぞれ、中央部・東西・南北建物跡群の略号である。

(2)面数・平面規格、( )内数は概算。(+数値)は複数または複数の面を表す。

遺物は、SB180 建物跡から近世以降の陶器香炉（P75 柱痕跡）、須恵器壺・壺（P25 挖方埋土）・壺（P31 柱抜取穴）、SB181 建物跡から須恵器壺（P74 柱抜取穴）などが出土している。

### ②東側建物跡 2 群

5 棟確認した。建物の方向は、東西棟が東で 6 ~ 16 度南に偏し、南北棟が北で 10 ~ 17 度東に偏する。SB182、SB183、SB184、SB185、SB186 建物跡が含まれる。桁行 5 間、梁行 4 間の東西棟（SB182）、桁行 4 間、梁行 2 間の南北棟（SB183）、桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟（SB185）と南北棟（SB186）、桁行 2 間、梁行 2 間の東西棟（SB184）がある。桁行は総長 6.0 ~ 11.8m、梁行は総長 3.0 ~ 8.3m ある。同じ場所での建て替えが 1 回ある。

他の建物群とは、柱穴が直接切り合うものとして、SB184 が SB180（1 群）、SB185 が SB188（3 群）とそれぞれ重複し、SB180 より新しく、SB188 よりも古い。また、SB182 が SK60・68 土坑、SD31・94・110 自然流路跡と重複し、SK68 より新しく、SK60 および SD31・94・110 よりも古い。SB183 が SD110 自然流路跡と重複し、これよりも古い。

遺物は、SB182 建物跡から須恵器壺・壺（P64 挖方埋土）・壺（P69 柱抜取穴）など、SB183 建物跡から須恵器壺（P10 堆積土、P72 柱抜取穴）・壺・壺（P10 堆積土）、SB185 建物跡から須恵器壺（P65 柱抜取穴）が出土している。

### ③東側建物跡 3 群

3 棟確認した。建物の方向は、東西棟が東で 20 ~ 25 度南に偏し、南北棟が北で 21 度東に偏する。SB187、SB188、SB189 建物跡が含まれる。桁行 3 間以上、梁行 1 間の身舎に桁行 3 間以上の廂または縁が付く東西棟（SB187）、桁行 3 間以上、梁行 1 間の東西棟（SB189）、桁行 2 間、梁行 2 間の南北棟（SB188）がある。桁行は総長 3.6 ~ 5.9m 以上、梁行は総長 3.1 ~ 推定 6.7m ある。

他の建物群とは、柱穴が直接切り合うもので、SB188 が SB185（2 群）と重複しこれよりも新しい。

柱材は、SB187 建物跡（P62）、SB189 建物跡（P2）で残存している（写真図版 15-6）。

遺物は、SB187 建物跡から近世以降の磁器碗（P67 柱抜取穴）、SB188 建物跡から肥前産碗（P66 柱痕跡）、SB189 建物跡から肥前産碗（第 18-3 図 3、P68 柱抜取穴）が出土している。

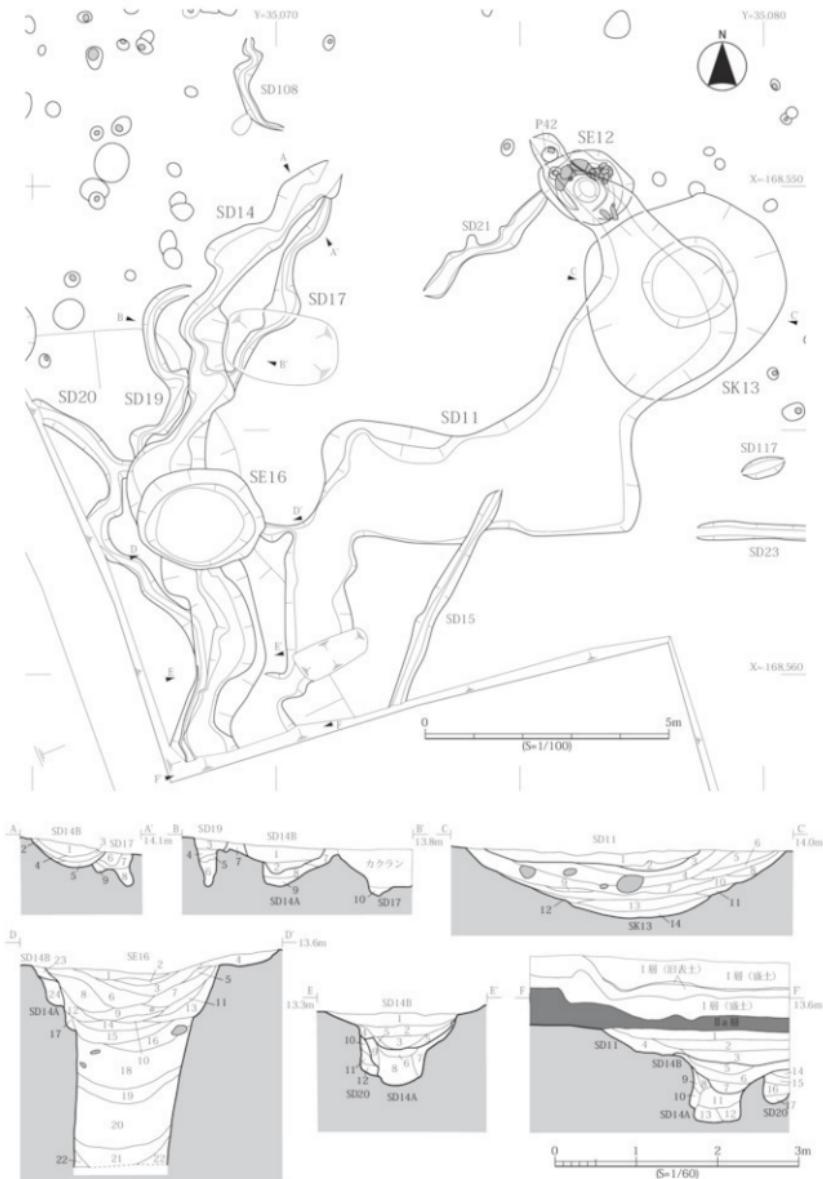
## 2. 井戸跡

調査区の緩斜面にあたる部分で 14 基検出した（第 8・14 図）。これらのうち 12 基は素掘りで、1 基は石組みである。素掘りの井戸跡のほとんどが断面漏斗形を呈し、多くの井戸跡で地山の凝灰岩層を深く掘り込んでいるが、SE43 および SE48 井戸跡については、断面がやや幅広の形状をなし、底面深度もやや浅い。井戸跡は緩斜面のほぼ全域に分布するが、おおむね調査区西側の緩斜面、調査区西側～中央の自然流路上、調査区東側の緩斜面の 3 箇所に分けられる。なお、諸属性を第 5-2 表にまとめた。以下に、おもなものについて詳しく述べる。

### 【SE16 井戸跡】

【位置・検出面】 調査区西側の南西隅部で確認した（第 12 図）。検出面はⅢ層である。

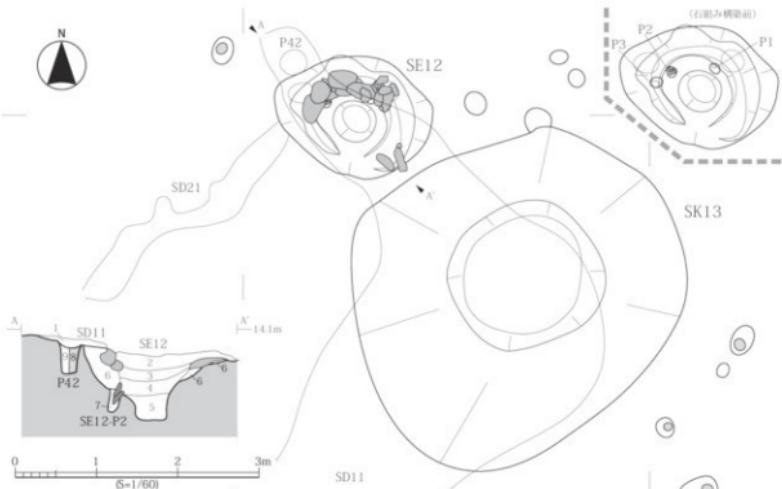
【重複】 SD11・14 自然流路跡と重複し、これらよりも新しい。



第12図 SE16井戸跡、SK13土坑ほか 平面図・断面図

第4表 SE16井戸跡、SK13土坑ほか土層観察表

通称名	順位	土 色	土 性	特 性	分類
SD14B A-A'	1	灰褐色土 (10YR 4-2)	粘土質アルト	地山堅く、小ブロックを極少含む。炭化物を少含む。地上部を少量含む。	堆積土
	2	灰褐色土 (10YR 4-2)	粘土質アルト	地山をミネラルに含む。炭化物を含む。地上部を少含む。	堆積土
	3	灰褐色土 (10YR 4-2)	シルト質アルト	地山をミネラルに含む。炭化物を多く含む。地上部を極少含む。	堆積土
	4	灰褐色土 (10YR 4-1)	シルト質粘土	地山大・中ブロックを多く含む。炭化物を含む。	堆積土
	5	灰褐色土 (10YR 4-2)	シルト質粘土	地山中・大ブロックを少し含む。炭化物を少含む。	堆積土
	6	灰褐色土 (10YR 4-2)	粘土質アルト	地山中・大ブロックを多く含む。炭化物を極少含む。	堆積土
	7	黑褐色土 (10YR 2-3)	粘土質アルト	地山中・大ブロックを極少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	8	黑褐色土 (10YR 2-3)	粘土質アルト	地山をミネラルに多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
SD17	9	にふる灰褐色土 (10YR 2-3)	砂質シルト	地山をミネラルに多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	1	褐褐色土 (10YR 4-1)	砂質シルト	1~3mmの細礫を多く含む。	堆積土
	2	黑褐色土 (10YR 2-3)	シルト	1mm程度の細礫を含む。	堆積土
SD14B B-B'	3	にふる灰褐色土 (10YR 4-1)	砂質シルト	炭化物を多く含む。	堆積土
	4	黑褐色土 (10YR 2-3)	シルト	炭化物を少含む。	堆積土
	5	褐色土 (10YR 4-1)	シルト質粘土	地山をミネラルに多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
SD14A SD17	6	灰褐色土 (10YR 4-2)	シルト質粘土	地山をミネラルに多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	7	褐色土 (10YR 4-6)	砂質シルト	地山小・中ブロックを多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	8	褐褐色土 (10YR 3-1)	砂質シルト	地山小・中ブロックを多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
SD11	9	黒褐色土 (10YR 3-1)	シルト質粘土	地山をミネラルに多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	10	黒褐色土 (10YR 2-3)	粘土質アルト	地山をミネラルに多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
SK13 C-C'	1	黒褐色土 (10YR 3-1)	シルト	地山小・中ブロックを多く含む。炭化物を極少含む。	堆積土
	2	黒褐色土 (10YR 3-1)	シルト	地山小・中ブロックを多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	3	灰褐色土 (10YR 4-1)	砂質シルト	地山小・中ブロックを少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	4	灰褐色土 (10YR 5-1)	シルト	地山小・中ブロックを少含む。	堆積土
	5	灰褐色土 (10YR 5-1)	シルト	地山小・中ブロックを含む。	堆積土
	6	灰褐色土 (10YR 4-2)	粘土質アルト	地山小・中ブロックを多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	7	灰褐色土 (10YR 4-1)	粘土質アルト	地山小・中ブロックを少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	8	灰褐色土 (10YR 4-2)	シルト	地山小・中ブロックを少含む。	堆積土
	9	灰褐色土 (10YR 6-1)	砂質シルト	地山小・中ブロックを多く含む。	堆積土
	10	黒褐色土 (10YR 3-1)	粘土	地山小・中ブロックを少含む。	堆積土
	11	黒褐色土 (10YR 4-1)	粘土	地山輕く少含む。炭化物を極少含む。	堆積土
	12	黒褐色土 (10YR 5-1)	シルト質粘土	地山堅く極少含む。炭化物を~大ブロックを極少含む。	堆積土
	13	褐褐色土 (10YR 5-1)	シルト質粘土	地山堅く、少含む。炭化物を極少含む。	堆積土
SE16 D-D'	14	褐褐色土 (10YR 4-1)	シルト質粘土	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	15	褐褐色土 (10YR 4-1)	シルト質粘土	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	16	黒褐色土 (10YR 3-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	17	黒褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	18	黒褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	19	黒褐色土 (10YR 3-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	20	黒褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	21	黒褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	22	黒褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	23	黒褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	24	黒褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	25	黒褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	26	にふる灰褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	27	灰褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
SD14B E-E'	1	灰褐色土 (10YR 2-3)	シルト	地山堅く、少含む。地主柱を少含む。	堆積土
	2	褐色土 (10YR 2-1)	シルト	地山堅く、少ブロックを少含む。炭化物を極少含む。	堆積土
	3	褐色土 (10YR 2-2)	シルト	地山堅く、少ブロックを含む。地主柱を少含む。	堆積土
	4	灰褐色土 (10YR 4-1)	粘土質アルト	地山堅く、少ブロックを含む。地主柱を少含む。	堆積土
	5	灰褐色土 (10YR 2-1)	砂質シルト	地山堅く、少含む。	堆積土
	6	灰褐色土 (10YR 5-1)	粘土質アルト	地山堅く、少ブロックを含む。地主柱を少含む。	堆積土
	7	灰褐色土 (10YR 3-1)	粘土質アルト	地山堅く、少ブロックを含む。地主柱を少含む。	堆積土
	8	灰褐色土 (10YR 5-2)	シルト質粘土	地山堅く、少ブロックを含む。地主柱を少含む。	堆積土
SD20	9	灰褐色土 (10YR 4-2)	粘土質アルト	地山堅く、少ブロックを含む。地主柱を少含む。	堆積土
	10	灰褐色土 (10YR 4-1)	シルト質粘土	地山堅く、少ブロックを含む。地主柱を少含む。	堆積土
	11	黒褐色土 (10YR 4-1)	粘土	地山堅く、少ブロックを含む。地主柱を少含む。	堆積土
	12	黒褐色土 (10YR 5-1)	粘土	地山堅く、少ブロックを含む。地主柱を少含む。	堆積土
SD11 SD14B F-F'	1	灰褐色土 (5YR 4-1)	シルト質粘土	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。地主柱を少含む。	堆積土
	2	灰褐色土 (10YR 3-1)	シルト	地山堅く、少含む。炭化物を多く含む。地主柱を少含む。	堆積土
	3	黒褐色土 (10YR 3-1)	粘土質アルト	地山堅く、少含む。炭化物を多く含む。地主柱を少含む。	堆積土
	4	黑褐色土 (10YR 3-1)	粘土質アルト	地山堅く、少ブロックを少含む。炭化物を多く含む。地主柱を少含む。	堆積土
	5	黑褐色土 (10YR 3-1)	粘土質アルト	地山堅く、少ブロックを少含む。炭化物を少含む。地主柱を少含む。	堆積土
	6	黑褐色土 (10YR 2-2)	シルト質粘土	地山堅く、少ブロックを少含む。炭化物を少含む。地主柱を少含む。	堆積土
	7	褐褐色土 (10YR 4-1)	シルト質粘土	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。地主柱を少含む。	堆積土
	8	褐褐色土 (10YR 4-1)	粘土質アルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。地主柱を少含む。	堆積土
SD14A SD20	9	灰褐色土 (10YR 4-2)	粘土質アルト	地山堅く、少ブロックを多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	10	黑褐色土 (2S5Y 1-1)	シルト	地山堅く、少ブロックを多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	11	にふる灰褐色土 (10YR 4-1)	シルト	地山堅く、少ブロックを多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	12	黑褐色土 (10YR 3-1)	粘土	地山堅く、少ブロックを多く含む。炭化物を少含む。	堆積土
	13	灰褐色土 (10YR 4-2)	粘土質アルト	地山堅く、少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	14	灰褐色土 (10YR 4-2)	粘土質アルト	地山堅く、少ブロックを少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	15	黑褐色土 (10YR 3-1)	粘土	地山堅く、少ブロックを少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	16	黑褐色土 (10YR 3-1)	粘土	地山堅く、少ブロックを少含む。炭化物を少含む。	堆積土
	17	黑褐色土 (10YR 3-1)	粘土質アルト	地山堅く、少ブロックを少含む。炭化物を少含む。	堆積土



遺構名	序号	土色	土性	特徴	分類
SD11	1	褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山中へ大ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	堆積土
	2	褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山小へ大ブロックを多量含む。	堆積土
SE12	3	黒褐色 (10VR3/2)	シルト質粘土	地山粒を極少量含む。	堆積土
	4	褐色 (10YR4/3)	粘土	灰黄褐色 (10YR5/2) 痕との互層。	堆積土
SE12P2	5	褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山中へ大ブロックを多く含む。砂を少量含む。	堆積土
	6	灰褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山小ブロックを多く含む。	石組み堆積
P42	7	褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	掘方堆土
	8	褐色 (10YR6/1)	シルト質粘土	地山粒を少量含む。炭化物粒を極少量含む。	柱頭跡
	9	褐色 (10YR5/1)	砂質シルト	地山小ブロックを少量含む。炭化物粒を極少量含む。	掘方堆土

第13図 SE12 井戸跡 平面図・断面図

【構造・規模】素掘りの井戸跡である。検出面では長径約2.6m、短径約2.0m、掘削底面は長径約1.8m、短径約1.5mの楕円形を呈する。断面形は漏斗形を呈する。深さは約4.7m以上あり、凝灰岩層を約3.7m以上掘り込んでいる。

【堆積土】22層あり、最上部は地山ブロックを多く含む黒褐色～灰黄褐色シルト質粘土などで埋め戻されている。上部は、地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトや黒褐色～灰黄褐色粘土、中部は地山ブロックを含む黒褐色粘土や褐灰色粘土が自然堆積している。

【出土遺物】下層（18層以下）から瀬戸・美濃産碗（写真図版13-4）、磁器皿、在地産甕（中世）、須恵器壺・甕（第24図3）、加工痕のある材が出土している。

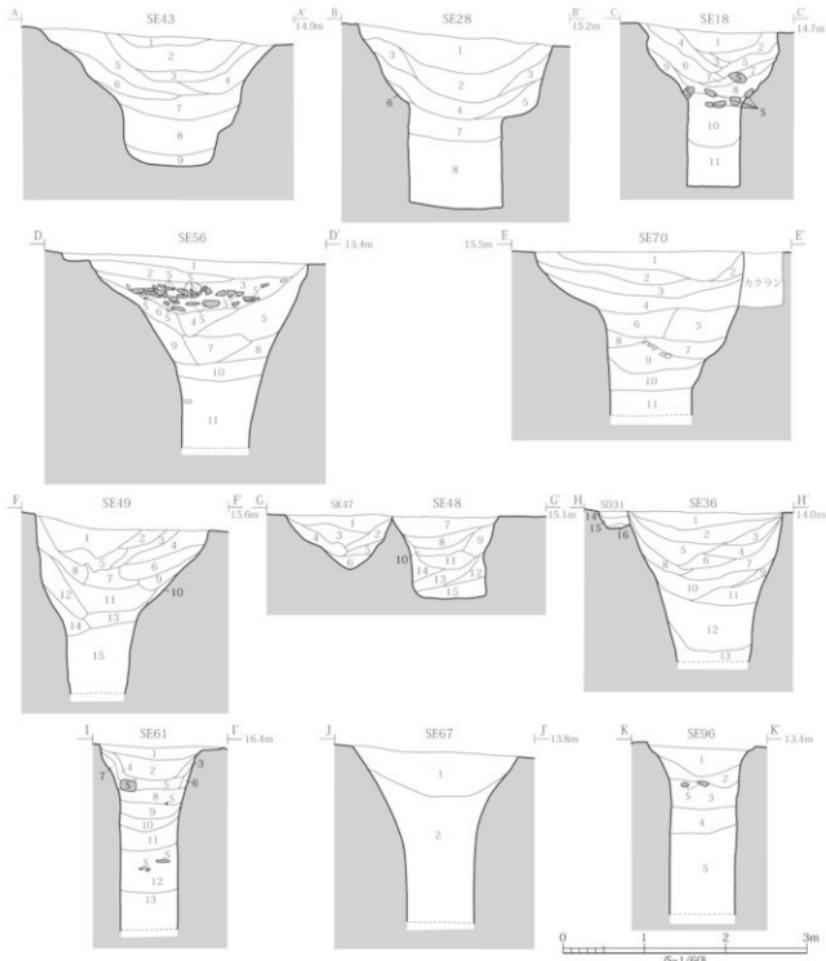
#### 【SE12 井戸跡】

【位置・検出面】調査区西側の南西隅部で確認した（第13図）。検出面はⅢ層である。

【重複】SD11・21自然流路跡と重複し、SD21より新しく、SD11よりも古い。

【構造・規模】石組みの井戸跡である。掘方の平面形は、検出面で長軸2.0m、短軸1.5mの楕円形、底面で径0.4mの円形、断面形は漏斗形を呈する。残存する深さは約0.9mで、凝灰岩層（Ⅲc層）を約0.6m掘り込んでいる。

【石組みの構造・規模】石組みの内径は約0.8mである。重量が0.6～28.5kgある円盤～角礫、切石



選択名	順序	土色	土性	特徴		分類
				地山	上部	
SE43 A-A'	1	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山一杯プロックを多少含む。炭化物粒を多く含む。地上部を極少量含む。		粗土
	2	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山一杯プロック全体。		粗土
	3	褐灰色 (10YR4/1)	粘土質シルト	炭化物粒一杯プロックを極少量含む。II x 矩対応。		粗土
	4	褐灰色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山を極少量含む。炭化物粒を極少量含む。		粗土
	5	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山一杯プロックを多少含む。炭化物粒を少量含む。		粗土
	6	褐灰色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山を極少量含む。		粗土
	7	黑褐色 (10YR3/2)	粘土	地山一杯プロックを極少量含む。		粗土
	8	黑褐色 (10YR3/2)	粘土			粗土
	9	黑褐色 (10YR3/2)	粘土	地山一杯プロックを多く含む。		粗土
SE28 B-B'	1	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山一杯プロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。		粗土
	2	褐灰色 (10YR4/1)	粘土質粘土	地山一杯プロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。		粗土
	3	褐灰色 (10YR4/1)	シルト質粘土	地山一杯プロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。		粗土
	4	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土	地山一杯プロックを少し含む。炭化物粒を極少量含む。		粗土
	5	褐黃褐色 (10YR3/2)	シルト質粘土	地山をラメ状に多く含む。炭化物粒を極少量含む。		粗土
	6	褐灰色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山をラメ状に極少量含む。		粗土
	7	褐灰色 (10YR4/1)	粘土	地山一杯プロックを少含む。		粗土
	8	褐灰色 (10YR4/1)	粘土	地山をラメ状に多く含む。		粗土

第14図 井戸跡 断面図 (セクションポイントの位置は第8図参照)

第5-1表 井戸跡 土層観察表

選択名	序号	土色	土性	特徴	分類
SE18 C-C'	1	黒褐色	[10YR3-2]	シルト質粘土 地山粒一小ブロックを少含む。炭化物粒を含む。礫・砂を多く含む。	粗粒土
	2	黒褐色	[10YR4-1]	シルト質粘土 地山粒一小ブロックを無含む。炭化物粒を少含む。礫・砂を極少量含む。	粗粒土
	3	黒褐色	[10YR4-1]	シルト質粘土 地山粒を極少量含む。炭化物粒を含む。	粗粒土
	4	黒褐色	[10YR4-1]	シルト質粘土 地山粒一小大ブロックを多く含む。炭化物粒を少含む。礫・砂を極少量含む。	粗粒土
	5	黒褐色	[10YR3-2]	シルト質粘土 地山粒一小ブロックを多く含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
	6	黒褐色	[10YR3-2]	粘土 地山粒一小ブロックを無含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
	7	黒褐色	[10YR4-1]	粘土 地山粒一小ブロックを多く含む。炭化物粒一小ブロックを少含む。	粗粒土
	8	黒褐色	[10YR4-1]	粘土 地山粒一大ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	粗粒土
	9	黒褐色	[10YR3-2]	粘土 地山粒を極少量含む。炭化物粒を極少量含む。	粗粒土
	10	黒褐色	[10YR4-1]	粘土 炭化物粒を含む。円・角塊を多く含む。	粗粒土
	11	黒褐色	[10YR4-1]	粘土 地山粒をラミ状に多く含む。	粗粒土
SE56 D-D'	1	黒褐色	[10YR4-1]	粘土質シルト 地山粒を多量含む。	粗粒土
	2	黒褐色	[10YR4-1]	粘土質シルト 地山粒一小ブロックを多く含む。	粗粒土
	3	黒褐色	[10YR4-1]	粘土質シルト 地山粒一小ブロックを多く含む。炭化物粒を少含む。礫を多く含む。	粗粒土
	4	灰褐色	[5Y3-1]	粘土 地山粒一小ブロックを少含む。	粗粒土
	5	灰褐色	[5Y3-1]	粘土 地山粒一小ブロックを無含む。	粗粒土
	6	黒褐色	[10YR3-2]	粘土質シルト 地山粒一小ブロックを無含む。	粗粒土
	7	灰褐色	[5Y4-1]	粘土 地山粒一小ブロックを多く含む。	粗粒土
	8	黄褐色	[2.5Y3-1]	粘土 地山粒一小ブロックを含む。	粗粒土
	9	黒褐色	[10YR3-1]	粘土質シルト 地山粒一小ブロックを少含む。	粗粒土
	10	黒褐色	[10YR3-2]	粘土 地山粒を含む。	粗粒土
	11	黒褐色	[10YR3-1]	粘土 灰褐色質シルトを含む。	粗粒土
SE20 E-E'	1	灰褐色	[10YR6-1]	粘土質シルト 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
	2	黄褐色	[10YR7-8]	粘土 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
	3	明黄色	[10YR6-6]	粘土 地山粒プロックを含む。	粗粒土
	4	黒褐色	[10YR5-1]	粘土質シルト 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
	5	明黄色	[10YR6-6]	粘土 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
	6	灰褐色	[10YR5-2]	粘土 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
	7	灰褐色	[10YR5-1]	粘土 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
	8	灰褐色	[10YR5-1]	粘土 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
	9	灰褐色	[10YR5-1]	粘土 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
	10	灰褐色	[5Y5-6]	粘土 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
	11	灰褐色	[5Y5-4]	粘土 地山粒プロックを多く含む。	粗粒土
SE49 F-F'	1	黒褐色	[10YR3-2]	粘土質シルト 地山粒を含む。	粗粒土
	2	黒褐色	[10YR5-1]	シルト 地山粒を含む。	粗粒土
	3	黒褐色	[10YR4-1]	シルト質粘土 地山粒を含む。	粗粒土
	4	黒褐色	[10YR3-3]	シルト 地山粒一小ブロックを少含む。	粗粒土
	5	黒褐色	[10YR3-1]	シルト質粘土 地山粒一小ブロックを少含む。	粗粒土
	6	黒褐色	[10YR4-1]	シルト 地山粒を含む。	粗粒土
	7	黒褐色	[10YR3-2]	シルト 地山粒一小ブロックを少含む。	粗粒土
	8	灰褐色	[10YR4-1]	粘土質シルト 地山粒一小ブロックを少含む。	粗粒土
	9	灰褐色	[10YR3-4]	粘土質シルト 地山粒を少含む。	粗粒土
	10	黒褐色	[10YR5-1]	シルト質粘土 砂を極少量含む。	粗粒土
	11	黒褐色	[10YR3-2]	シルト質シルト 砂を極少量含む。	粗粒土
	12	黒褐色	[10YR5-1]	シルト質粘土 砂を含む。	粗粒土
	13	黒褐色	[10YR4-1]	粘土質シルト 地山粒を極少量含む。砂を極少量含む。	粗粒土
	14	黒褐色	[10YR5-1]	粘土質シルト 地山粒を極少量含む。砂を極少量含む。	粗粒土
	15	黒褐色	[10YR3-2]	シルト質粘土 砂を多く含む。	粗粒土
SK47	1	黒褐色	[10YR3-2]	シルト 地山粒一大ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。礫・砂を極少量含む。	粗粒土
	2	黒褐色	[10YR3-2]	シルト 地山粒一大ブロックを多く含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
	3	灰褐色	[10YR4-2]	粘土質シルト 地山粒一大ブロックを多く含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
	4	灰褐色	[10YR5-2]	シルト 地山粒一大ブロックを含む。	粗粒土
	5	灰褐色	[10YR4-2]	シルト 地山粒一大ブロックを含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
SE48 G-G'	6	灰褐色	[10YR4-2]	シルト 地山粒一大ブロックを含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
	7	黒褐色	[10YR4-1]	シルト 地山粒一大ブロックを少含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
	8	灰褐色	[10YR4-2]	シルト 地山粒一大ブロックを含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
	9	灰褐色	[10YR5-2]	シルト 地山粒一大ブロックを含む。	粗粒土
	10	灰褐色	[10YR4-2]	シルト 地山粒一大ブロックを含む。	粗粒土
	11	黒褐色	[10YR3-3]	シルト 地山粒一大ブロックを含む。	粗粒土
	12	灰褐色	[10YR4-2]	シルト 地山粒一大ブロックを少含む。砂を含む。	粗粒土
	13	黒褐色	[10YR4-2]	シルト 地山粒一大ブロックを少含む。砂を含む。	粗粒土
	14	黒褐色	[10YR3-2]	シルト 地山粒一大ブロックを少含む。	粗粒土
	15	黒褐色	[10YR2-3]	粘土質シルト 地山粒一大ブロックを少含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
SE36 H-H'	1	黒褐色	[10YR5-1]	シルト 地山粒を少含む。	粗粒土
	2	黒褐色	[10YR4-1]	粘土質シルト 地山粒を少含む。	粗粒土
	3	灰白色	[10YR2-1]	シルト質粘土 地山粒を少含む。	粗粒土
	4	黒褐色	[10YR5-1]	シルト質粘土 地山粒を少含む。	粗粒土
	5	黒褐色	[10YR4-1]	シルト質粘土 地山粒を少含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土
	6	灰褐色	[10YR5-2]	粘土 地山粒一大ブロックを少含む。	粗粒土
	7	黒褐色	[10YR6-1]	粘土 地山粒一小ブロックを含む。	粗粒土
	8	黒褐色	[10YR5-1]	粘土 地山粒一小ブロックを含む。	粗粒土
	9	黒褐色	[10YR5-1]	シルト質粘土 地山粒一小ブロックを含む。	粗粒土
	10	黒褐色	[10YR5-1]	粘土 地山粒一小ブロックを含む。	粗粒土
SD31	11	灰白色	[10YR6-1]	粘土 地山粒一小ブロックを含む。	粗粒土
	12	黒褐色	[10YR4-2]	粘土 地山粒一小ブロックを含む。	粗粒土
	13	黒褐色	[10YR4-1]	粘土 地山粒一小ブロックを含む。	粗粒土
	14	黒褐色	[10YR4-1]	シルト 地山粒一小ブロックを少含む。	粗粒土
	15	黒褐色	[10YR3-3]	シルト 地山粒を極少量含む。	粗粒土
	16	黒褐色	[10YR3-2]	シルト 地山粒一小ブロックを少含む。炭化物粒を少含む。	粗粒土

第5-2表 井戸跡 土層観察表・一覧表

遺構名	構造	平面形	断面形	規範(m)	断面下部深さ	基準土	おもな遺物	備考	跡番号
									平面断面
SE61	H-	1	灰黄褐色 (20YR4/2)	粘土質シルト	地山→一小ブロックを少量化し、炭化物粒を極少量含む。	堆積土			
		2	黑褐色 (25Y3/1)	粘土質シルト	地山→一小ブロックを少量化し、炭化物粒を極少量含む。	堆積土			
		3	灰色 (5Y4/1)	粘土	地山→一小ブロックを少量化し、	堆積土			
		4	黑色 (5Y3/1)	粘土	地山→一小ブロックを少量化し、	堆積土			
		5	黄褐色 (25Y4/1)	粘土質シルト	地山→一小ブロックを少量化し、	堆積土			
		6	黑褐色 (25Y3/1)	粘土	地山→一小ブロックを極少量含む。	堆積土			
		7	褐灰褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山→一小ブロックを少量化し、	堆積土			
		8	黑褐色 (25Y3/1)	粘土	地山→一小ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	堆積土			
		9	黑褐色 (25Y4/1)	粘土	地山→一小ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	堆積土			
		10	褐灰褐色 (10YR4/1)	粘土	地山→一小ブロックを極少量含む。	堆積土			
		11	黑褐色 (25Y4/1)	粘土	地山→一小ブロックを少量化し、	堆積土			
		12	褐灰褐色 (25Y4/2)	粘土質シルト	地山→無機質含む。選別用色鉛を多く含む。	堆積土			
		13	黑褐色 (10YR3/1)	粘土	地山→一小ブロックを少量化し、砂を極少量含む。	堆積土			
SE67	J-J'	1	褐灰褐色 (10YR5/1)	粘土質シルト	地山→一小ブロックを多く含む。炭化物粒を極少量含む。	堆積土			
		2	黑褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	地山→無機質含む。	堆積土			
SE96	K-K'	1	褐灰褐色 (10YR4/1)	粘土	地山→一小ブロックを多く含む。炭化物粒を多く含む。	堆積土			
		2	黑褐色 (10YR3/1)	粘土	地山→一小ブロックを少量化し、炭化物粒を極少量含む。	堆積土			
		3	黑褐色 (10YR3/1)	粘土	地山→一小ブロックを多く含む。	堆積土			
		4	黑褐色 (10YR3/1)	粘土	地山→一小ブロックを多く含む。材を極少量含む。	堆積土			
		5	黑褐色 (10YR3/1)	粘土	地山→一小ブロックを少量化し、材を少量化含む。	堆積土			

などを3段以上積み上げている。積み上げられた礫は20個残存しており、安山岩12個、粘板岩4個、頁岩、凝灰岩、ホルンフェルス、花崗岩が各1個ある。掘方埋土の壁との間に地山ブロックを含む灰黄褐色粘土質シルトの裏込め土を入れている。なお、礫を据える範囲は断面直状に掘り窪められている。掘り方の壁の傾斜が変わるところに、径13~16cm、深さ27~42cmの小穴を3個検出した。そのうち1個(P2)には粘板岩礫(写真図版15)が据えられており、石組みの支柱のような役割を果たしていたと推定される。

【堆積土】4層あり、上部は黒褐色~褐灰色シルト質粘土~粘土質シルト、下部は褐灰色粘土が自然堆積している。

【出土遺物】石組みの一部と推定される切石(粘板岩)が出土している。

### 3. 土坑

34基検出した。諸属性を第6表にまとめている。これらのほとんどは中・小型の土坑であるが、自然流路跡と重複する大型で深い土坑を2基検出した。以下に詳しく述べる。

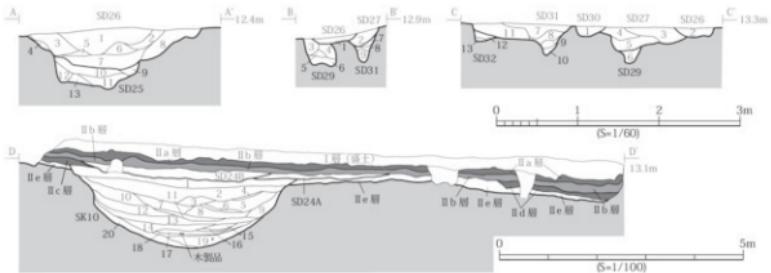
#### 【SK13 土坑】

【位置・検出面】調査区西側の南西隅部で確認した(第12図)。検出面はⅢ層である。

【重複】SD11自然流路跡と重複し、これよりも古い。



第15-1図 SK10土坑ほか 平面図



第15-2図 SK10土坑ほか 断面図

第6表 土坑・溝跡・自然流跡 一覧表

遺構名	平面形	断面形	大きさ (m)	深さ (m)	層積土	おもな遺物	参考	辨認番号				
								平面	断面			
SK66	不整方形	直角形	5.4 × 3.4	0.9	自然→人為	古代瓦、家構造材、大廈相馬瓦、廁、肥前瓦砾、瓦質灰燼、土鋪	粘土探査坑→丸窓土坑	8.1.17	17			
S67	不整形	直角形	3.3	0.7	自然→人為	古代瓦、家構造材、大廈相馬瓦、廁、瓦質灰燼、土鋪	粘土探査坑→丸窓土坑	8.1.17	17			
S68	不整形	直角形	2.0 × 1.3	0.1	自然	古代瓦、家構造材、肥前瓦砾、大廈相馬瓦等、在地盤探跡	丸窓土坑	8.1.17	17			
S69	圓形	直角形	1.8 × 0.8	0.3	自然	古代瓦、家構造材、肥前瓦砾、砾石	丸窓土坑	8.1.17	17			
SK10	圓形	直角形	6.7 × 4.4	1.7	自然	東海面探跡、在地盤、青白釉磁瓶、曲物底板	丸窓土坑	8.3.15-1	15-2			
SK11	圓形	直角形	径4.3	0.9	自然	肥前瓦砾、近世陶器、經跡	丸窓土坑	8.2-3.24	24			
SK12	圓形	直角形	1.1 × 0.9	0.4	自然	なし		8.2-3	-			
SK13	圓形	直角形	0.9 × 0.8	0.2	自然	なし		8.2-3	-			
SK14	不整形	直角形	1.1 × 0.7	0.3	自然	なし		8.2-3	-			
SK15	圓形	直角形	1.4 × 1.1	0.4	人為→自然	須恵器	丸窓土坑	8.2-3	-			
SK16	圓形	直角形	1.5 × 1.4	0.6	自然→人為	なし		8.2	14			
SK17	圓形	直角形	徑2.2	0.9	自然→人為→自然→人為	古代瓦、家構造材、切込瓦瓶	粘土探査坑→丸窓土坑	8.1.16	16			
SK18	圓形	直角形	12 × 0.21.3	0.6	自然→人為→自然	古代瓦、家構造材	丸窓土坑	8.1.16	16			
SK19	圓形	直角形	10 × 0.9	0.3	自然	石瓶		8.2	-			
SK20	不整形	直角形	1.8 × 1.6	0.4	人為	なし		8.2-3	-			
SK21	圓形	直角形	3.0 × 2.1	0.4	自然→人為	肥前瓦砾、近世陶器	丸窓土坑	8.2-3	11-2			
SK22	圓形	直角形	3.3 × 1.8	0.2	自然	なし		8.2-3-4	-			
SK23	圓形	直角形	1.4 × 1.0	0.2	自然	土器器		8.2-3-4	-			
SK24	不整形	直角形	1.6 × 1.4	0.4	自然→人為	須恵器		8.2	-			
SK25	不整形	直角形	1.1 × 1.2	0.3	自然	なし		8.2-3	11-2			
SK26	不整形	直角形	3.8 × 2.13.6	0.2	自然	古代瓦、家構造材、肥前瓦砾	丸窓土坑	8.1.16	16			
SK27	圓形	直角形	0.9 × 0.8	0.2	自然	なし		8.4	-			
SK28	圓形	直角形	徑1.0	0.2	人為	なし		8.3	-			
SK29	圓形	直角形	2.4 × 1.2	0.2	人為	天壇(大室) 瓦陶器、古世陶器切迹		8.3	-			
SK30	圓形	直角形	2.0 × 1.3	0.3	人為	なし		8.3	-			
SK31	圓形	直角形	徑0.9	0.1	自然	なし		8.3	-			
SK32	圓形	直角形	1.0 × 0.8	0.2	自然	なし		8.3	-			
SK33	圓形	直角形	2.2 × 1.2	0.1	自然	なし		8.3-4	-			
SK34	圓形	直角形	2.2 × 0.7	0.2	人為?	なし		8.2-3	11-2			
SK35	圓形	直角形	1.2 × 0.3	0.1	自然	なし		8.2-3	-			
SK36	圓形	直角形	1.2 × 0.6	0.2	自然	なし		8.2-3	-			
SK37	圓形	直角形	0.8 × 0.7	0.1	人為?	なし		8.2-3	-			
SK38	圓形	直角形	1.0 × 0.7	0.1	人為?	なし		8.2-3	-			
SK39	圓形	直角形	1.0 × 0.7	0.1	人為?	なし		8.2-3	-			
SK40	圓形	直角形	1.0 × 0.7	0.1	人為?	なし		8.2-3	-			
遺構名	断面形	規模 (m)			方向	堆積土	おもな遺物	参考	辨認番号			
		上幅	下幅	深さ					平面	断面		
SDH1	17.7	直角形	2.2	1.6	0.2	東西(E-N前後)、南北(N-S後)	自然	大廈相馬瓦、肥前瓦砾、便管、自然流跡	8.1-2-3	12		
SDH14	14.3	直角形	0.8 ~ 1.6	0.5	0.9	南北(N-23W~N-32E)	自然	東海面探跡、須恵器、土器器	自然流跡	8.1.12	12	
SDH15	4.9	直角形	0.4	0.4	0.1	南北(N-30E~N-35E)	自然	ガラス、土器器	自然流跡	8.1.12	-	
SDH17	1.7	直角形	0.3 ~ 0.5	0.1	0.2	0.04(E-N前後)、南北(N-S後)	自然	ガラス、土器器	自然流跡	8.1.12	12	
SDH19	4.6	直角形	0.3	0.3	0.1	南北(N-28E~N-35W)	自然	なし	自然流跡	8.1.12	12	
SDH20	11.5	直角形	0.4	0.2	0.1	東西(E-41S~E-45S)	自然	自然流跡、在地盤	自然流跡	8.1.12	12	
SDH21	3.3	直角形	0.4	0.2	0.1	東西(E-40N~E-45N)	自然	なし	自然流跡	8.1.12	12	
SDH22	1.6	直角形	0.8	0.4	0.2	南北(N-7E~N-17E)	自然	自然流跡	自然流跡	8.1-2	12	
SDH23	4.0	直角形	0.4	0.2	0.1	東西(E-15S~E-25S)	自然	なし	自然流跡	8.3	-	
SDH24	0.6	直角形	6.3	2.5	0.2	東西(E-2S~E-25S)	自然	須恵器	自然流跡	8.2-3, 12, 15-2	-	
SDH25	3.4	直角形	1.0	0.6	0.4	南北(N-17~27E)	自然	なし	自然流跡	8.3-15	15-2	
SDH26	19.7	直角形	0.5 ~ 2.3	0.2 ~ 0.7	0.1 ~ 0.5	南北(N-23W~N-37E)	自然	東海面 sond 断面、須恵器、近世船頭	自然流跡	8.3-15	15-2	
SDH27	11.7	直角形	0.2 ~ 0.6	0.1 ~ 0.2	0.2	南北(N-33S~N-35W)	自然	なし	自然流跡	8.2-3, 15-1	-	
SDH29	9.2	直角形	0.3 ~ 0.6	0.1 ~ 0.2	0.4	南北(N-12~31E)	自然	なし	自然流跡	8.3-15	15-2	
SDH30	1.3	直角形	0.4	0.2	0.1	東西(E-16~66E)	自然	なし	自然流跡	8.3-15	15-2	
SDH31	19.0	直角形	0.2 ~ 0.9	0.1	0.4	南北(N-15E~N-6W)	自然	なし	自然流跡	8.2-3, 15-1	15-2	
SDH32	8.5	直角形	0.4 ~ 0.4	0.1	0.2	南北(N-13S~N-15W)	自然	なし	自然流跡	8.2-3, 15-1	15-2	
SDH33	7.8	直角形	0.5	0.2	0.1	東西(E-32~39N)	自然	なし	自然流跡	8.3-15	-	
SDH42	6.5	直角形	0.5	0.2	0.2	南北(N-26~61E)	自然	なし	自然流跡	8.3-15	-	
SDH32	5.7	直角形	0.8 ~ 1.6	0.1 ~ 0.7	0.6	東西(E-10S~E-16S)	自然	ガラス、近代瓦	自然流跡	8.1.16	16	
SDH73	3.4	直角形	0.3以上	0.1以上	0.1	東西(E-25S~E-28S)	自然	なし		8-4	-	
SDH74	15.6	直角形	0.6	0.2	0.2	南北(N-15E~N-20E)	自然→人為	廐戸瓦瓶、須恵器	自然流跡	8.3-4	-	
SDH75	3.9	直角形	0.4	0.2	0.1	東西(E-14S~E-18S)	自然	なし	自然流跡	8-4	-	
SDH76	13.4	直角形	0.6 ~ 10	0.3	0.1	東西(E-25S~E-28S)	自然	須恵器、漆、黒	自然流跡	8.3-4	-	
SDH79	南北3.3、東西2.3	直角形	0.3	0.2	0.1	L字(南北:N-7E前後、東西:E-N前後)	自然	なし		8-4	-	
SDH80	南北16.0、東西5.0	直角形	0.5	0.2	0.1 ~ 0.2	L字(南北:N-13E前後、東西:E-16S前後)	自然	なし		8-4	-	
SDH81	10.9	直角形	0.3	0.2	0.1	南北(N-23S前後)	自然	古世陶器瓶、瓶跡		8-3	-	
SDH82	13.2	直角形	0.6	0.2	0.2	東西(E-24S~E-26S)	自然	廐戸瓦瓶	自然流跡	8.3-4	-	
SDH83	4.0	直角形	0.5	0.3	0.1	東西(E-42S~E-45S)	自然	なし		8-3	-	
SDH88	3.4	直角形	0.4	0.2	0.1	東西(E-37S~E-40S)	自然	なし		8-3	-	
SDH91	1.9	直角形	0.6	0.3	0.2	東西(E-30S~E-35S)	自然	自然流跡	自然流跡	8.3-15	-	
SDH92	2.9	直角形	0.5	0.2	0.2	東西(E-30S~E-35S)	自然	なし		8-4	-	
SDH94	4.1	直角形	0.6	0.3	0.1	南北(N-12E前後)	自然	東海面探跡	自然流跡	8.2-3	-	
SDH97	8.7	直角形	1.4	1.0	0.2	南北(N-38E前後)	自然→人為	須恵器、漆、黒	自然流跡	8-2	-	
SDH98	南北1.7、東西2.3	直角形	0.3	0.1	0.2	L字(南北:N-29E前後、東西:E-10S前後)	自然	なし		8-1	-	
SDH102	1.6	直角形	0.4	0.2	0.1	南北(N-5E前後)	自然	なし		自然流跡	8.2-3	-
SDH103	2.1	直角形	0.5	0.2	0.1	南北(N-23S前後)	自然	なし		自然流跡	8.3-4	-
SDH104	2.7	直角形	0.4	0.3	0.2	東西(E-42N~E-45N)	自然	なし		自然流跡	8-4	-
SDH105	4.4	直角形	0.8	0.4	0.1	東西(E-4N前後)	自然	なし		自然流跡	8.3-4	-
SDH108	2.4	直角形	0.2	0.1	0.2	南北(N-24S前後)	自然	なし		自然流跡	8.1-12	-
SDH110	21.4	直角形	1.5	1.2	0.2	東西(E-10S前後)	自然	須恵器	自然流跡	8.2-3 ~ 4	-	
SDH116	1.6	直角形	0.3	0.2	0.1	南北(N-28E前後)	自然	なし		自然流跡	8-3	-
SDH117	0.9	直角形	0.4	0.2	0.1	東西(E-18N前後)	自然	なし		自然流跡	8.2-3, 12, 15-1	-
SDH120	4.5	直角形	1.2	0.9	0.1	南北(N-38E前後)、東西(E-35S前後)	自然	なし		自然流跡	8.2-3	-
SDH121	5.8	直角形	0.9	0.6	0.1	東西(E-6S前後)、南北(N-13E前後)	自然	なし		自然流跡	8-2	-
SDH122	6.7	直角形	1.1	0.8	0.1	東西(E-17S前後)	自然	なし		自然流跡	8-2	-
SDH124	0.7	直角形	0.4	0.3	0.2	東西(E-34S前後)	自然	なし		自然流跡	8.3-4	-

【規模】検出面では径約4.3m、底面は径約1.5mの円形を呈する。断面形は皿形で、底面から約0.2mのところに浅い段が付く。深さは約0.9mあり、凝灰岩層を約0.3m掘り込んでいる。

【堆積土】12層あり、上部は褐灰色シルト質粘土、中部は褐灰色シルト質粘土や、地山ブロックを含む黒褐色粘土、中部は地山ブロックを含む黒褐色粘土、下部は褐灰色シルト質粘土がおもに自然堆積している。

【出土遺物】下層から肥前産碗、上層から肥前産碗や近世以降の陶器碗・擂鉢などが出土している。また、上層から井戸（SE12か）の石組みの部材と推定される蝶が多量に出土している。

#### 【SK10 土坑】

【位置・検出面】調査区南側の南西隅部で確認した（第15-1図）。遺構掘込面はⅡe層である。

【重複】SD22・24・25・26・29・42自然流路跡と重複し、SD22・25・26・29・42より新しく、SD24よりも古い。

【規模】検出面では長径約6.7m、短径約4.4m、底面は長径約2.3m、短径約1.0mの楕円形を呈する。深さは約1.7mあるが、凝灰岩層までは到達していない。断面形は皿形を呈する。

【堆積土】20層あり、上部はおもに黒褐色シルト質粘土～粘土質シルト、中部は黒褐色～黄灰色粘土質シルトで一部に地山崩壊土が含まれ、下部はおもに黒褐色シルト質粘土～粘土質シルト、黒色～褐灰色粘土が自然堆積している（第15-2図）。

【出土遺物】下層から在地産壺・片口擂鉢（第18-1図11）など、中層から青白磁梅瓶（同図3）や常滑産甕（同図5・6）、東海産片口擂鉢（同図4）、在地産（伊豆沼か）甕（同図14）、上層から在地産甕が出土している。いずれも中世の陶磁器である。ほかに、土師器壺や須恵器壺（第24図1）・壺（同図7）・甕、丸瓦（第24図10・11）、砥石、縄文時代の磨製石斧（第25図2）や石皿、磨石（同図5）、四石、曲物（第18-4図1）などが出土している。曲物は放射性炭素年代測定で、13世紀前葉～中頃の年代値が得られた（付章参照）。

## 4. 溝跡・自然流路跡

溝跡を17条、自然流路跡を31条検出した。これらの諸属性を第6表にまとめた。溝跡は、調査区の北側や南東隅部で多く検出しており、近現代の田面の区画や、人为的に形成された崖線に沿うものが多い。自然流路跡は、調査区の南西隅部や中央部南側で多く検出しており、これらは調査区の南を流れる、古代以降のSD200沢跡に流れ込むものとみられる。

## 5. 瓦生産関連遺構

調査区の北西部で瓦生産に伴う遺構群を検出した。瓦窯跡1基、瓦廐棄土坑7基、焼け面1箇所がある。また、これらの遺構群の周辺の旧表土（Ⅱ層）中から大量の瓦が出土している。これらの瓦はいずれも近世以降の桟瓦葺に用いられる瓦であり、これらの遺構群も桟瓦生産に関連する遺構である。以下に、おもな遺構について述べる。



第16図 SR5窯跡、SK51・53・69土坑ほか 平面図・断面図 (遺物: 断面図の濃いアミは瓦、白抜きは煉瓦・粘土塊を表す)

第7表 瓦窯跡・瓦廃棄土坑ほか土層観察表

遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SK69	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物粒へ大ブロックを極多量含む。燒土塊を少量含む。瓦・窯構造材を極多量含む。	堆積土 (窯操作時焼棄物)
	2	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	燒山灰へ大ブロックを多量含む。炭化物粒を少量含む。10YR3/2灰黃褐色粘土質シルト中ブロックを多く含む。	柱抜け穴
P108	3	黒褐色 (10YR1/2)	シルト質粘土	燒山灰へ大ブロックを多く含む。10YR4/2灰黃褐色粘土質シルト中ブロックを少量含む。	掘方埋土
	4	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	燒山灰へ大ブロックを極多量含む。	掘方埋土
	5	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	燒山灰へ大ブロックを極多量含む。	掘方埋土
	6	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	燒山灰へ大ブロックを含む。	掘方埋土
	7	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	燒山灰へ大ブロックを含む。	堆積土
	8	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	燒山灰へ小ブロックを少量含む。炭化物粒を極多量含む。部分的に燒土粒へ小ブロックを多量含む。	堆積土 (窯操作時焼棄物)
	9	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	燒山灰へ小ブロックを多く含む。炭化物粒へ小ブロックを極多量含む。部分的に燒土粒へ小ブロックを多量含む。	堆積土
SX89	1	灰黃褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	燒山灰へ小ブロックを少量含む。炭化物粒へ小ブロックを極多量含む。部分的に燒土粒へ小ブロックを多量含む。	堆積土 (窯操作時焼棄物)
	2	12.5cm赤褐色 (2.5YR6/4)	粘土質シルト	燒山灰へ小ブロックを多く含む。炭化物粒を多く含む。燒土粒へ小ブロックを含む。	堆積土
	3	綠灰色 (10GY5/1)	粘土	燒山灰へ	堆積土
	4	赤褐色 (10R2/1)	シルト	炭化物粒を極多量含む。以前の硬化部分の殻を含む。	堆積土
	5	綠灰色 (10GY5/1)	粘土	燒山灰へ	堆積土
SR5	6	赤褐色範囲	綠褐色 (10R2/4)	粘土	燒山灰へ
	7	12.5cm赤褐色 (2.5YR6/4)	粘土質シルト	燒山灰へ小ブロックを多く含む。炭化物粒へ小ブロックを多量含む。	堆積土 (窯操作時焼棄物)
	8	綠灰色 (10GY5/1)	粘土	燒山灰へ	堆積土
	9	赤褐色 (10R2/1)	シルト	燒山灰へ	堆積土
	10	綠褐色 (10GY5/1)	粘土	燒山灰へ	堆積土
SK51	1	黒褐色 (10YR1/2)	シルト	燒山灰へ大ブロックを多く含む。炭化物粒へ小ブロックを多量含む。燒土粒へ中ブロックを多量含む。瓦・窯構造材を極多量含む。	堆土 (窯操作時焼棄物)
	2	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	炭化物粒へ中ブロックを極多量含む。燒土粒へ小ブロックを少量含む。瓦・窯構造材を多く含む。	堆土
	3	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	燒山灰へ小ブロックを多く含む。炭化物粒へ小ブロックを多量含む。燒土粒へ中ブロックを多量含む。	堆土
	4	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物粒を多く含む。	堆土
	5	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	炭化物粒を極多量含む。燒土粒へ大ブロックを少量含む。瓦・窯構造材を多く含む。	堆土
	6	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	燒山灰へ小ブロックを多く含む。炭化物粒を少量含む。燒土粒へ大ブロックを極多量含む。	堆土 (窯操作時焼棄物)
	7	黒褐色 (10YR1/2)	粘土質シルト	炭化物粒へ中ブロックを極多量含む。燒土粒へ中ブロックを少量含む。	堆土
	8	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物粒を少量含む。	堆土
	9	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	燒山灰をナラ木板に多く含む。	堆土
	10	灰黃褐色 (10YR2/2)	シルト	燒山灰をナラ木板に多く含む。炭化物粒へナラ木板を極多量含む。瓦・窯構造材を多く含む。	堆土 (窯操作時焼棄物)
SD52	1	暗褐色 (10YR2/3)	シルト	炭化物粒へ小ブロックを多く含む。炭化物粒へナラ木板を極多量含む。燒土粒へ中ブロックを多く含む。	堆土
	2	暗褐色 (10YR2/3)	シルト	炭化物粒へ小ブロックを多く含む。燒土粒へ中ブロックを多く含む。	堆土
SK53	3	暗褐色 (10YR2/3)	シルト	燒山灰を少量含む。炭化物粒へ大ブロックを多く含む。燒土粒へ中ブロックを多く含む。	堆土
	4	暗褐色 (10YR2/3)	シルト	燒山灰を少量含む。炭化物粒へ大ブロックを多く含む。燒土粒へ中ブロックを多く含む。	堆土
	5	暗褐色 (10YR2/3)	シルト	燒山灰を少量含む。炭化物粒へ大ブロックを多く含む。燒土粒へ中ブロックを多く含む。	堆土
	6	暗褐色 (10YR2/3)	シルト	燒山灰を少量含む。炭化物粒へ大ブロックを多く含む。燒土粒へ中ブロックを多く含む。	堆土
	7	暗褐色 (10YR2/3)	シルト	燒山灰を少量含む。炭化物粒へ大ブロックを多く含む。燒土粒へ中ブロックを多く含む。	堆土 (窯操作時焼棄物)
	8	暗褐色 (10YR2/3)	シルト	燒山灰を少量含む。炭化物粒へ大ブロックを多く含む。燒土粒へ中ブロックを多く含む。	堆土
	9	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	炭化物粒を少量含む。燒土粒へ中ブロックを多く含む。	堆土 (窯操作時焼棄物)
	10	黒褐色 (10YR2/3)	シルト質粘土	燒山灰を少量含む。	堆土

## (1) 瓦窯跡

## [SR5 窯跡]

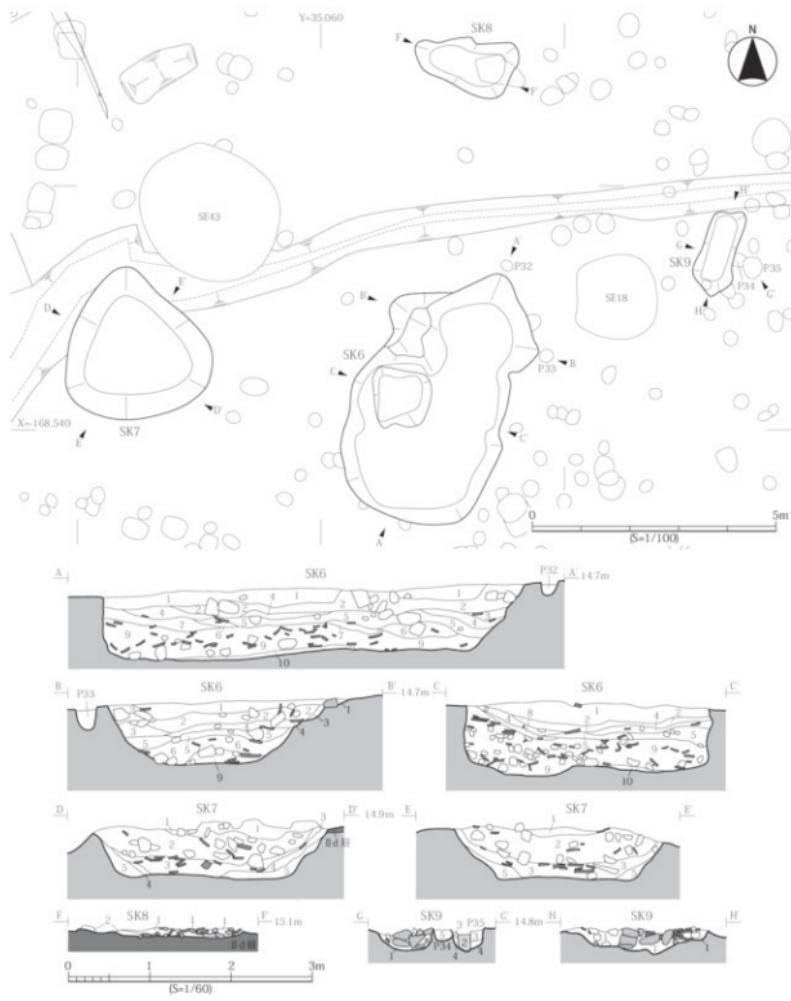
[位置・検出面] 調査区の北西隅部で確認した(第16図)。遺構掘込面はⅡc層である。

[重複] 西側建物跡群より新しく、炭化物や焼土が集積している範囲(SX89)よりも古い。

[構造・規模] 後世の開田工事により南東部が大きく削平されているため、燃焼部と瓦列の一部のみの残存である。残存する長さが約2.2m、幅約1.9mである。燃焼部は長径約1.5m、短径約0.8m、深さ8cmで、断面が浅い皿形に掘り窪められている。燃焼部の外側(南西側)は長さ約2.2m、幅約0.7m、深さ10cmで、断面が浅い皿形の構状に掘り窪められており、地山ブロックや焼土を含むにぶい赤褐色シルトで埋め戻されている。その上に、約1.2mにわたって棟瓦や鳥伏間、熨斗瓦が並べられており(第19図)、窯の構造材として瓦が用いられたことがわかる。なお、燃焼部の周囲と瓦列の東側が被熱により赤色化している。

[燃焼部] 緑灰色粘土の硬化面(還元面)が2面(A→B)認められる。硬化面Aは長径約1.3m、短径約0.8mの範囲で、最大厚が6cmあり、硬化面Bは長径約0.8m、短径約0.5mの範囲で、最大厚が4cmある。その間に長径約0.7m、短径約0.6mの範囲で、最大厚5cmの炭化物や炭化した土壌を含む赤褐色の層がある。

[出土遺物] 瓦列直下の溝状掘り込みの埋土から瓦が出土している。



第 17 図 SK6・7・8・9 土坑 平面図・断面図 (遺物: 濃いアミは瓦、薄いアミは礪、白抜きは煉瓦・粘土塊を表す)

## (2) 瓦廐棄土坑

調査区の北西部で 7 基検出した(第 16・17 図)。検出面は II c ~ III 層である。いずれも瓦類のほか、煉瓦や粘土塊、礪など、窯の壁や通焰溝などの構造材に用いられたものがきわめて多く出土している。

第8表 瓦磨棄土坑 土層観察表

遺構名	序号	土色	土性	特徴		分類
				地山	壁	
SK6 A/A' B/B' C/C'	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山小~大ブロックを多く含む。炭化物粒~小ブロックを多く含む。燒土粒~中ブロックを含む。	瓦を少量含む。	埋土 (窯場跡付焼却場)
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山小~大ブロックを含む。炭化物粒~小ブロック、瓦を少量含む。燒土小~大ブロックを極多量含む。	瓦を少量含む。	
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	地山小~大ブロックを含む。瓦を極少量含む。炭化物粒~小ブロックを含む。	瓦を極少量含む。	
	4	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	地山小~大ブロックを含む。炭化物粒~小ブロックを極多量含む。燒土小~大ブロックを極少量含む。	瓦を少量含む。	
	5	明赤褐色 (5YR5/6)	シルト	燒土ブロックが主流。地山小~大ブロックを含む。炭化物粒~小ブロックを少量含む。瓦を少量含む。	瓦を含む。	
	6	黒褐色 (10YR2/2)	シルト質粘土	地山小~大ブロックを多く含む。炭化物粒~小ブロックを多く含む。燒土小~中ブロックを多く含む。	瓦を含む。	
	7	黒褐色 (7.5YR3/2)	粘土質シルト	地山小~中ブロックを含む。炭化物粒~小ブロックを含む。瓦を少量含む。	瓦を含む。	
	8	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	地山小~中ブロックを含む。瓦を極少量含む。炭化物粒~小ブロックを含む。	瓦を含む。	
	9	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	地山小~中ブロックを含む。炭化物粒~小ブロックを含む。瓦を少量含む。	瓦を含む。	
	10	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	地山を1/3以上多く含む。		
P32	10	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを少く含む。炭化物粒を少く含む。		埋土 (窯場跡付焼却場)
P33	10	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを少く含む。炭化物粒を少く含む。		
SK7 D/D' E/E'	1	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山小~中ブロックを多く含む。瓦・窯構造材を多く含む。		埋土 (窯場跡付焼却場)
	2	灰~灰褐色 (2.5YR4/4)	粘土質シルト	地山中~大ブロックを少く含む。瓦・窯構造材を少く含む。		
SK8 F/F'	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	炭化物粒を1/4以上多く含む。瓦・窯構造材を多く含む。		埋土 (窯場跡付焼却場)
	4	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山を極少量含む。炭化物粒を少く含む。		
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	地山を1/3以上多く含む。		
	1	黒褐色 (10YR2/1)	粘土質シルト	炭化物粒~中ブロックを極多量含む。瓦・窯構造材を多く含む。		
SK9 GG'	2	赤褐色 (5YR4/8)	シルト	燒土大ブロックと地山粒を多く含む。窯構造材を多く含む。		(窯場跡付焼却場)
	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト質粘土	地山小~中ブロックを極少量含む。炭化物粒を多く含む。燒土粒を含む。		
P35 H/H'	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物粒を多く含む。		埋土 (窯場跡付焼却場)
	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物粒を多く含む。燒土粒を極少量含む。地山粒~小ブロックを少く含む。		
	4	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山中~大ブロックを多く含む。炭化物粒を少く含む。		
P34	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山中~大ブロックを少く含む。炭化物粒を多く含む。燒土粒を少く含む。		

以下に、遺構ごとに述べる。

### 【SK6 土坑】

[重複] SB130 建物跡（中央部1群）、SB149・150 建物跡（中央部2群）と重複し、これらより新しい。

[構造・規模] 長径約5.4m、短径約3.4mの不整な楕円形を呈する。深さが約0.9mある。底面はほぼ平坦であるが、西側の底面付近で径約1.2m、深さ19cmの大きさに浅く掘り窪められている。壁が急に立ち上がり、断面形は箱形を呈するが、北西隅の一部で壁の傾斜が緩やかになっている。底面は凝灰岩層で、一部では最大15cm掘り込んでいる。

[堆積土] 10層あり、下部は炭化物を多く含む黒褐色粘土質シルトが自然堆積し、上部は炭化物や焼土、地山ブロックを多く含む黒褐色～灰黄褐色シルト質粘土～粘土質シルトで埋め戻されている。

[出土遺物] 自然堆積層からは、棧瓦や軒瓦（第20-1図1・2・12・13・16）、袖瓦（第20-2図2・3）、巴瓦（同図6）、棟瓦（第20-5図2）、棟込瓦（第20-2図7～9・12・15）、鬼瓦（第20-3図、20-4図1・2・4）、板塀瓦などの瓦類や窯構造材が出土している。これらの総重量は、瓦類約700kg、焼瓦約76kg、粘土塊約450kg、礫約7kgに上る。他に大堀相馬産片口鉢や在地産擂鉢（第23図1）、瓦質の窯道具（第22図4）などが出土している。埋土からは、棧瓦や軒瓦（第20-1図3・7・10・11・17）、隅瓦（第20-2図5）、巴瓦、棟瓦、鬼瓦（第20-4図5）、熨斗瓦などの瓦類や窯構造材が出土している。これらの総重量は、瓦類約340kg、焼瓦約200kg、粘土塊約360kg、礫約7kgに上る。ほかに、肥前産碗や大堀相馬産土瓶、在地産擂鉢、瓦質の焜炉（第22図2）や土鍤（第22図5）、さらに、転用砥（棧瓦）（第20-5図7）や砥石（写真図版21-5）が出土している。

### 【SK7 土坑】

〔重複〕 SB142 建物跡（中央部 2 群）と重複し、これより新しい。

〔構造・規模〕 径約 3.1m の不整形を呈する。深さが約 0.7m ある。底面はほぼ平坦で、壁がやや急に立ち上がる断面逆台形を呈する。凝灰岩層の上面で土坑の掘削が終わっている。

〔堆積土〕 5 層あり、下部は炭化物を多く含む黒褐色シルトが自然堆積し、上部は焼土や地山ブロックを多く含む黒褐色やにぶい赤褐色の粘土質シルトで埋め戻されている。

〔出土遺物〕 自然堆積層からは、棟瓦や軒瓦（第 20-1 図 4）、棟瓦、棟込瓦（第 20-2 図 10・13）、熨斗瓦、鬼瓦、板塀瓦などの瓦類や窯構造材が出土している。これらの総重量は、瓦類約 63kg、煉瓦約 14kg、粘土塊約 135kg、礫約 10kg に上る。他に大堀相馬產土瓶（第 23 図 3・5）や在地産擂鉢、瓦質焜爐（第 22 図 1）などが出土している。埋土からは、棟瓦や軒瓦（第 20-1 図 5・6・8・9）、棟瓦（第 20-5 図 1）、棟込瓦（第 20-2 図 14）、袖瓦、巴瓦、鬼瓦（第 20-4 図 8）、熨斗瓦などの瓦類や窯構造材が出土している。これらの総重量は、瓦類約 120kg、煉瓦約 390kg、粘土塊約 320kg に上る。他に美濃產丸皿や大堀相馬（推定）產土瓶（第 23 図 4）、瓦質土器火鉢（第 21 図 1）、瓦質焜爐（第 22 図 2）などが出土している。なお、瓦質焜爐は SK6 土坑出土のものと接合する。

### 【SK8 土坑】

〔重複〕 なし。

〔構造・規模〕 長さ約 2.0m、幅約 1.3m の不整形を呈する。深さは約 0.1m ある。底面はほぼ平坦で、断面形は浅い皿形を呈する。II d 層中で土坑の掘削が終わっている。

〔堆積土〕 2 層あり、下部は焼土や地山粒を多く含む赤褐色シルト、上部は炭化物をきわめて多く含む黒褐色粘土質シルトが自然堆積している。

〔出土遺物〕 棟瓦や軒瓦、棟込瓦（第 20-2 図 11）、鬼瓦、塀瓦（第 20-5 図 6）などの瓦類や窯構造材が出土している。これらの総重量は、瓦類約 50kg、煉瓦約 8kg、粘土塊約 19kg に上る。他に肥前產碗や大堀相馬產壺、在地産擂鉢（第 23 図 2）などが出土している。

### 【SK9 土坑】

〔重複〕 SB150・157 建物跡（中央部 2 群）と重複し、これより新しい。

〔構造・規模〕 長径約 1.8m、短径約 0.8m の楕円形を呈する。深さは約 0.3m ある。底面はほぼ平坦で、断面形は皿形を呈する。凝灰岩層までは土坑の掘削が到達していない。

〔堆積土〕 1 層あり、炭化物や焼土を多く含む灰黃褐色シルト質粘土が自然堆積している。

〔出土遺物〕 棟瓦や軒瓦、板塀瓦などの瓦類や窯構造材が出土している。これらの総重量は、瓦類約 42kg、煉瓦約 19kg、粘土塊約 41kg、礫約 110kg に上る。他に肥前產皿（第 23 図 6）や砥石、切石などが出土している。なお、砥石や切石は窯構造材として転用された可能性がある。

### 【SK51 土坑】

〔重複〕 なし。

〔構造・規模〕 径約 2.2m の円形を呈する。深さが約 0.9m ある。底面はほぼ平坦であるが、長径約 0.7m、短径約 0.5m の円形の浅い窪みがある。壁がやや急に立ち上がり、断面逆台形を呈する。凝灰岩層ま

では土坑の掘削が到達していない。

【堆積土】9層あり、最下部は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトが自然堆積しており、下部は炭化物や焼土、地山ブロックをきわめて多く含む黒褐色粘土質シルトで埋め戻されている。上部は炭化物や焼土、地山ブロックを多く含む黒褐色～暗褐色粘土質シルト～シルトで埋め戻されている。

【出土遺物】棟瓦（第20-2図4）や軒瓦（第20-1図14・15）、棟瓦、巴瓦、鬼瓦（第20-4図3・6・7）、熨斗瓦（第20-5図3・4）、隅木蓋瓦（同図5）などの瓦類や窯構造材が出土している。これらの総重量は、瓦類約300kg、煉瓦約84kg、粘土塊約29kgに上る。他に切込産皿（第23図8）が出土している。

#### 【SK53 土坑】

【重複】SD52溝跡と重複し、これよりも古い。

【構造・規模】一部のみの検出であるが、径約1.2m以上の円形を呈すると推定される。確認できた深さは約0.5mで、底面には凹凸が見られる。壁がやや急に立ち上がり、断面逆台形を呈する。凝灰岩層までは土坑の掘削が到達していない。

【堆積土】7層あり、下部は炭化物や地山ブロックを多く含む黒褐色～暗褐色粘土質シルト～粘土質シルトが自然堆積しており、上部は炭化物を多く含む暗褐色粘土質シルトで埋め戻されている。最上部は炭化物をきわめて多く含む黒褐色粘土質シルトが自然堆積している。

【出土遺物】棟瓦などの瓦類や窯構造材が出土している。これらの総重量は、瓦類約5kg、煉瓦約0.1kg、粘土塊約0.5kgに上る。

#### 【SK69 土坑】

【重複】西側建物跡群と重複し、これらより新しい。

【構造・規模】確認できた長さ約3.8m、幅約1.3mの不整形を呈する。深さは約0.2mある。底面はほぼ平坦で、断面形は浅い皿形を呈する。凝灰岩層までは土坑の掘削が到達していない。

【堆積土】1層あり、炭化物をきわめて多く含む黒褐色粘土質シルトが自然堆積している。

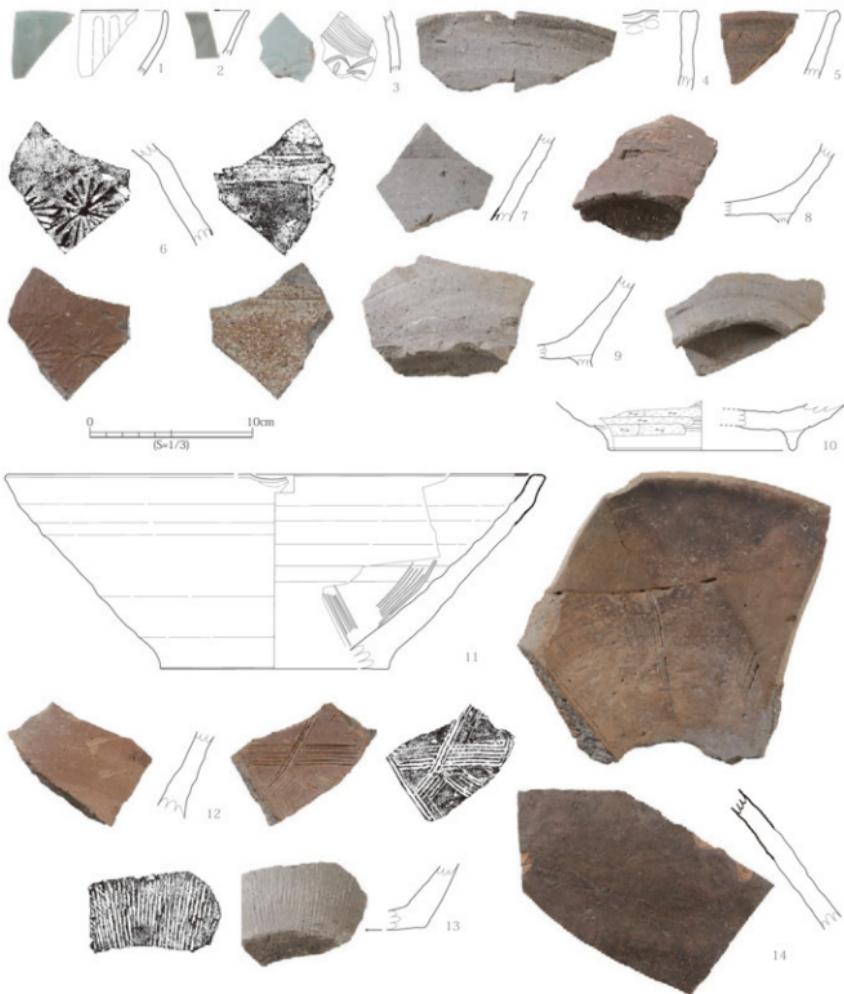
【出土遺物】棟瓦や軒瓦（第20-1図18）、隅瓦、鬼瓦、熨斗瓦などの瓦類や窯構造材が出土している。これらの総重量は、瓦類約110kg、粘土塊約13kgに上る。他に肥前産碗や瓦質の窯道具（第22図3）などが出土している。

## 6. その他の出土遺物

ここでは、平成23年度発掘調査で出土した遺物のうち、主要な遺構以外から出土したものについて種類ごとにまとめ、おもなものについて提示した。

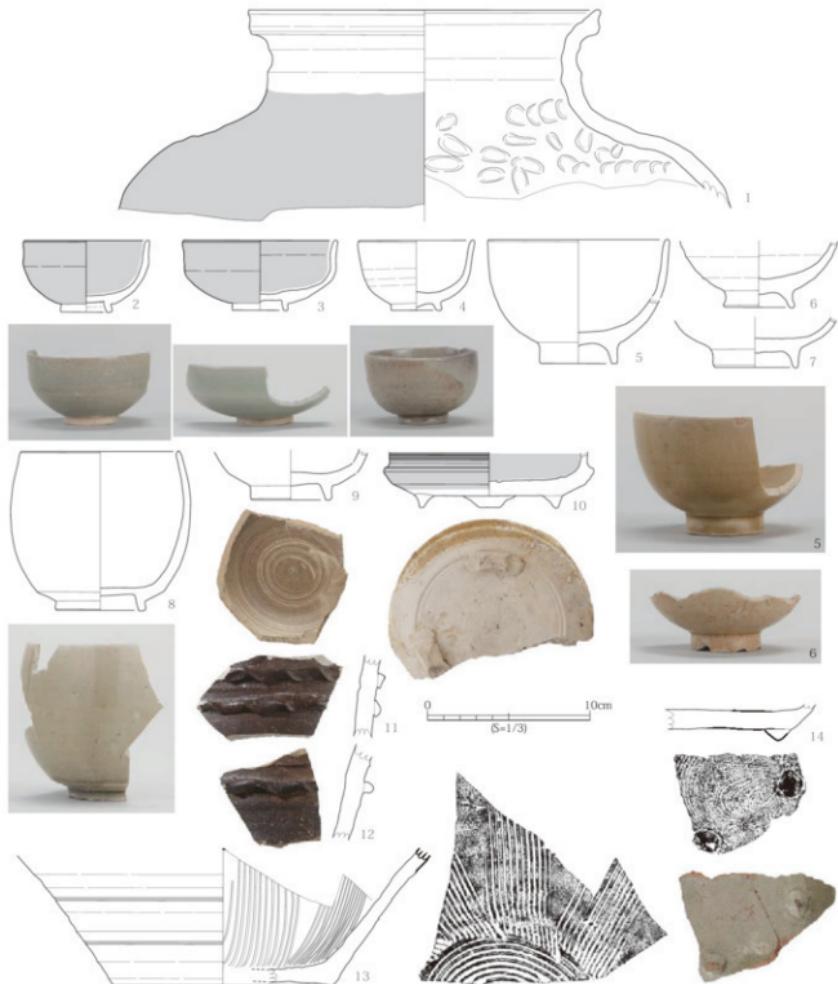
陶磁器は、中世～近代のものが出土している。

中世の陶器は、SD20自然流路跡から東海産擂鉢（第18-1図7・9）、SD97溝跡から在地産（白石）片口擂鉢（同図12）、SE36井戸跡から在地産擂鉢（同図13）、遺構確認面から東海産擂鉢（同図8・10）や在地産（白石）甕（第18-2図1）が出土している。なお、東海産陶器は大半が調査区西側からの出土である。磁器は、P71柱穴と遺構確認面から青磁碗（第18-1図1・2）が出土している。



No.	種別	器種	造締 / 組	産地	特徴	写真版	⑧録
1	青磁	瓶	P71・粗鉄路	能登島?	(図) 粗口瓶締, 13C	12-1	C-72
2	青磁	瓶	三区西・礎道面		13~14C	12-2	C-76
3	青白磁	滑瓶	SK10・印刷		13C	12-3	C-22
4	陶器	片口横脉	SK10・8層	東海	13C	12-4	C-19
5	陶器	壺	SK10・印刷	常滑	13C 前	12-5	C-21
6	陶器	壺	SK10・印刷	常滑	押印(菊花文), 12~13C	12-7	C-20
7	陶器	瓶	SD20・堆積土	東海		12-9	C-33
8	陶器	瓶	三区西・礎道面	東海	高台付, 外面: ケズリ, 13C 後	12-12	C-87
9	陶器	瓶	SD20・堆積土	東海	高台付, 外面: ケズリ, 13C	12-10	C-34
10	陶器	瓶	1 A 1K・礎認定	東海	高台付 112mm, 高台付, 外面: ケズリ, 13C 中~後	12-11	C-91
11	陶器	片口横脉	SK10・10~20	白石	(口徑 300mm, 底径 140mm), 器高120mm, 裂田, 14C 前	12-16	C-17
12	陶器	瓶	SD07・堆積土	白石	鋸目, 13C 前~14C 前	12-13	C-97
13	陶器	瓶	SE26・堆積土	在地	須彌形系, 外面: 平打タクキ, 12C	12-14	C-44
14	陶器	壺	SK10・印刷	練豆泥?	内面: オサム, 13C 後	12-15	C-16

第 18-1 図 中世の遺物（陶器・青磁・青白磁）



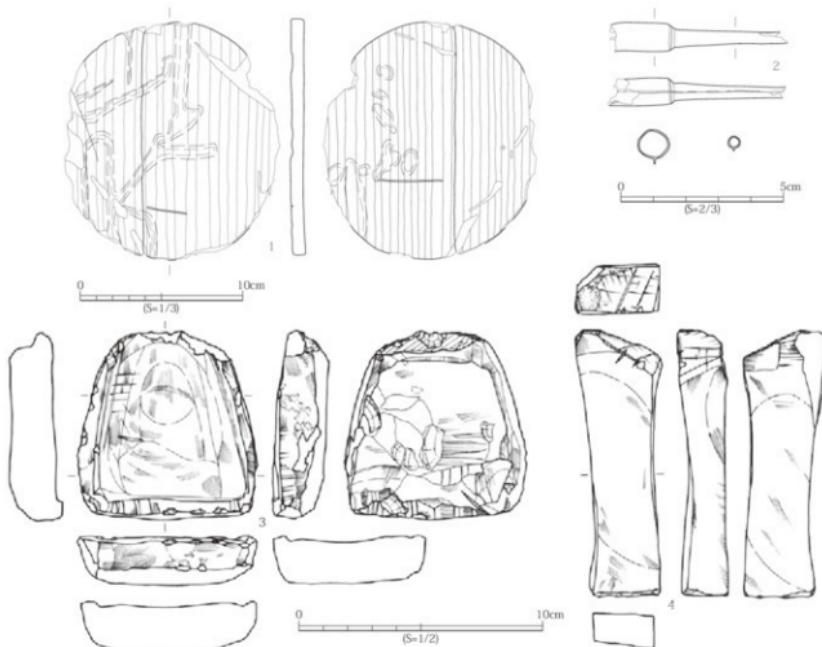
No.	種別	器種	遺構・相	産地	特徴	写真図版	寸法
1	陶器	壺	Ⅱ区西・縦造面	G14	D118 H16mm、内面：オホナ、13C～14C前	12-17	C-90
2	陶器	瓶	SD11・堆積土	丸瓶相馬	D107 H6mm、高台付31mm、器高44mm、灰釉、19C前	13-7	C-29
3	陶器	瓶	SI56・3相	丸瓶相馬	D107 H30mm、高台付34mm、器高43mm、灰釉、18C後～19C前	13-8	C-57
4	陶器	瓶	SI56・3相	丸瓶相馬	D107 H30mm、高台付31mm、器高43mm、灰釉	13-9	C-52
5	陶器	壺	Ⅱ区・確認面	瓶口・美濃	D118 H10mm、高台付47mm、器高76mm、灰釉	13-5	C-96
6	陶器	瓶	SI56・2相	瓶口・美濃	高台付42mm、灰釉	13-2	C-49
7	陶器	瓶	SI49・7相	瓶口・美濃	高台付50mm、灰釉	13-1	C-47
8	陶器	瓶	Ⅱ区西・カクラン	口径97mm、高台付57mm、器高98mm、灰釉	13-10	C-80	
9	陶器	瓶	SI74・3相	瓶口	高台付48mm、研毛口、灰釉、18C後	13-3	C-35
10	陶器	香炉	SI26・1相	瓶口・美濃	瓶口90mm、足3、目跡2、灰釉	13-6	C-40
11	陶器	切立	SE67・堆積土	灰釉		13-14	C-42
12	陶器	切立	SK86・1相	灰釉		13-13	C-28
13	陶器	折鉢	SE28・1～6相	瓶口・美濃?	瓶径136mm、外面：沈縮、内面：卯印、灰釉	13-17	C-41
14	陶器	香炉	SI56・3相	岸	足3、灰釉	13-11	C-50

第18-2図 中世・近世の遺物（陶器）



No.	施型	跡種	遺構／附	产地	特徴	写真回数	位置
1	施器	脚	SU01 / 高板上	肥前	口径 86mm、高台径 30mm、器高 52mm、二重脚口文、18C	14-2	C-30
2	施器	脚	SE61 / 12 层	肥前	口径 94mm、高台径 42mm、器高 52mm、二重脚口文、18C	14-3	C-62
3	施器	脚	P08 (SB180) / 杖抜取六	肥前	高台径 37mm	14-6	C-70
4	施器	脚	SE56 / 3 层	肥前	高台径 40mm、雪輪に草花文、高台内路、18C 前～中	14-5	C-58
5	施器	脚	SE56 / 3 层	肥込	高台径 57mm、見込板の月輪剥落、19C	14-10	C-61
6	施器	脚	II 区南 / II 层	肥前	口径 66mm、高台径 20mm、器高 66mm	14-1	C-80
7	施器	脚	II 区西 / カクラン	肥前	口径 80mm、高台径 51mm、器高 56mm、草文、19C 前	14-4	C-84
8	施器	脚	II 区南 / II 层	肥前	口径 90mm、高台径 68mm、器高 25mm、草花文、見込舟形花文（ヨンニヤケ判）、18C 中～後	14-15	C-81
9	施器	脚	II 区南 / II 层	肥前	高台径 45mm、草花文、見込舟形花文（ヨンニヤケ判）、高台内 ■■■成■■■制記 路、18C 中～後	14-18	C-82
10	施器	脚	SE56 / 3 层	肥前	口径 124mm、高台径 72mm、器高 35mm、草花文、18C 中～後	14-16	C-51
11	施器	脚	SE56 / 3 层	肥前	口径 112mm、高台径 34mm、器高 33mm、草花文？、見込板の月輪剥落、18C 前	14-12	C-59
12	施器	脚	SE56 / 3 层	肥前	口径 116mm、高台径 32mm、器高 35mm、草花文？、見込板の月輪剥落、18C 前	14-13	C-59
13	施器	脚	P111 (SB172) / 斜方理上	肥前	口径 118mm、高台径 38mm、器高 36mm、草花文？、見込板の月輪剥落、18C 前	14-14	C-71

第18-3図 近世の遺物（磁器）



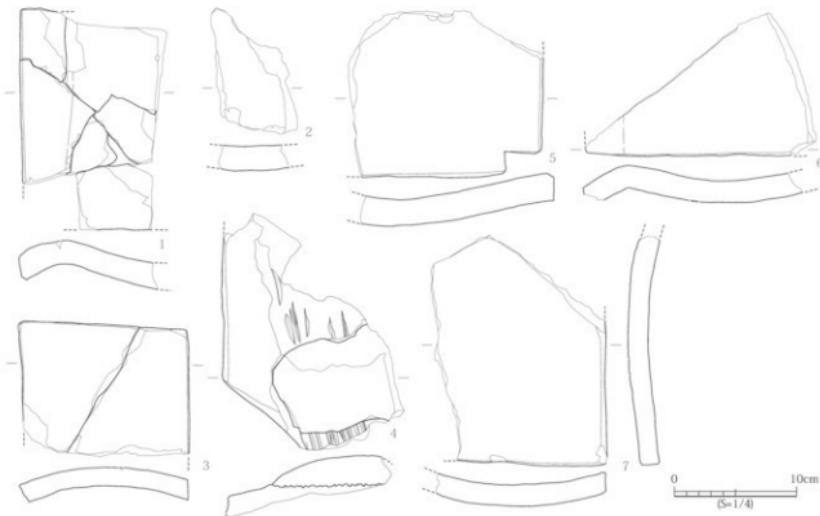
No.	種類	遺構 / 種	特徴	写真図版	②頁
1	器物 (灰軸)	SK30 / 27層	長さ144mm、厚さ7.3mm、13C前(AMSP)	15-3	W-15
2	骨管 (吸口)	SD11 / 遺構上	口径2.4~8.2mm、17C後	15-3	O-7
3	石瓶	P25(SB0154) / 離積上 瓦質板・海部灰、幅74.2mm、厚さ19.8mm、重量1706g、13C	瓦質板灰岩質、完形、長さ108.7mm、幅34.7mm、厚さ196mm、重量104.2g	15-1	S-3
4	砥石	II区(西面張) / Ⅱ層		15-2	S-15

第18-4図 中世・近世の遺物（木製品・金属製品・石製品）

近世の陶器は、SE28 井戸跡から瀬戸・美濃（推定）産擂鉢（第18-2図13）、SE49 井戸跡から瀬戸・美濃産碗（同図7）、SE56 井戸跡から大堀相馬産碗（同図3）や瀬戸・美濃産碗（同図4）、岸産香炉（同図14）、SE67 井戸跡から切立（産地不明、同図11）、SE96 井戸跡から瀬戸・美濃産香炉（同図10）、SD11 自然流路跡から大堀相馬産碗（同図2）、SK86 土坑から切立（産地不明、同図12）、SD74 溝跡から瀬戸産碗（同図9）、遺構確認面から瀬戸・美濃産碗（同図5）などが出土している。また小破片であるが、大窯期の美濃産陶器もわずかにみられる。磁器は、SE56 井戸跡から肥前産碗（第18-3図4）・皿（同図10～12）、切込産碗（同図5）SE61 井戸跡から肥前産碗（同図2）、遺構確認面などから肥前産碗（同図6）・猪口（同図7）・皿（同図8・9）などが出土している。

陶磁器以外では、SD11 自然流路跡から煙管（吸口）（第18-4図2）、遺構確認面から砥石（同図4）が出土している。

近世以降の瓦は、SE28 井戸跡（上層）から棟瓦、遺構確認面で袖瓦（第20-2図1）が出土している。古代の遺物には、瓦、土師器、須恵器、赤焼土器などがある。瓦は、丸瓦（第24図10・11）や平瓦（同



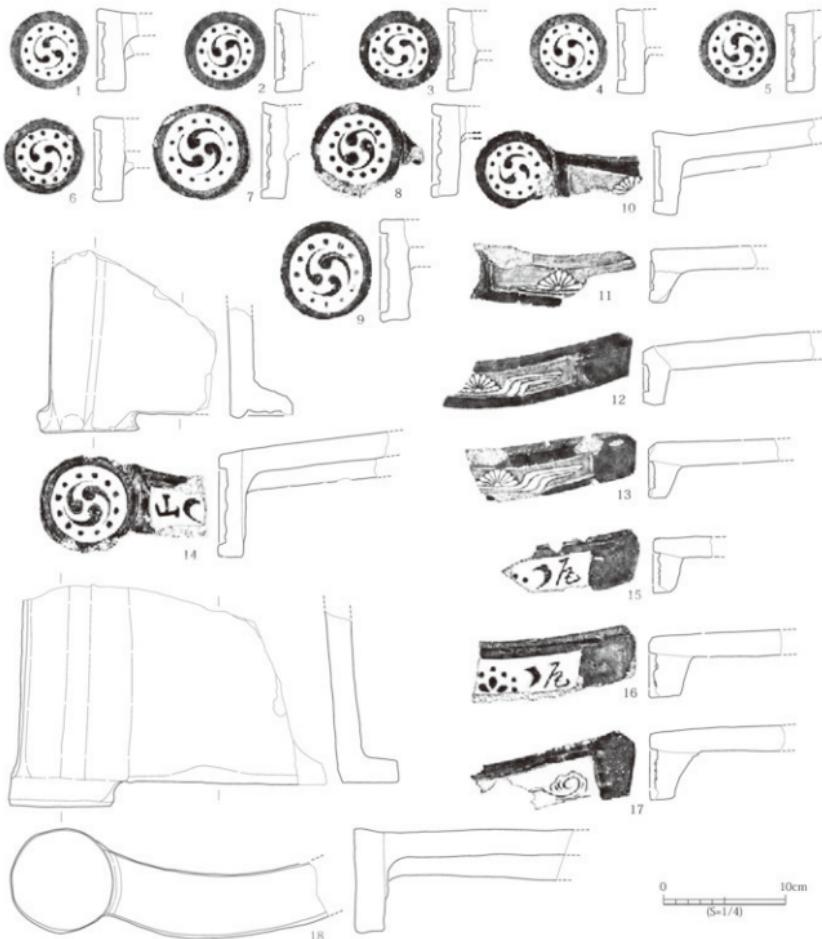
No.	種類	遺構 / 瓦	特徴	写真図版	位置
1	残瓦	SRS / 瓦上	長さ 1820mm、幅 116.8mm、厚さ 18.6mm、瓦列の北から 1 種目	17.1	T-32
2	残瓦	SRS / 瓦上	長さ 1050mm、幅 730mm、厚さ 20.1mm、瓦列の北から 2 種目	17.2	T-48
3	蟹牛足	SRS / 瓦上	長さ 1120mm、幅 111.0mm、厚さ 15.3mm、瓦列の北から 3 種目	17.3	T-65
4	鳥伏頭	SRS / 瓦上	長さ 1950mm、幅 150.0mm、厚さ 29.8mm、瓦列の北から 4 種目	17.4	T-66
5	残瓦	SRS / 瓦上	長さ 1590mm、幅 138.0mm、厚さ 22.2mm、反りが著しい、瓦列の北から 5 種目	17.5	T-51
6	残瓦	SRS / 瓦上	長さ 1170mm、幅 190.0mm、厚さ 17.5mm、瓦列の北から 6 種目	17.6	T-30
7	残瓦	SRS / 瓦上	長さ 1830mm、幅 155.0mm、厚さ 16.2mm、反りが著しい、瓦列の北から 7 種目	17.7	T-39

第 19 図 SR5 窯跡出土瓦

図 9) が出土している。これまで採集されたものと同様に、凸面に繩叩き痕、凹面に布目痕が見られる。須江瓦山 A 窯跡で製作された瓦は 8 世紀後半～後葉（中野ほか 1999）とされており、今回出土した古代瓦も同様の年代が推定される。

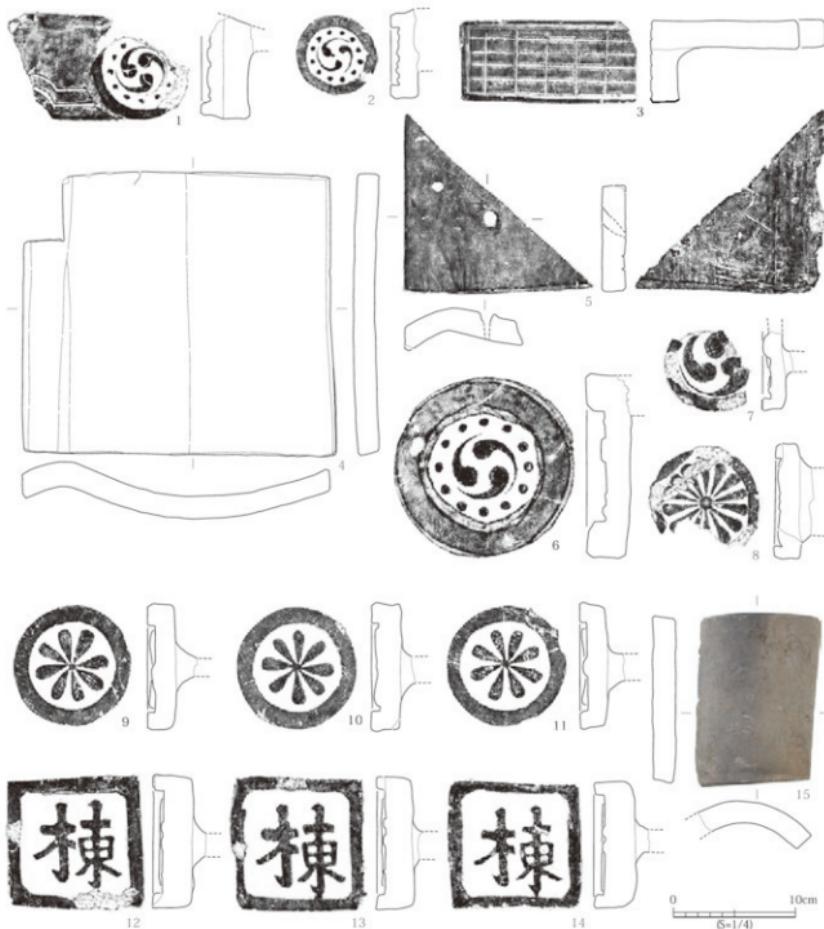
須恵器は、壺（第 24 図 1）や高台付壺（同図 4）、鉢（同図 2）、壺（同図 5～7）、甕（同図 3）が出土している。須恵器壺は、底部が回転糸切り無調整で、底径に対して口径が大きくなる器形であり、9 世紀代の特徴を有する。土師器は小破片のみの出土のため資料化していないが、非口クロ調整と口クロ調整の壺がみられる。ロクロ調整の壺の底部は回転糸切り無調整である。他に、赤焼土器耳皿（同図 8）が出土している。

縄文時代の遺物は、磨製石斧（第 25 図 1・2）や石皿（同図 6）、磨石（同図 3・5・7・8）、砥石（同図 4）などが出土している。磨製石斧には頁岩や粘板岩など近傍で採取できる石材が用いられている。なお、土器は出土していない。



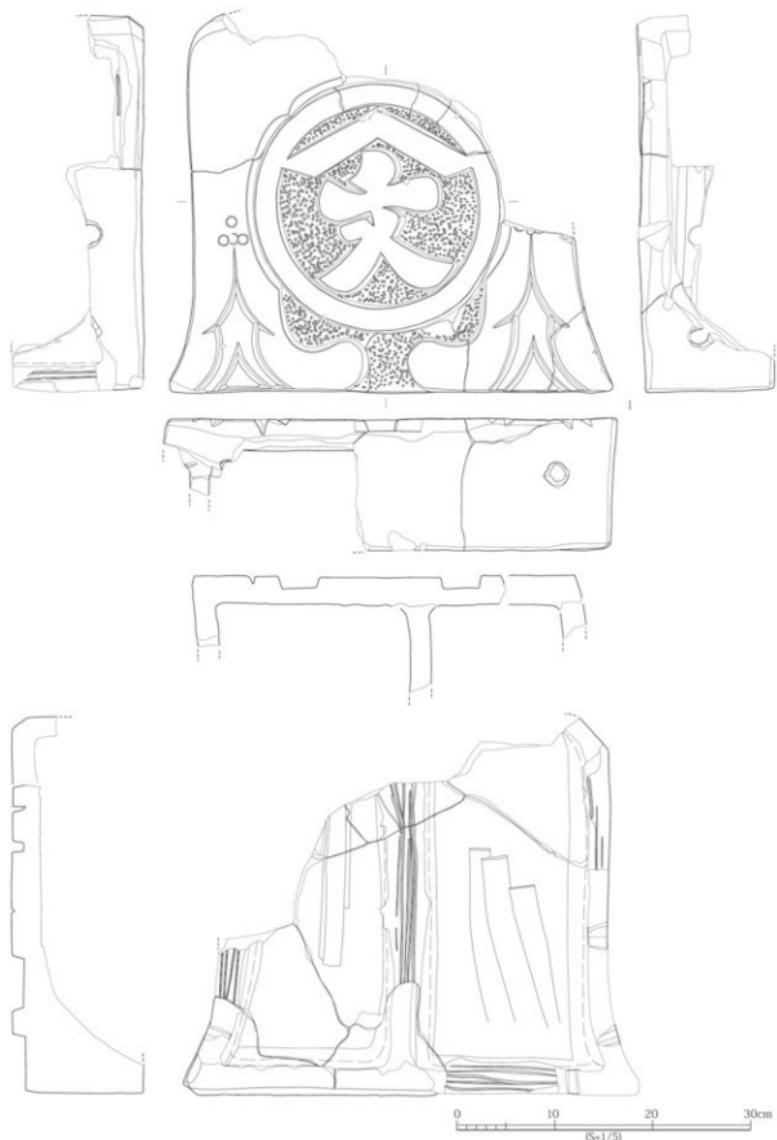
No.	種類	遺構 / 刃	特徴	写真図版	登録
1	瓦瓦	SK6 / 9 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 66.8mm、通珠二つ巴文	17.8	T.8
2	瓦瓦	SK6 / 9 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 67.5mm、通珠二つ巴文	17.9	T.57
3	瓦瓦	SK6 / 1 - 2 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 66.8mm、通珠二つ巴文	17.10	T.7
4	瓦瓦	SK7 / 3 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 67.2mm、通珠二つ巴文	17.11	T.10
5	瓦瓦	SK7 / 1 - 2 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 63.8mm、通珠二つ巴文	17.12	T.31
6	瓦瓦	SK7 / 1 - 2 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 67.2mm、通珠二つ巴文	17.16	T.11
7	瓦瓦	SK6 / 3 - 7 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 79.2mm、通珠二つ巴文	17.13	T.54
8	瓦瓦	SK7 / 1 - 2 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 63.8mm、通珠二つ巴文	17.14	T.13
9	瓦瓦	SK7 / 1 - 2 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 63.8mm、通珠二つ巴文	17.15	T.12
10	瓦瓦	SK6 / 3 - 7 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 66.6mm、通珠二つ巴文+斯文文	18.1	T.55
11	瓦瓦	SK6 / 9 瓢	瓦当面徑(軒平部) 65.5mm、荀水文	18.2	T.2
12	瓦瓦	SK6 / 9 瓢	瓦当面徑(軒平部) 67.2mm、荀水文	18.5	T.24
13	瓦瓦	SK6 / 9 瓢	瓦当面徑(軒平部) 63.8mm、荀水文	18.3	T.27
14	瓦瓦	SK51 / 1 - 3 瓢	通珠二つ巴文+「山」+仍单文	17.20	T.83
15	瓦瓦	SK51 / 5 瓢	仍单文+「丸」	17.17	T.29
16	瓦瓦	SK6 / 9 瓢	荀文+「丸」	17.18	T.59
17	瓦瓦	SK6 / 1 - 2 瓢	荀文	17.19	T.25
18	瓦瓦	SK69 / 1 瓢	瓦当面徑(軒丸部) 88.1mm、(軒平部) 55.4mm、石持(+無文)	17.21	T.34

第20-1図 瓦廐棄土坑はか出土瓦(1)



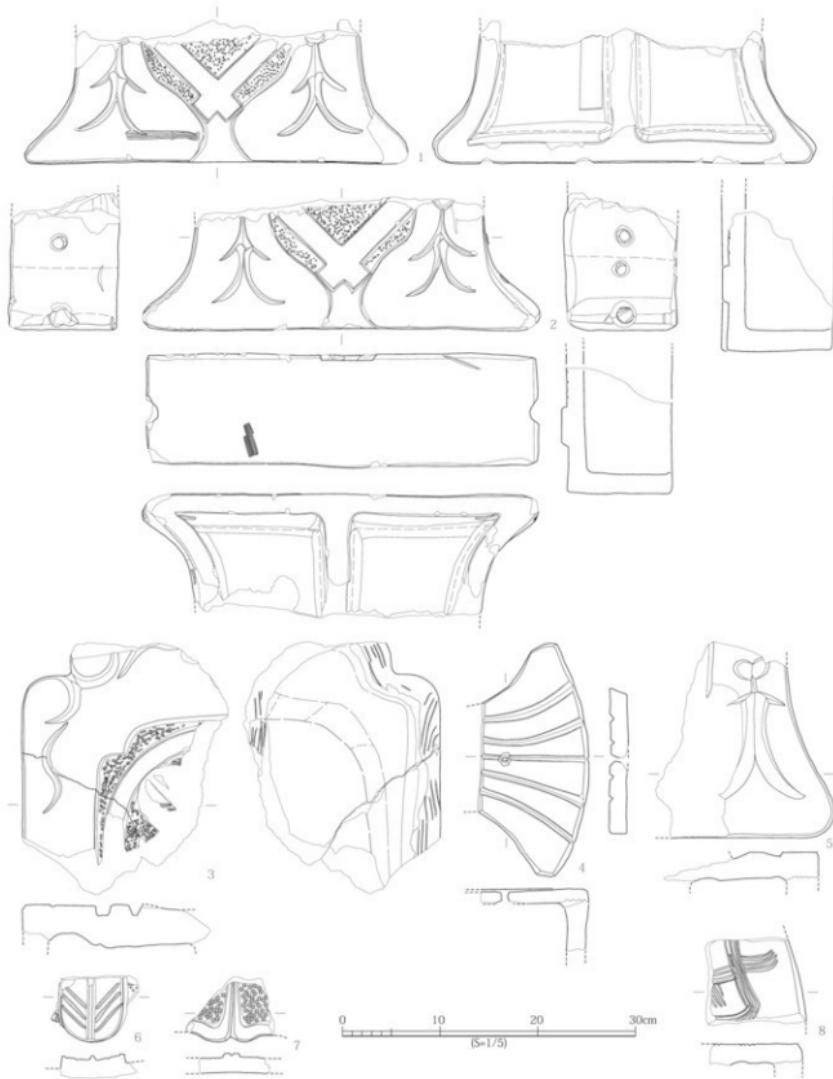
No.	種類	造様／寸	写真図版	寸目
1	瓦丸	日式西文三足 非抽瓦(左)、高さ88.8mm、通珠二つ巴文・沈面文	18-10	T-35
2	瓦丸	SK86 / 9号 非抽瓦(右)、瓦当面径68.5mm、通珠二つ巴文	18-11	T-9
3	瓦丸	SK86 / 9号 瓦8.144mm、高さ66.1mm、沈面文(格子目)	18-6	T-79
4	瓦丸	SK81 / 6・7号 足踏瓦丸、長さ255.0mm、幅235.0mm、厚さ18.1mm	18-20	T-37
5	瓦丸	SK86 / 1・2号 瓦9.152mm、幅153.5mm、厚さ18.0mm、直通丸2	18-19	T-69
6	瓦丸	SK86 / 9号 瓦当面径149.0mm、通珠二つ巴文	18-18	T-14
7	柳込丸	SK86 / 9号 二つ巴文	18-16	T-46
8	柳込丸	SK86 / 9号 瓦当面径94.7mm、菊花文	18-12	T-15
9	柳込丸	SK86 / 9号 瓦当面径101.8mm、菊花文	18-13	T-72
10	柳込丸	SK7 / 3号 瓦当面径102.8mm、菊花文	18-14	T-16
11	柳込丸	SK8 / 1号 瓦当面径101.5mm、菊花文	18-15	T-17
12	柳込丸	SK8 / 9号 瓦当面長106.3mm・幅111.1mm、「捺」	18-8	T-18
13	柳込丸	SK7 / 3号 瓦当面長108.4mm・幅109.6mm、「捺」	18-9	T-19
14	柳込丸	SK7 / 1・2号 瓦当面長104.1mm・幅109.5mm、「捺」	18-7	T-85
15	柳込丸	SK8 / 9号 輪違い、長さ133.5mm、厚さ15mm	18-17	T-20

第20-2図 瓦廐棄土坑ほか出土瓦(2)



No.	種類	直積 / 別	特 間	写真図版	◎題
1	丸瓦	SK6 / 9号	幅466mm、奥行133.8mm、尾号「丸にやま文」、内部に刺穴多数、内面ヘラナギ。側面に貫通孔4	19-1	T-96

第20-3図 瓦廐棄土坑ほか出土瓦(3)



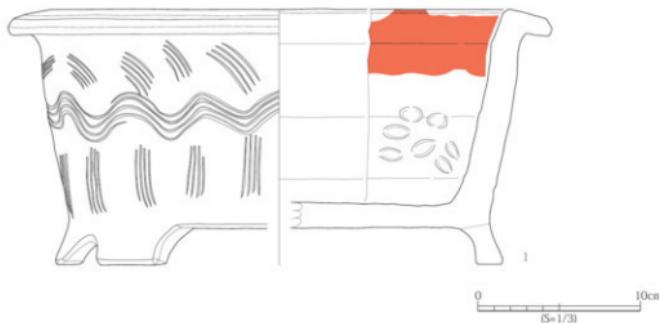
No.	規格	造形・絞り	特徴	写真図版	日誌
1	鬼瓦 SK6 / 9 線	幅395mm、奥行1136mm、尾号「舟形」、西面部に病変多數、内面ハラチテ		20.1	T-4
2	鬼瓦 SK6 / 9 線	幅408mm、奥行1153mm、尾号「舟形」、西面部に病変多數、側面に貫通孔5		20.2	T-5
3	鬼瓦 SK3 / 5 線	厚さ430mm、尾号「丸に造る・櫻の形」、内面に病変多數		20.3	T-88
4	鬼瓦 SK6 / 9 線	長さ228mm、厚さ180mm、沈縫5条、貫通孔1		20.4	T-71
5	鬼瓦 SK6 / 1・2 線	厚さ25.7mm		20.5	T-89
6	鬼瓦 SK3 / 5 線	造る・櫻の形」、内面に病変多數		19.3	T-78
7	鬼瓦 SK3 / 6・7 線	厚さ20.2mm、西面部に星形の病変多數		19.4	T-40
8	鬼瓦 SK7 / 1・2 線	厚さ189mm、《条1》の断面文		19.2	T-92

第20-4図 瓦廢棄土坑はか出土瓦(4)



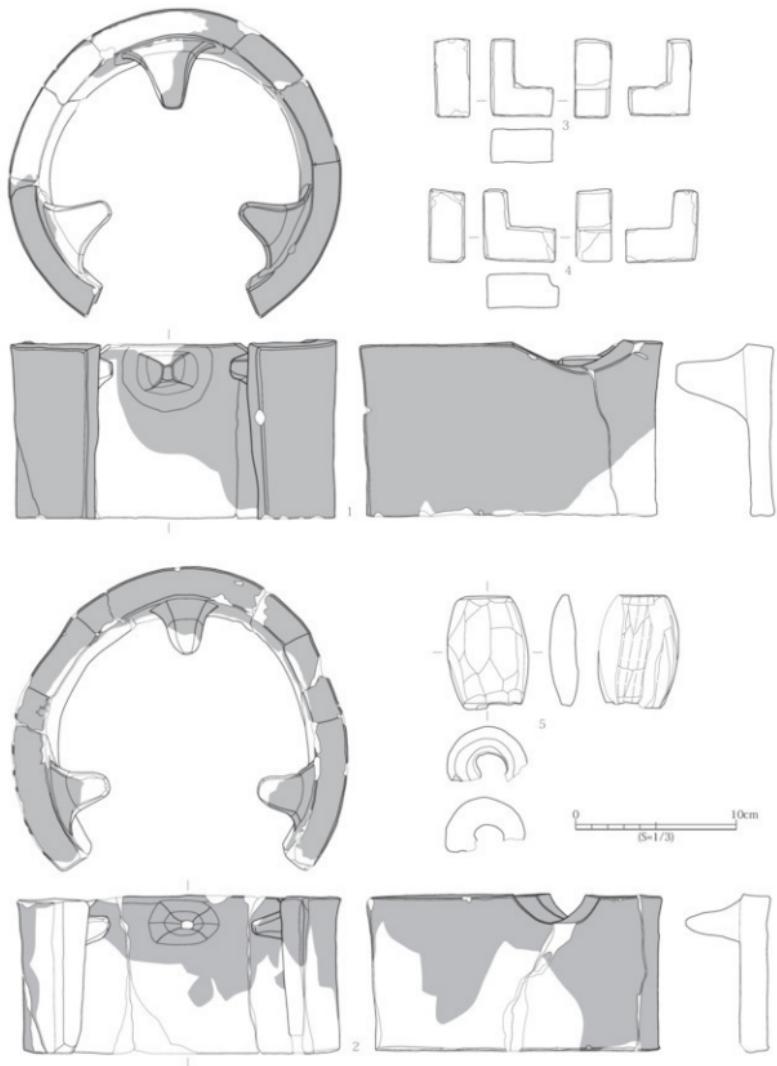
No.	種類	造形・層	特徴	写真図版	②図
1	神丸	SK7 / 1・2層	内斜弧肩丸、灰の織者多	20-7	T-81
2	神丸	SK6 / 9層	内斜丸	20-6	T-82
3	筒丸瓦	SK3 / 1・3層	幅69.3mm、厚さ19.1mm	20-10	T-67
4	筒丸瓦	SK3 / 4層	幅93.9mm、厚さ16.9mm	20-11	T-68
5	筒丸瓦	SK3 / 5層	幅120.6mm	21-1	T-90
6	筒丸瓦	SK8 / 1層		20-8	T-45
7	転用瓦	SK6 / 3・7層	丸瓦、厚さ20.2mm、織状の割み多	21-3	T-61

第20-5図 瓦廃棄土坑ほか出土瓦(5)



No.	種類	造形・層	特徴	写真図版	②図
1	瓦質土器(火鉢)	SK7 / 1・2層	口径282mm、底径260mm、高さ137mm。外側:4条1板の組み(板3・板2)。内側:オサ土、被熱痕	22-1	C-100

第21図 瓦廃棄土坑出土瓦質土器(赤色の塗りは被熱の範囲)



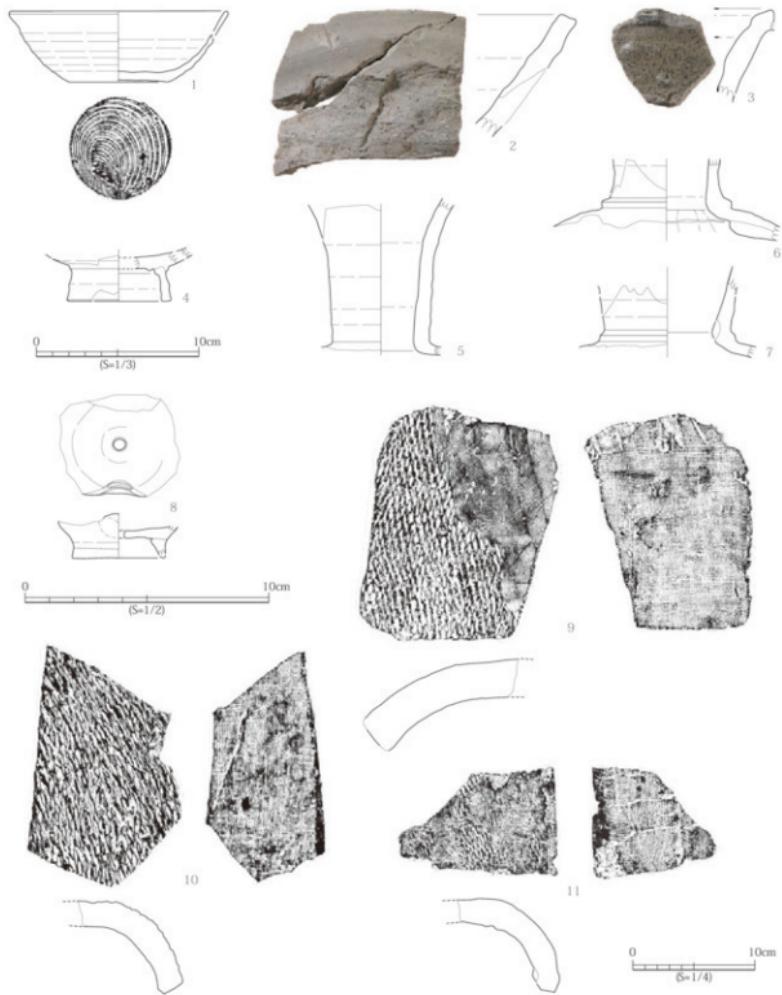
No.	種類	遺構 / 別	特徴	写真図版	位置
3	瓦質便器	SK7 / 3層	長さ 182mm、幅 202mm、高さ 108.8mm、厚さ 18.0mm	22.5	0.1
2	瓦質便器	SK6 / 1 ~ 8層 SK7 / 1 ~ 2層	長さ 180mm、幅 201mm、高さ 96.6mm、厚さ 19.7mm	22.6	0.2
3	窓道具(瓦質)	SK69 / 1層	長さ 47.9mm、幅 39.4mm、厚さ 22.0mm	22.2	0.6
4	窓道具(瓦質)	SK6 / 9層	長さ 44.2mm、幅 44.0mm、厚さ 21.4mm	22.3	0.4
5	瓦質土鉢	SK6 / 1 ~ 2層	長さ 67.6mm、幅 49.7mm	22.4	0.3

第 22 図 瓦廐棄土坑出土瓦質土製品 (アは炭素が付着している範囲)



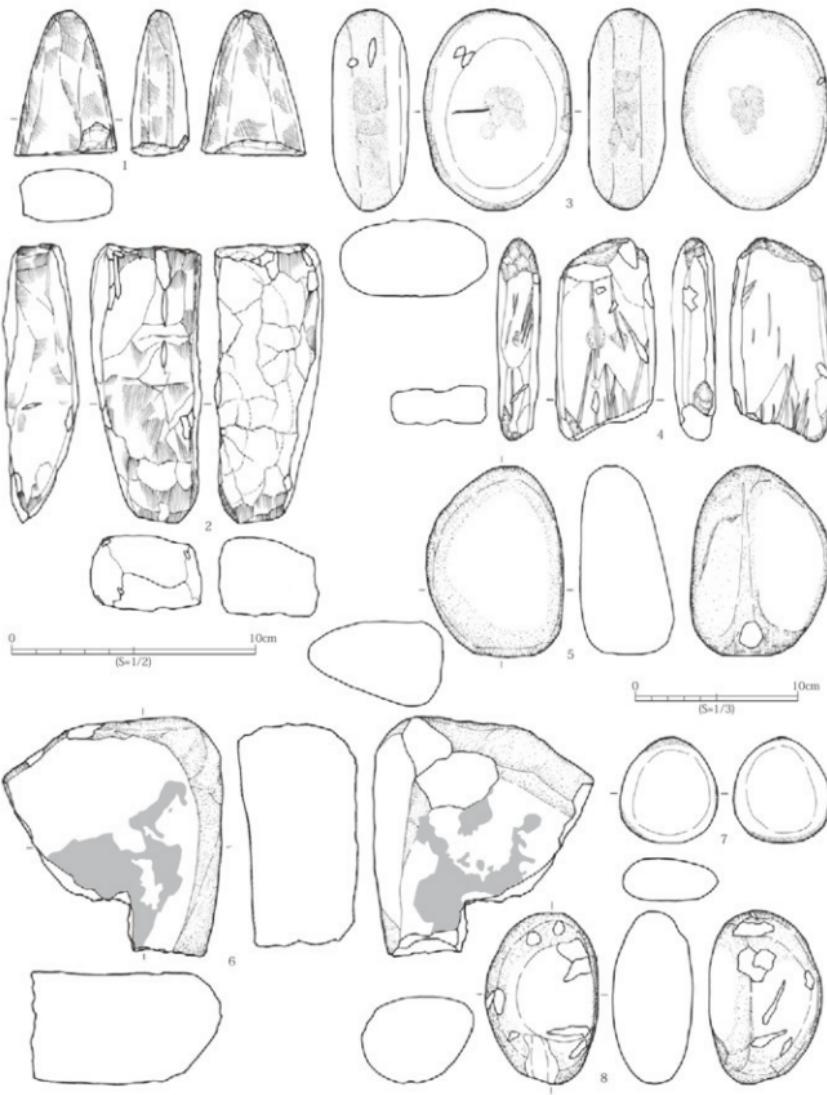
No.	器種	器形	遺構 / 制	実地	特徴	写真図版	登録
1	陶器	桂鉢	SK6 / 9層	呢?	印目、鉄軸	21.7	C-3
2	陶器	桂鉢	SK8 / 1層	呢?	注目あり、印目、鉄軸	21.6	C-11
3	陶器	土瓶	SK7 / 3層	大瓶相馬	底径68mm、灰釉	21.9	C-8
4	陶器	土瓶	SK7 / 1~2層	大瓶相馬?	底径76mm、足1、灰釉	21.8	C-7
5	陶器	土瓶	SK7 / 3層	大瓶相馬	口径78mm、底径66mm、器高90mm、把手2、鉄軸(灰軸)、19C後	21-10	C-90
6	磁器	皿	SK9 / 1層	肥前	高台径42mm、見込鉢の目録過ぎ、18C前	21-11	C-13
7	磁器	皿	SK51 / 1~3層	肥込	口径132mm、高台径84mm、器高31mm、目録4、当輪に掛文、見込千鳥文、19C中	21-12	C-24

第23図 瓦窯廬土坑出土陶磁器



No.	種別	器種	道標 / 冠	特徵	写真版	Q版
1	陶器器	片	SK10 / 10 ~ 20 瓢	口縁部～底部、底部：回転系切り無調整	23.1	P.7
2	陶器器	鉢	SE10 / 袋足	口縁部	23.2	P.1
3	陶器器	甕	SE16 / F型	口縁部	23.3	P.2
4	陶器器	高台付鉢	SE16 / 上層	底部～台部、底部：切り離し不明→ロクロナデ	-	P.6
5	陶器器	甕	SI26 / 6 瓢	底部	-	P.3
6	陶器器	甕	SD110 / 1 瓢	底部、内面：射いサエ	-	P.5
7	陶器器	甕	SK10 / 2 瓢	底部	23.4	P.4
8	木地土器	耳瓶	P53 (SH147) / 杖瓶跡	口縁部破損、底部：切り離し不明→ナデ、貫通孔1	23.5	P.8
9	瓦	平瓦	SE43 / 6 瓢	凸面：継ぎ目（今や斜め縫合方向）→ヘラケツリ（斜め縫合方向）、凹面：布目→一部射いナデ	23.8	T.1
10	瓦	丸瓦	SK10 / 2 瓢	凸面：継ぎき目（沿の縫合方向）→ナデ、凹面：布目	23.7	T.3
11	瓦	丸瓦	SK10 / 10 ~ 20 瓢	凸面：継ぎき目（沿の縫合方向）→ナデ、凹面：布目	23.6	T.2

第24図 奈良・平安時代の遺物



No.	種別	器種	遺構・附	特徴	写真版	寸法
1	石器	剥離石斧	I C 区 / II 磨	直刃鋸、基部のみ残存、厚さ 22mm、重量 90g	23-10	S-1
2	石器	剥離石斧	SK10 / 地植土	粘板岩製、完形、長さ 116mm、幅 45mm、厚さ 30mm、重量 198.9g	23-11	S-54
3	石器	剥離	III K 西 / II 磨	閃石→斑岩、安山岩質、完形、長さ 122.6mm、幅 90mm、厚さ 46mm、重量 499.5g	23-17	S-51
4	石器	研石	I C 区 / II 磨	碧玉→鈍石、麻栗石質、完形、長さ 124.6mm、幅 59.2mm、厚さ 25.2mm、重量 261.9g	23-12	S-40
5	石器	剥離	SK10 / 10 ~ 20 磨	安山岩質、完形、長さ 116mm、幅 840mm、厚さ 60mm、重量 464.7g	23-15	S-46
6	石器	石盤	III K 区 / II 磨	安山岩質、破片、厚さ 74.3mm、重量 1831.0g、使用面(両面)に炭化物付着	23-18	S-38
7	石器	剥離	III K / 碱化物	ダイサイト質、完形、長さ 65.0mm、幅 38mm、厚さ 27mm、重量 175.8g	23-14	S-41
8	石器	剥離	SK7 / 1 ~ 2 磨	安山岩質離石刃剣、完形、長さ 106.3mm、幅 67.8mm、厚さ 49.5mm、重量 445.5g	23-16	S-2

第 25 図 繩文時代の遺物 (アミは炭化物が付着している範囲)

## 第4章 総括

### 1. 遺構の特徴と年代

本調査では、瓦生産関連遺構（瓦窯跡1基、瓦廐棄土坑7基、焼け面1箇所）、掘立柱建物跡46棟、井戸跡14基、大型の土坑2基の他に、中・小型の土坑32基、溝跡17条、自然流路跡31条、ビットを多数検出した。遺構堆積土や出土遺物から、これらはすべて中世以降のものとみられる。以下に、これらの遺構について特徴と年代を考察する。なお、瓦生産関連遺構については第3節で述べる。

#### ①掘立柱建物跡

建物跡は、西側（4棟）、中央部（32棟）、東側（10棟）の3つの建物跡群に分かれれる。

中央部建物跡群は、柱穴の平面形が円形や楕円形を呈し、規模が径30～50cm程度である。建物の方向でみると、南面が東に向く一群（1群）と西に向く一群（2群）の2つ（1群→2群）に分けられ、2群はさらに4つ（A～D群）に細分される。柱穴の切り合いや建物の位置から、1群→2A群→2B・C群→2D群の変遷が考えられる。遺物は、SB158建物跡（2D群）から中世陶器の東海産擂鉢、SB154建物跡（2C群）から石硯が出土している。石硯は、風字もしくは台形を呈するなどの特徴から13世紀頃のものと推定される（水野 1985）。さらに、柱穴の形状や、柱穴から近世以降の遺物が出土していないことなどから、中央部建物跡群は中世の可能性が考えられる。

西側建物跡群は、柱穴の平面形が隅丸方形を呈し、規模が長軸60～90cm程度である。SB172建物跡の柱穴から18世紀前半の肥前産皿が出土していること、これよりも新しいSK69土坑が19世紀前半以降とみられる（後述）ことから、18世紀前半～19世紀前半の年代が考えられる（注1）。

東側建物跡群は、柱穴の平面形が円形や楕円形、隅丸方形を呈し、規模が長軸30～100cm程度である。建物の方向はいずれも南面が西に向くが、その角度からさらに3つの群（1～3群）に分けられる。柱穴の切り合いから、1群→2群→3群の変遷が考えられる。遺物は、柱穴から近世以降の磁器が出土しているが、年代を決定するものはない。建物跡の周辺から18世紀以降の近世陶器が多く出土しており、これらは18世紀以降の建物跡群の可能性が考えられる（注2）。また、3群に平行する溝跡が1960年代の開田工事直前の田面の区画と平行し、かつ、SD73溝跡の最上層が開田工事の造成時の盛土で、その直下の自然堆積層との境界から現代の遺物が出土していることから、3群については近現代まで時代が下る可能性もある。

#### ②井戸跡

14基検出した井戸跡のうち構造のわかるものには、素掘り（12基）と石組み（1基）がある。

素掘りの井戸跡はいずれも断面形が漏斗形や逆台形を呈するが、SE43とSE48井戸跡については、他の井戸跡と比べて底面深度が浅く、下方の円筒状の掘り込みも浅いという特徴を有する。SE43井戸跡から中世陶器の東海産擂鉢が出土しており、SE43・48井戸跡とも近世以降の遺物が出土していないことから、中世の可能性が考えられる。その他の井戸跡では、SE70井戸跡を除いて近世以降の陶磁器が出土しており、近世以降とみられる。遺物が出土していないSE70井戸跡は、断面形が本道跡で検出した近世以降の井戸跡に類似することから、同様の時期のものと考えられる。

石組みの井戸跡(SE12)は、陶磁器などが出土していないため詳細な時期は不明である。しかし、重複・近接する SK13 土坑や SD11 自然流路跡から近世以降の陶磁器や煙管が出土している。これらの遺構と SE12 井戸跡とはその位置関係から一連の遺構と考えられ、ほぼ同様の時期のものとみられる。

#### ③土坑

土坑には、大型の土坑（2基）と中・小型の土坑（32基）がある。

大型の土坑（SK10・13）は自然流路跡と重複する位置にあり、雨水や湧水の流入が起こりやすい場所につくられている。最大径が4.3m（SK13）と6.7m（SK10）で、深さが0.9m（SK13）と1.7m（SK10）あり、貯水するのに十分な規模であることから、井戸跡と同様の機能をもつ土坑とみられる。

SK10 土坑は、常滑産甕や東海産片口擂鉢、在地産壺・擂鉢・甕などの、12～13世紀代の中世陶器や、輸入磁器（青白磁梅瓶）などが出土し、近世以降の遺物が出土していないことから、中世（13世紀頃）のものとみられる。また、SK10 土坑から出土した曲物（底板）について、放射性炭素年代測定を実施したところ、13世紀前葉～中葉の年代値が得られている。

SK13 土坑は、下層で近世以降の陶磁器が出土していることから、近世以降のものとみられる。

中・小型の土坑は出土遺物から時期が特定できるものはなく、時期不明である。

#### ④溝跡・自然流路跡

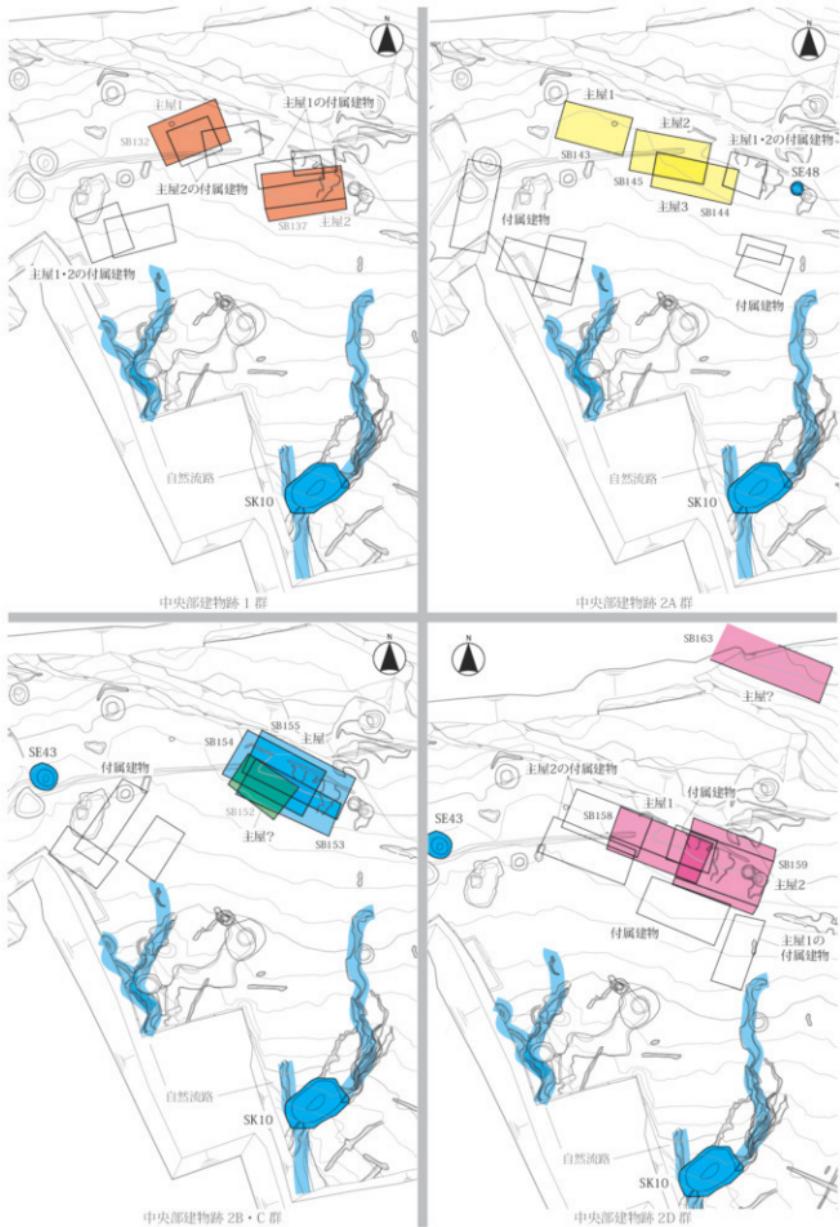
溝跡は、近現代の田面の区画や、人为的に形成された崖線に沿うように造られており、近現代のものと推定される。

自然流路跡は、調査区南西部で検出した SD22・25～27・29～32・42 と、SD14・17・19・20 自然流路跡がそれぞれ一連のものとみられる。前者については、SD26 自然流路跡から中世の東海産片口擂鉢が出土していること、また、いずれの遺構堆積土にも灰白色火山灰が見られず、さらに中世（13世紀頃）の遺構である SK10 土坑よりも古いことから、中世の自然流路跡と考えられる。後者については、SD14・20 自然流路跡から中世陶器が出土しており、近世以降の遺物の出土がないことなどから、中世の可能性がある。その他の自然流路跡については、SD11 自然流路跡が、近世以降と考えられる SK13 土坑よりも新しいことから近世以降と考えられる。

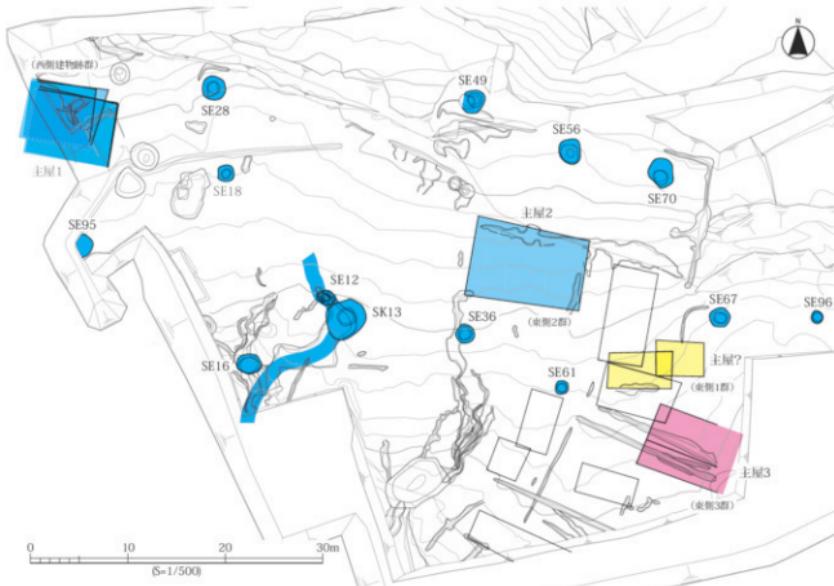
## 2. 中世以降における集落の様相

本遺跡では、中世以降の建物跡や井戸跡などで構成される集落跡を検出した。中央部建物跡群が中世、西側および東側建物跡群が18世紀以降と推定される。以下に、中世以降の集落の様相について検討する（第26-1図）。

中世の集落は中央部建物跡群とそれに伴う井戸跡や大型土坑などで構成される。建物跡に伴う遺構は、SE43・48 井戸跡および SK10 土坑が考えられるが、これらのうち、SK10 土坑はいずれの建物跡群にも伴う可能性があり、特定の時期に絞り込むことは困難である。最も古い1群の時期は、南面がやや東に向く主屋が2棟あり、少なくとも2段階の変遷が考えられる。2群の時期になると、主屋の南面はやや西に向くようになる。2A群の時期は主屋が3棟あり、3段階の変遷が考えられる。この時期以降になると、南北棟の付属建物が出現する。これに伴う井戸跡は SE48 井戸跡とみられる。



第 26-1 図 建物跡群の変遷（中世）（縮尺：1/500）



第26-2図 建物跡群の変遷（18世紀以降）

2B・C群の時期は主屋は4棟あるが、同じ場所での建て替えとみられ、4段階の変遷が考えられる。2D群の時期は主屋が少なくとも2棟あり、2段階以上の変遷が推定される。また、丘陵の上部にも同じ方向の建物が出現する。2B・C群および2D群に伴う遺構はSE43 井戸跡と考えられるが、特定の時期に絞り込むことは難しい。SE43とSE48 井戸跡は、断面がやや幅広の形状を呈し底面深度もやや浅いという点で、近世以降の井戸跡と異なる。

本遺跡から出土した中世の陶器は13世紀を中心とする年代に収まることから、中央部建物跡群からなる集落もこの時期を中心とした年代が考えられる。飯村均氏は、陸奥南部における鎌倉時代を中心とした掘立柱建物跡を主体とする集落は、屋敷地規模が400m<sup>2</sup>以上で主屋の規模が20m<sup>2</sup>を超え、複数の掘立柱建物跡で構成される特徴をもち、一定の階層以上の屋敷地である可能性を指摘している（飯村 2009）。本遺跡は、各時期とも屋敷地の規模が約500m<sup>2</sup>以上、主屋とみられる建物跡の規模が約22～45m<sup>2</sup>あり、さらに複数の建物跡で構成されることからこの条件に適合する。

また、この年代は『熊野新宮寺一切経』の奥書に記された年代（寛喜二年、1230年）にはほぼ合致する。当時瓦山には、熊野山新宮寺を本寺とする（伊3）別所があったとみられる。別所は11世紀前半頃に成立し、本寺を離れた僧侶や諸国遊行の聖の住む場所であり、在地の人々の教化・血縁の場所とされる（高木 1973）。今回の調査では仏教関連遺物の出土がないために別所と断定する根拠に乏しいが、一般的な農村では見られない石硯が出土していることや、一定の階層の屋敷地の可能性があることも

踏まえると、この集落が「瓦山別処」である可能性が考えられる。

18世紀以降の集落は、西側および東側建物跡群およびこれらに伴う井戸跡や大型土坑からなる（第26-2図）。西側建物跡群と、東側建物跡群2群の建物の方向や主屋の規模が類似することから、これらは同じ時期もしくは近い時期のものとみられる。したがって、東側1群→西側建物跡群・東側2群→東側3群の変遷となる。出土遺物や他の遺構との切り合いなどから、東側1群は18世紀前半、西側および東側2群は18世紀前半～19世紀前半、東側3群は19世紀前半以降の年代が考えられる。

### 3. 桟瓦の生産と関連遺構

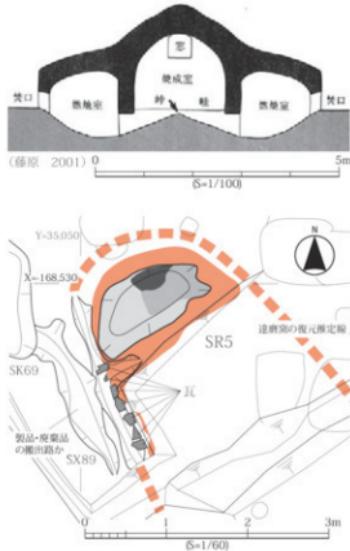
調査区の北西部で、瓦窯跡1基と瓦廃棄土坑7基、焼け面1箇所を検出した。これらの遺構やその周辺の遺構確認面、表土などから整理箱で300箱以上の瓦や窯構造材が出土している。これらはすべて瓦の生産に伴う遺構・遺物であり、出土した瓦はすべて桟瓦葺に用いられるものである。ここでは、検出した瓦窯跡と瓦廃棄土坑について検討し、桟瓦生産の様相と年代を検討する。

#### (1) 瓦窯跡

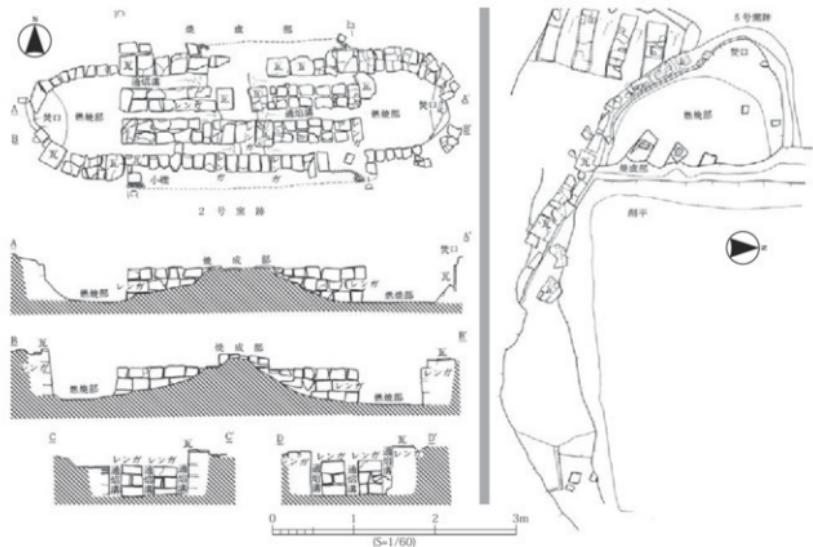
検出したSR5窯跡は、大半が削平されており、燃焼部とその西側にある瓦列のみが残存している。瓦列は、燃焼部西側に浅く掘り窪められた小溝を埋め戻したところに位置する。並べられた瓦には桟瓦や熨斗瓦、鳥伏間があるが、歪みが大きいものや破損したものを利用しており、本来廃棄すべき瓦を窯の構造材として転用したものと考えられる。燃焼部は平面形が不整な半円形を呈し、浅く掘り窪められている。硬化面は2枚あり、少なくとも瓦類の焼成が2度行わっていたとみられる（注4）。

以上の構造と形状から、SR5窯跡は「達磨窯」と推定される。一般的な達磨窯は、平面方形の「焼成室」が中央にあり、その下方の左右両側に焚口を設置した「燃焼室」を設ける構造を有する地上窯である（第27図、藤原 2001）。また、焼成室には2～4条の畦が作られ、通焰溝が設置される。SR5の燃焼部が達磨窯の「燃焼室」に、瓦列の一部が「焼成室」の一部に相当するとみられる。また、周辺の瓦廃棄土坑で多量に出土した煉瓦（写真図版16）が、窯や通焰溝を形成する煉瓦とみなすことができる。

SR5窯跡の本来の窯の規模は、長さ5m程度、幅2.8m程度と推定される。藤原学氏の集成によれば、発掘調査で検出された江戸時代末～明治時代の達磨



第27図 達磨窯の構造模式図（上）と  
SR5窯跡（下）



第28図 秋田県寺内焼窯跡で検出された達磨窯跡（秋田市教育委員会 1991より作成）

窯は、長さが4.3～6.0m、幅が1.25～2.6mの規模で、明治時代になると5mを超えるようになるとされている（藤原 前掲）。規模の点から、SR5窯跡はこの頃の達磨窯の可能性がある。

近隣の県の調査事例では、秋田県寺内焼窯跡で検出された瓦窯（達磨窯）跡（19世紀前半～後葉）の5号窯跡と形態や構造が類似する（第28図）。なお、本県では発掘調査による類例がない。

## （2）瓦廃棄土坑

瓦廃棄土坑は7基検出した。これらの規模から、1類：深さ0.7～0.9m程度の深い土坑（SK6・7・51・53）、2類：深さ0.1～0.3m程度の浅い土坑（SK8・9・69）の2つに分類される（第29図）。

1類は、炭化物を多く含む自然堆積土と、焼土や地山を多く含む埋土が混在する堆積状況である。前者は瓦の割合が大きいことから、瓦窯操業時に瓦等の不良品が廃棄された層とみられ、後者は煉瓦や粘土塊などの窯構造材や焼土が多くなることから、窯本体の廃絶時に窯壁等が廃棄された層とみられる。なお、窯本体の廃棄はSK51で最大2回認められる。また、これらの土坑は、不整な平面形を呈するものが多く、また土坑の掘削も、地山（Ⅲ層）の粘土層を掘り込むものの凝灰岩層上面で止まっている。これらは本来、粘土採掘坑とみられ、これを瓦廃棄土坑として転用したと考えられる。

2類は、自然堆積土のみの堆積状況である。瓦窯操業時に瓦の不良品等を廃棄した土坑とみられる。瓦廃棄土坑から出土した瓦はすべて桟瓦葺に用いられるものであり、桟瓦がその大部分を占める。また、軒瓦や袖瓦、棟瓦、棟込瓦、熨斗瓦、鬼瓦などの道具瓦も出土しており、土坑全体を通して見



遺構	層位	瓦		磚瓦		粘土塊		繩		計
		重量(kg)	割合(%)	重量(kg)	割合(%)	重量(kg)	割合(%)	重量(kg)	割合(%)	
SK6	1～8層	335.9	37.1	20.9	22.3	361.4	39.9	6.6	0.7	905.8
	9層	56.8	6.2	75.9	8.2	486.0	56.4	6.9	0.6	1231.2
	計	1035.7	27.8	130.0	37.9	810.0	33.5	0.6	2127.0	
SK7	1～2層	212.4	14.7	387.2	46.9	317.0	38.4	0.0	0.0	825.6
	3層	63.1	28.4	14.2	6.4	135.0	60.8	9.6	4.3	221.9
SK8	1～2層	184.2	17.6	409.4	38.3	432.0	43.2	9.6	0.9	1067.5
	計	304.0	64.6	84.4	10.8	192.0	24.6	0.0	0.0	780.0
SK9	1～2層	41.6	19.7	18.5	8.8	40.8	19.3	110.0	52.2	210.9
	3層	98.5	72.4	31.0	22.7	67.2	4.9	0.0	0.0	136.4
	計	100.0	0.0	65.0	0.0	108.0	0.0	0.0	0.0	0.0
SK51	3～7層	190.0	71.7	53.0	20.9	250.0	53.3	0.0	0.0	463.0
	8～9層	5.8	10.0	4.0	6.9	0.0	0.0	6.0	0.0	5.8
	計	195.8	72.4	57.1	20.6	250.0	57.0	0.0	0.0	460.6
SK53	1層	4.6	88.5	0.1	1.9	0.5	0.6	0.0	0.0	5.2
SK69	1層	107.2	89.5	0.0	0.0	12.0	10.5	0.0	0.0	119.8
合計		1719.8	42.9	790.3	19.7	1361.8	34.0	133.1	3.3	4007.0

第29図 瓦廃棄土坑の位置と出土した瓦・窯構造材の重量

ると、瓦屋根に必要な種類（坪井 1976・1977）はほぼ揃っている。なお、軒瓦や棟込瓦の瓦当面の文様はそれぞれ3種類程度で、多様性に富むものではない。

各土坑で、瓦や窯構造材の出土量やその割合を検討すると、特にSK6・7・9では瓦の占める割合が小さく（注5）、また、SK9では繩の占める割合が突出するなどの差異が認められる（第29図）。

瓦以外の遺物では、瓦質の火鉢や焜炉、土鍤、窯道具、また陶磁器などが出土している。なかでも、焜炉のうち1個はSK6とSK7から出土した破片が接合する（第22図2）。いずれも埋土からの出土であり、少なくとも窯廃絶時の窯構造材の廃棄は同時とみることが可能である。陶磁器は、在地産播鉢や大堀相馬産土瓶、肥前産碗・皿、切込産皿などがある。18世紀末～19世紀初頭にかけて生産が開始された大堀相馬産土瓶（関根 1998）や、19世紀前葉以降と考えられている切込窯の製品（芦

沢 1978) が含まれ、さらに、SK7 土坑の最下層から 19 世紀後葉～末期（明治時代中期）頃の駄馬追土瓶（野馬追の里原町市立博物館編 1999）が出土している。

### (3) 本遺跡における棟瓦生産の年代

瓦生産関連遺構の年代を検討すると、遺構の重複関係から、SK69 瓦廐棄土坑が 18 世紀前半以降と推定される西側建物跡群よりも新しい。また、瓦窯跡の規模から年代を絞り込むと、長さ 5m、幅 2.8m と推定される規模の瓦窯は、江戸時代末期以降の達磨窯の規模に近似する（藤原 前掲）。残存する窯跡の硬化面が 2 面であることや、瓦廐棄土坑に廐棄された窯構造材の廐棄回数が最大で 2 時期であることから、長期間営まれた可能性は小さい。

出土した遺物を検討すると、瓦廐棄土坑出土の陶磁器は 19 世紀代の遺物が主体となるが、SK7 土坑最下層の瓦廐棄層（操業時）から明治時代中頃の遺物が出土している。遺物の接合関係から SK7 土坑は SK6 土坑と同時期のものとみられる。これら 2 基の遺物総量は瓦廐棄土坑全体の 79% を占め、瓦生産の中心となる時期の土坑と考えられる。

以上から、本遺跡の棟瓦生産の年代は、明治時代中頃を中心とした時期に位置づけられる（注6）。

## 4.まとめ

1. 標高 12 ～ 18m の丘陵緩斜面で、瓦窯跡 1 基、瓦廐棄土坑 7 基、掘立柱建物跡 46 栋、井戸跡 14 基、大型の土坑 2 基、中・小型の土坑 32 基、溝跡 17 条、自然流路跡 31 条、ビット多数などを検出した。また、本調査区の南側では、古代以降の沢跡 1 条、時期不明の沢跡と溝跡を 1 条ずつ発見した。
2. 掘立柱建物跡には、中世を中心とした時期の建物跡群と 18 世紀以降の建物跡群がある。前者は調査区中央部、後者は調査区西側および東側に位置する。
3. 中世を中心とした時期の建物群およびそれに伴う遺構は、大別 4 時期の変遷が捉えられる。これらは 13 世紀を中心とした時期に位置づけられる。屋敷地や主屋の規模などから一定の階層以上の屋敷地である可能性が考えられ、また、『熊野新宮寺一切経』による「瓦山別処」の記述の年代に一致することから、この集落は別所の可能性がある。
4. 18 世紀以降の遺構群は、遺構の重複関係や出土遺物から大別 3 時期の変遷が捉えられる。
5. 調査区の北西部で、棟瓦生産に関連する遺構群を検出した。瓦窯跡 1 基と瓦廐棄土坑 7 基あり、瓦廐棄土坑から瓦 1.7t、煉瓦 0.8t、粘土塊 1.4t、礫 0.1t の計 4t の瓦および瓦窯の構造材が出土した。
6. 瓦窯跡はその形状や構造から、中世以降の瓦窯の一つである「達磨窯」とみられる。瓦窯跡の規模や、瓦廐棄土坑出土の陶磁器から、これらは明治時代中頃を中心とする遺構と考えられる。
7. 出土遺物には、中世以降の遺物として、中世陶器（東海、在地）、輸入磁器、近世陶磁器（大堀相馬、瀬戸・美濃、肥前、切込など）、木製品（曲物）、金属製品（煙管、玉はか）、石製品（硯・砥石）、瓦、瓦質土器（火鉢）、瓦質土製品（土鍤はか）がある。また、古代以前の遺物として、縄文石器（石斧・石皿・磨石）、土師器・須恵器・赤焼土器などの土器類、瓦などが出土している。
8. 須江瓦山 A 窯跡は奈良・平安時代の瓦・須恵器窯跡として広く知られているが、今回の調査では、

中世以降の集落の様相や、近代の棟瓦生産の様相が明らかになった。

- 注1 SB170B 建物跡の柱材（P137）の放射性炭素年代測定では、17世紀後葉～20世紀前業。なかでも18世紀前半～19世紀後葉の年代値が得られている。
- 注2 SB180 建物跡の柱材（P25・30）とSB189 建物跡の柱材（P2）の放射性炭素年代測定では、前者（2点）が17世紀中頃～18世紀後葉、後者が17世紀後半～20世紀中頃のうち18世紀後半の可能性が最も大きい年代値が得られている。
- 注3 岩手県立大学盛岡短期大学部教授畠山慶信氏のご教示による。
- 注4 2枚の焼面に挟まれた、炭化した土壌の放射性炭素年代測定では、15世紀中頃～後半の年代値が得られており、棟瓦の生産年代と整合しない結果となった。しかし、土壌を採取した焼け面における被熱の痕跡（土壌の赤色化）は、隣接する瓦列直下の埋土まで及んでおり、また、その埋土中から、本調査出土の棟瓦と同様の胎土や焼成の瓦（バワ）が出土している。したがって、この焼け面は瓦窯の燃焼部とみなすことができる。
- 注5 瓦塊棄土坑出土遺物のうち、瓦・煉瓦・瓦についてすべて回収したが、粘土塊のうち小さいものについては一部回収しなかったものもある。したがって、実際に粘土塊の重量や割合が表の値よりも大きくなる。
- 注6 「日本瓦業総観」（井上編 1927）では、昭和2年当時須賀地区に瓦工場が存在した記載がなく、この項には採業を終えたとみられる。

#### 【引用・参考文献】

- 秋田市教育委員会 1991 「寺内焼窯跡」
- 由田町史編纂委員会（編） 1988 「由田町史 古窯編」 由田町
- 飯村 均 2009 「中世奥羽のムラとマチ 考古学が語る別島」 東京大学出版社
- 石巻市教育委員会 2000 「新山崎道路」 石巻市文化財調査報告書第8集
- 伊東信雄 1936 「秋の踏査記（下）」「仙臺郷土研究」6-13 仙臺郷土研究會
- 井上 要（編） 1927 「日本瓦業総観」 日本瓦業社監修行会
- 江戸道跡研究会（編） 2001 「江戸考古学研究事例」 柏書房
- 大橋康二 1989 「肥前陶磁」 考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社
- 加藤 晃・金子 智 1990 「御殿下記念館地点、山上会館地点出土の瓦について」 「東京大学本郷構内の道路 山上会館・御殿下記念館地点」 東京大学理学文化財調査室発掘調査報告書4
- 河南町教育委員会 1988 「須江椎塚跡」 河南町文化財調査報告書第1集
- 河南町教育委員会 1993a 「須江窯跡群 代官山道路」 河南町文化財調査報告書第6集
- 河南町教育委員会 1993b 「須江窯跡群 関ノ入道路」 河南町文化財調査報告書第7集
- 河南町教育委員会 2000 「関ノ入道路・長者路」 河南町文化財調査報告書第10集
- 河南町教育委員会 2004 「関ノ入道路」 河南町文化財調査報告書第13集
- 河南町史編纂委員会（編） 2005 「河南町史 上巻」 河南町
- 須江の教育百年史編集委員会（編） 1983 「須江の教育百年誌」 須江の教育百年史発行実行委員会
- 佐藤 洋 2009 「須賀においては庶民向け陶磁器の生産と流通」 「江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通 関東・東北・北海道編」 九州近世陶磁学会
- 岡根達人 1998 「相馬藩における近世窯業生産の展開」 「東北大学埋蔵文化財調査年報」 10
- 鶴川市史編纂委員会（編） 1998 「鶴川市史 陶磁史篇六」 鶴川市
- 芹沢長介（編） 1978 「切込」 東北大学文部部考古学研究会
- 芹沢長介ほか 1981 「日本やきもの集成」 北海道・東北・関東 平凡社
- 高木 豊 1973 「平安時代法華仏教史研究」 平楽寺書店
- 鴻沢文教ほか 1984 「右巻地域の地質」 地域地質研究報告(5万分の1図幅) 通商産業省工業技術院地質調査所
- 坪井利弘 1976 「日本の瓦屋根」 理工学社
- 坪井利弘 1977 「岡山瓦屋根」 理工学社
- 東北中世考古学会 2003 「中世奥羽の土器・陶磁器」 高志書院
- 東北歴史資料館（編） 1980 「名取新宮寺一切経調査報告書」 東北歴史資料館資料II
- 東北歴史資料館（編） 1993 「宮城県の瓦職」 東北歴史資料館資料集34
- 中野裕平ほか 1999 「須江窯跡群の窯業生産開始について—山窯跡出土の瓦をめぐって—」 「右巻文化センター調査研究報告」 5
- 柄崎彰一ほか 1980 「日本やきもの集成3 鶴戸 美濃 飛驒」 平凡社
- 柄崎彰一ほか 1982 「日本やきもの集成2 東海・甲信越」 平凡社
- 野馬追の里原町市立博物館（編） 1999 「相馬のやきものー収蔵資料を中心としてー」
- 藤沼邦彦 1976 「宮城県地方の中世陶器窯跡〔予察〕」 「東北歴史資料館研究紀要」 2
- 藤沼邦彦 2010 「水沼窯 伊豆沼窯 三本木窯 白石窯」「古陶の譜 中世のやきものー六古窯とその周辺ー」 MIHO MUSEUM
- 藤原 学 2001 「浅茅窯の研究」 学生社
- 水野和雄 1985 「日本石炭考—出土品を中心として—」 「考古学雑誌」 第70卷第4号 日本考古學會
- 宮城県教育委員会 1996 「一本杉窯跡」 宮城県文化財調査報告書第172集
- 宮崎町教育委員会 1990 「切込窯跡—近世磁器窯跡の調査—」 宮崎町文化財調査報告書第3集

## 付章 須江瓦山 A 窯跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

須江瓦山 A 窯跡は、宮城県石巻市須江字釜ほかに所在する。測定対象試料は、SR5 窯跡硬化面 A 直上採取土壌（No.1 : IAAA-112350）、同硬化面 B 直下採取土壌（No.2 : IAAA-112351）、P137 柱痕跡（SB170B 建物跡）出土木片（No.3 : IAAA-112352）、P2 柱痕跡（SB189 建物跡）出土木片（No.4 : IAAA-112353）、P25 柱痕跡（SB180 建物跡）出土木片（No.5 : IAAA-112354）、P30 柱痕跡（SB180 建物跡）出土木片（No.6 : IAAA-112355）、SK10 土坑 17 層出土木片（No.7 : IAAA-112356）の合計 7 点である（表 1）。

SR5 窯跡の燃焼部では 2 枚の硬化面が認められ、A が古く、B が新しいと捉えられている。試料 No.1 が採取された硬化面 A 直上と、No.2 が採取された硬化面 B 直下は同一層と見なされる。いずれも土壌に含まれる黒味の強い部分を試料とした。P137 は SR5 と同時期と考えられる SK69 土坑の直下に位置する。No.3～6 の木片は柱穴の柱痕跡から出土した柱材、No.7 の木片は曲物の底板と考えられる木製品から、各々残存する最外年輪の部分を採取した。

### 2 測定の意義

No.1、2 の測定により、瓦窯の使用年代を明らかにする。No.3 の測定では、瓦窯以前の建物跡の年代および瓦窯の年代を検討する。No.4～7 の測定では、試料が出土した造構の年代を確認する。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ビンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸・アルカリ・酸（AAA : Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常  $1\text{mol/l}$  (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 ( $\text{CO}_2$ ) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 4 測定方法

加速器をベースとした  $^{14}\text{C}$ -AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、 $^{14}\text{C}$  の計数、 $^{13}\text{C}$  濃度（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）、 $^{13}\text{C}$  濃度（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の  $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からの差を千分偏差 (‰) で表した値である（表1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と記す。
- (2)  $^{14}\text{C}$  年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中  $^{14}\text{C}$  濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}\text{C}$  年代は  $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示す。 $^{14}\text{C}$  年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$  年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}\text{C}$  濃度の割合である。pMC が小さい ( $^{14}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 ( $^{14}\text{C}$  の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示す。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の歴年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは 2標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下1桁を丸めない  $^{14}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示す。历年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

## 6 測定結果

SR5 窯跡採取土壌の  $^{14}\text{C}$  年代は、硬化面 A 直上の No.1 が  $390 \pm 20\text{yrBP}$ 、硬化面 B 直下の No.2 が  $390 \pm 20\text{yrBP}$  である。2点の値は誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲でよく一致し、ほぼ同年代を示しており、同一層とされることを整合する。历年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、No.1 が  $1448 \sim 1610\text{cal AD}$ 、No.2 が  $1450 \sim 1610\text{cal AD}$  の間に各々 2つの範囲で示される。近接する瓦廐棄土坑から明治時代頃の遺物が出土し、SR5 も同時期と推定されるに比べて古い値となった。試料の炭素含有率はいずれも 1 ~ 2% で、土壌としておおむね適正な範囲の値であるが、測定された炭素の由来も含めて慎重に結果を考察する必要がある。

柱穴内の柱痕跡から出土した木片の  $^{14}\text{C}$  年代は、P137 の No.3 が  $140 \pm 20\text{yrBP}$ 、P2 の No.4 が  $190 \pm 20\text{yrBP}$ 、P25 の No.5 が  $200 \pm 20\text{yrBP}$ 、P30 の No.6 が  $240 \pm 20\text{yrBP}$  である。历年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、

No.3 が 1681 ~ 1938cal AD、No.4 が 1664 ~ 1952cal AD、No.5 が 1662 ~ 1953cal AD、No.6 が 1649 ~ 1794cal AD の間に各々複数の範囲で示される。1  $\sigma$  では No.6 の曆年代範囲が他の 3 点に比べて古い方に偏るが、2  $\sigma$  で見ると 4 点とも似通った範囲となる。No.3 が出土した P137 は明治時代頃の遺物が出土した瓦廐棄土坑の直下で検出されており、No.3 の年代値はこのことに矛盾しない。

SK10 土坑 17 層出土木片 No.7 の  $^{14}\text{C}$  年代は  $820 \pm 20\text{yrBP}$ 、曆年較正年代（1  $\sigma$ ）は 1215 ~ 1256cal AD の範囲である。同じ遺構から 13 世紀と見られる中世陶器などが出土していることと整合的な結果と言える。

本片 No.3 ~ 7 の炭素含有率はすべて 50% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

#### （文献）

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19(3), 355-363  
 Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(I), 337-360  
 Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

表 1

測定番号	試料名	遺構 / 層	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C} (\text{‰})$	$\delta^{13}\text{C}$ 調正あり	
					(AMS)	Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-II2350	No.1	SH5 / 硬化油 A 直上	土壤	HCl	-27.62 $\pm$ 0.52	390 $\pm$ 20	95.23 $\pm$ 0.28
IAAA-II2351	No.2	SH5 / 硬化油 B 直下	土壤	HCl	-23.58 $\pm$ 0.71	390 $\pm$ 20	95.28 $\pm$ 0.27
IAAA-II2352	No.3	P137 (SB1708) / 柱根跡	木片	AAA	-28.23 $\pm$ 0.45	140 $\pm$ 20	98.30 $\pm$ 0.28
IAAA-II2353	No.4	P2 (SB1809) / 柱根跡	木片	AAA	-29.51 $\pm$ 0.53	190 $\pm$ 20	97.61 $\pm$ 0.28
IAAA-II2354	No.5	P25 (SB1809) / 柱根跡	木片	AAA	-25.72 $\pm$ 0.47	200 $\pm$ 20	97.57 $\pm$ 0.27
IAAA-II2355	No.6	P30 (SB1809) / 柱根跡	木片	AAA	-29.98 $\pm$ 0.51	240 $\pm$ 20	97.10 $\pm$ 0.29
IAAA-II2356	No.7	SK10 / 7 層	木片	AAA	-23.80 $\pm$ 0.72	820 $\pm$ 20	90.32 $\pm$ 0.27

表 2

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 調正なし		曆年較正 (yrBP)	1 $\sigma$ 曆年代範囲	2 $\sigma$ 曆年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-II2350	440 $\pm$ 20	94.72 $\pm$ 0.26	392 $\pm$ 23	1448calAD - 1890calAD (81.2%) 1603calAD - 1610calAD (17.9%)	1441calAD - 1521calAD (79.4%) 1591calAD - 1620calAD (16.9%)
IAAA-II2351	370 $\pm$ 20	95.55 $\pm$ 0.24	388 $\pm$ 23	1450calAD - 1891calAD (69.8%) 1603calAD - 1610calAD (8.4%)	1442calAD - 1522calAD (69.1%) 1576calAD - 1593calAD (1.0%) 1599calAD - 1622calAD (8.2%)
IAAA-II2352	190 $\pm$ 20	97.65 $\pm$ 0.26	138 $\pm$ 22	1691calAD - 1697calAD (9.8%) 1725calAD - 1763calAD (66.7%) 1802calAD - 1815calAD (7.4%) 1835calAD - 1878calAD (21.4%) 1917calAD - 1938calAD (3.0%)	1672calAD - 1700calAD (55.9%) 1717calAD - 1779calAD (25.2%) 1798calAD - 1890calAD (8.1%) 1906calAD - 1948calAD (0.6%)
IAAA-II2353	270 $\pm$ 20	96.71 $\pm$ 0.26	194 $\pm$ 23	1764calAD - 1860calAD (0.79%) 1764calAD - 1801calAD (35.3%) 1939calAD - 1952calAD (0.59%)	1735calAD - 1806calAD (31.0%) 1930calAD - 1954calAD (20.1%)
IAAA-II2354	230 $\pm$ 20	97.42 $\pm$ 0.26	197 $\pm$ 22	1662calAD - 1690calAD (0.76%)	1654calAD - 1684calAD (21.7%)
IAAA-II2355	330 $\pm$ 20	96.11 $\pm$ 0.27	236 $\pm$ 23	1764calAD - 1800calAD (0.45%) 1909calAD - 1953calAD (0.62%)	1735calAD - 1806calAD (32.4%) 1932calAD - 1954calAD (19.8%)
IAAA-II2356	800 $\pm$ 20	90.54 $\pm$ 0.23	818 $\pm$ 23	1649calAD - 1663calAD (0.4%) 1786calAD - 1794calAD (21.8%)	1690calAD - 1677calAD (66.0%) 1767calAD - 1800calAD (32.6%) 1900calAD - 1953calAD (6.7%)

(参考値)

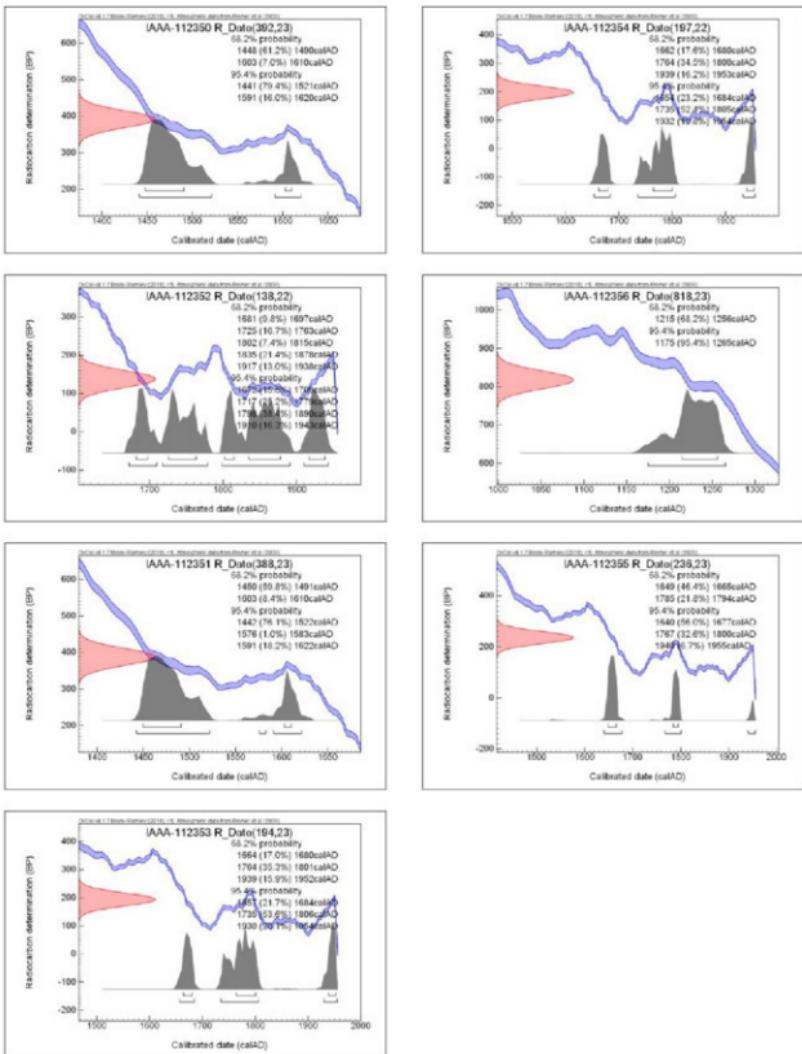


図 1 (参考) 歴年較正年代グラフ

# 写 真 図 版



発掘調査区全景（東から）



発掘調査区全景（南東から）

図版 1 調査区全景 (1)



発掘調査区西側（南から）



発掘調査区東側（南西から）

図版2 調査区全景（2）



中央部建物跡群（東から）



P14 柱穴断面（SB145 建物跡）



P15 柱穴（SB155 建物跡）



P18 ほか柱穴断面（SB159・161 建物跡）



P108 柱穴断面（SB171 建物跡）



P111 柱穴遺物出土状況（SB172 建物跡）



P137・106 ほか柱穴断面（SB170B・172 建物跡）



P137 柱穴柱材棟出状況（SB170B 建物跡）



P25 柱穴断面（SB180 建物跡）



P31 柱穴断面（SB180 建物跡）



P31 柱穴根石棟出状況（SB180 建物跡）



P23 柱穴柱材・礎石棟出状況（SB180 建物跡）

図版 3 挖立柱建物跡



SE12・16 井戸跡、SK13 土坑と自然流路跡（南西から）



SE16 井戸跡、SD14・17・19・20 自然流路跡（南から）



SE16 井戸跡断面（南西から）



SE16 井戸跡（南西から）

図版 4 SE12・16 井戸跡、SK13 土坑、SD14・17・19・20 自然流路跡



SE12 井戸跡（南西から）



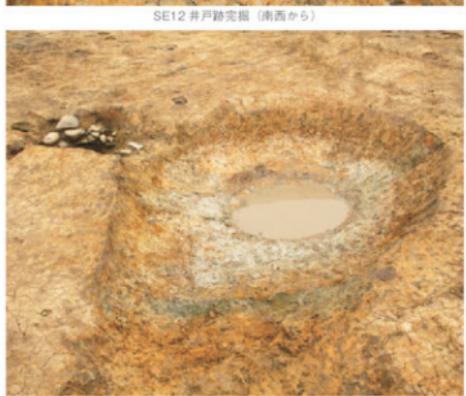
SE12 井戸跡断面（南西から）



SE12 井戸跡完掘（南西から）



SE12 井戸跡石組み（南から）



SK13 土坑（南西から）



SE12 井戸跡石組みの支柱？



SK13 断面（南西から）

図版 5 SE12 井戸跡、SK13 土坑



SE43 井戸跡断面（南から）



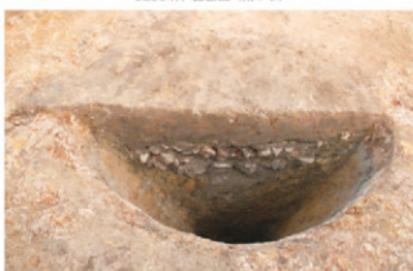
SE43 井戸跡（南から）



SE36 井戸跡断面（南から）



SE36 井戸跡（北東から）



SE56 井戸跡断面（西から）



SE56 井戸跡（西から）



SE96 井戸跡断面（西から）



SE96 井戸跡（西から）

図版 6 SE36・43・56・96 井戸跡



SK10 土坑と自然流路跡（西から）



SK10 土坑、SD24 自然流路跡断面（西から）



SD25・26 自然流路跡断面（南から）



SD26・27・29・31 自然流路跡断面（東から）



SD26・27・29～32 自然流路跡断面（南から）

図版 7 SK10 土坑、SD24～27・29～32 自然流路跡



瓦生産関連遺構（北西から）



SR5 窯跡（南西から）



SR5 窯跡表面（南から）



SR5 窯跡（北東から）



SR5 窯跡燃焼部断面（北西から）



SR5 窯跡燃焼部断面（南東から）

図版 8 SR5 窯跡



SR5 宮跡、SK69 土坑 (北東から)



SK69 土坑完掘 (北から)



SK6 土坑断面 (南西から)



SK6 土坑完掘 (北から)



SK6 土坑断面 (南東から)

図版9 SK6・69 土坑



SK7 土坑断面（南西から）



SK7 土坑完掘（北西から）



SK51 土坑断面（南東から）



SK51 土坑完掘（北から）



SK9 土坑棟出状況（北西から）



SK9 土坑断面（東から）



SKB 土坑棟出状況（北から）



SK8 土坑断面（南から）

図版 10 SK7～9・51 土坑



平成 22 年度確認調査区全景（東から）



南側第 2 トレンチ SD200 沢路（北西から）



南側第 6 トレンチ SD200 沢路（南東から）



南側第 4 トレンチ SD200 沢路（南から）



南側第 4 トレンチ SD200 沢路断面（東から）

図版 11 平成 22 年度確認調査



1: P71, 2, 12, 17: B18西, 3-5, 7, 13, 15, 16: SK10, 6: IC区, 8, 14: SE36, 9-10: SD30, 11: IA区, 13: SD97

(1-17: S=1/3)

図版12 中世の遺物（陶磁器）



1: SE49, 2: 8-9, 11-12, 15: SE56, 3: SD74, 4: SE16, 5: II 4c, 6: SE96, 7: SD11, 10: II 4c, 13: SK96, 14: SE67, 16: SE36, 17: SE28

(1-17: S=1/3)

図版 13 近世の遺物（陶器）



(1-18. S=1/3)

1, 9, 15, 18: II区南, 2: SD11, 3: SE61, 4, 17: II区西, 5, 7, 10, 12-13, 16: SE56, 6: P68, 8: I C 区, 11, 14: P III (SB172)

図版 14 近世の遺物（磁器）



図版 15 中世～近代の遺物（石製品・金属製品・木製品・柱材・礫）



瓦窯跡土坑から出土した瓦・瓦質土器・土製品



瓦窯跡土坑から出土した瓦



瓦窯跡土坑から出土した瓦質土器・土製品



瓦窯跡土坑から出土した煉瓦・粘土塊



SR5 宮跡瓦列

図版 16 瓦窯跡と瓦窯跡土坑出土瓦・瓦質土器・土製品・煉瓦・粘土塊



1-7: SR5, 8-10, 13, 18-19: SK6, 11-12, 14-16: SK7, 17, 20: SK51, 21: SK69

図版 17 SR5 窯跡および瓦廃棄土坑出土瓦

21  
(1-21: S=1/4)



1,3,5,6,8,11-13,15-19: SK6,4,7,9,14: SK7,10: II K西,14: SK8,20: SK51

図版 18 瓦廃棄土坑ほか出土瓦

(1-20: S=1/4)



1a



1b



2



3



4

(1-4: S=1/4)

1.4: SK6, 2: SK7, 3: SK51

図版 19 瓦廐棄土坑出土瓦



图版 20 瓦窑出土瓦



(1-4: S=1/4, 5: S=1/2, 6-12: S=1/3)

1, 12: SK51, 3, 4, 7: SK6, 2, 5, 8-10: SK7, 6: SK8, 11: SK9

图版 21 瓦磨聚土坑出土瓦·陶磁器·石製品



1-6: S=1/3

1, 5: SK7, 2: SK69, 3, 4: SK6, 6: SK6, 7

図版 22 瓦窯棄土坑出土瓦質土器・土製品



1, 4, 6, 7, 11, 15: SK10, 2: II区南, 3: SE16, 5: P53 (SBI47), 8: SE43, 9: P57, 10, 12: I C区, 13: SD11, 14, 18: II区K, 16: SK7, 17: II区西

図版23 繩文時代、奈良・平安時代の遺物

## 報告書抄録

ふりがな	すえかわらやま A かまとと					
書名	須江瓦山 A 窯跡					
副書名						
巻次						
シリーズ名	宮城県文化財調査報告書					
シリーズ番号	第229集					
編著者名	小野章太郎（編）・武田裕光・濱中一道					
編集機関	宮城県教育委員会					
所在地	〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町 3-8-1 TEL: 022-211-3685 FAX: 022-211-3693					
発行年月日	西暦 2012 年 3 月 26 日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	世界測地系 道路番号	北緯	東経	調査期間 調査面積 調査原因
須江瓦山 A 窯跡	いしのまきし 石巻市 須江字釜	04202	69002	38 度 28 分 50 秒	141 度 14 分 8 秒	2010. 08. 03 ～ 2011. 01. 23 2011. 07. 04 ～ 12. 01 5,600m <sup>2</sup> 東北電力株式会社石巻 変電所 154/66kV 主要 変圧器設置工事に伴う 発掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
須江瓦山 A 窯跡	散布地	縄文 奈良・平安			石器・石製品 土師器・須恵器・赤焼 土器・瓦	
	集落跡	中世 近世	掘立柱建物跡 46 棟 井戸跡 14 基 大型土坑 2 基	中世陶器 青磁・青白磁 近世陶磁器 木製品 金属製品 石製品		中世：13 世紀を中心とした集落跡 近世：18 世紀以降の集落跡
	窯跡・ 集落跡	近代	瓦窯跡 1 基 瓦廐棄土坑 7 基	瓦 瓦質土器 瓦質土製品 窯道具 陶磁器		明治時代中頃を中心とした棧瓦の生産遺跡
要約	<p>須江瓦山 A 窯跡は、宮城県石巻市須江字釜ばかりに所在し、北上川下流域の独立丘陵上に位置する。今回の調査で、瓦窯跡 1 基、瓦廐棄土坑 7 基、掘立柱建物跡 46 棟、井戸跡 14 基、土坑 34 基、溝跡 17 条、自然流路 31 条などを検出した。</p> <p>建物跡とそれに伴う遺構群は大別 2 時期認められ、13 世紀を中心とした時期と 18 世紀以降の遺構群がある。前者はさらに 4 時期に細分される。特に中世の遺構群は、『熊野新宮寺一切經』における「瓦山別処」に比定される可能性がある。</p> <p>棧瓦生産に関連する遺構群は瓦窯跡と瓦廐棄土坑からなり、瓦窯跡は達磨窯の一部と考えられる。棧瓦の生産年代は、明治時代中頃を中心とした時期とみられる。</p> <p>出土遺物には、中世陶器（東海、在地）、輸入磁器（青磁・青白磁）、近世陶磁器（大堀相馬、瀬戸・美濃、肥前、切込）、曲物（底板）、煙管、石硯、砥石などがある。また、棧瓦生産に関連する遺物として、瓦、瓦質の火鉢、焜炉、土鍤、窯道具などが出土した。他の時代の遺物は、奈良・平安時代の瓦や土師器・須恵器・赤焼土器、縄文時代の石斧や石皿、磨石などがある。</p>					

---

宮城県文化財調査報告書第229集

## 須江瓦山 A 窯跡

平成24年3月21日印刷

平成24年3月26日発行

発行 宮城県教育委員会  
仙台市青葉区本町三丁目8番1号

---